

学際基礎科目・人文科学系			
哲学思想史 a		佐野 好則	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ>西洋古代中世の哲学思想史を概観する。			
<到達目標> 各哲学者の思想を他の哲学者の思想との関連に注目して理解する。神学の背景としての哲学の重要性を認識する。			
<授業の概要>講義とディスカッションを通して、各哲学者の思想の特徴や相互の関連性を検討する。			
<履修条件>学部 1，2 年を主な対象学年とする。			
<授業計画> 第 1 回 哲学の始まり：ヘシオドスの神話的思考からミレトス派の哲学的思考への発展を考察する。 文献：ヘシオドス『神統記』、アリストテレス『形而上学』（授業内にテキスト配布） 第 2 回 タレス、アナクシマンドロス、アナクシメネス：ミレトス派の自然哲学を考察する。 文献：タレス断片、アナクシメネス断片、アナクシメネス断片(授業内にテキスト配布) 第 3 回 ピタゴラス派、ヘラクレイトス、パルメニデス：ミレトス派自然哲学の展開を考察する。 文献：ピタゴラス派断片、ヘラクレイトス断片、パルメニデス断片(授業内にテキスト配布) 第 4 回 エムペドクレス、アナクサゴラス、原子論：パルメニデスの影響下の自然哲学の展開を考察する。 文献：エムペドクレス断片、アナクサゴラス断片、原子論断片(授業内にテキスト配布) 第 5 回 ソフィスト達とソクラテス：人間を中心とするソクラテスの哲学とその背景を考察する。 文献：作者不明『両論』、プラトン『ソクラテスの弁明』『ゴルギアス』（授業内にテキスト配布） 第 6 回 プラトン(1)：イデア論の基盤を哲学諸派との関連に注目して考察する。 文献：プラトン『メノン』、『パイドン』、『国家』（授業内にテキスト配布） 第 7 回 プラトン(2)：イデア論の展開を考察する。 文献：プラトン『パルメニデス』、『ティマイオス』（授業内にテキスト配布） 第 8 回 アリストテレス(1)：実体論の基盤をプラトンの哲学との関連に注目して考察する。 文献：アリストテレス『形而上学』（授業内にテキスト配布） 第 9 回 アリストテレス(2)：実体論の展開、倫理学を考察する。 文献：アリストテレス『政治学』、『ニコマコス倫理学』（授業内にテキスト配布） 第 1 0 回 ストア派、エピクロス派：ヘレニズム哲学における新しい傾向の哲学諸派を考察する。 文献：ストア派断片、エピクロス『メノイケウス宛の手紙』（授業内にテキスト配布） 第 1 1 回 プロティノス：ローマ時代におけるプラトン派哲学の展開を考察する。 文献：プロティノス『エンネアデス』（授業内にテキスト配布） 第 1 2 回 アウグスティヌス(1)：新プラトン主義の影響を中心に考察する。 文献：アウグスティヌス『告白』、『教師論』（授業内にテキスト配布） 第 1 3 回 アウグスティヌス(2)：哲学的諸概念の神学的応用を考察する。 文献：アウグスティヌス『告白』、『神の国』（授業内にテキスト配布） 第 1 4 回 アンセルムス、トマス・アキナス：スコラ哲学における哲学諸派の受容を考察する。 文献：アンセルムス『モノロギオン』、トマス・アキナス『神学大全』（授業内にテキスト配布） 第 1 5 回 総括			
<準備学習等の指示> 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 各哲学者による著作の抜粋を読み、内容について検討しておくことが予習として課される。			
<テキスト>テキストとなる各哲学者の著作の抜粋を毎回配布する。			
<参考書・参考資料等>以下のような概説書を授業と並行して各自読むことを推奨する。 納富信留『ギリシア哲学史』筑摩書房、2021 年 熊野純彦『西洋哲学史、古代から中世へ』岩波新書、2006 年			
<学生に対する評価（方法・基準）>出席が 2/3 に満たない者は評価の対象としない。評価は授業でのディスカッションへの参加とレポート提出により、各哲学者の思想の理解、および相互の関連性の理解の到達度を基準とする。 評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～⑤の内容を重視する。			

学際基礎科目・人文科学系		
哲学思想史 b	矢嶋 直規	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 近代ヨーロッパ哲学・倫理学宗教哲学の主要なテーマを、信仰と教会形成をめぐる議論として考察し、キリスト教の思想的理解を深める。		
<到達目標> 近代ヨーロッパにおけるキリスト教の歴史の理論的背景ともいえる主要な哲学思想を単に文化史としてではなく、哲学そのものの学びとして習得する。主要哲学者の理論をキリスト教信仰と関連づけて理解し、それを自身の言葉で説明できるようになる。		
<授業の概要> デカルト、スピノザ、ライプニッツ、ホッブズ、ロック、バークリ、ハチソン、バトラー、ヒューム、カント、キュルケゴールなどの哲学・倫理思想をとりわけキリスト教信仰に関連付けて概観する。		
<履修条件> 特にもうけません。		
<授業計画> 第1回 近代哲学概観 第2回 ホッブズの道徳論 第3回 ホッブズの国家論 第4回 ホッブズの宗教論 第5回 ロックの認識論 第6回 ロックの国家論 第7回 ロックの宗教論 第8回 デカルトとスピノザの神概念 第9回 ライプニッツの弁神論 第10回 バトラーの啓示宗教擁護と理神論批判 第11回 ヒューム哲学とキリスト教 第12回 ヒュームの自然宗教批判 第13回 キュルケゴールの宗教哲学 第14回 キュルケゴールの宗教哲学その2 第15回 まとめ、近代哲学から現代哲学へ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 毎回の授業の復習に力を入れること。毎回前回の授業についての質疑を行う。		
<テキスト> 毎回の授業の前に配布もしくは指定する。		
<参考書・参考資料等> 宗像 恵 (著)、中岡 成文 (著)、『西洋哲学史 近代編—科学の形成と近代思想の展開』、ミネルヴァ書房、1995。 Steven M. Emmanuel, <i>The Blackwell Guide to the Modern Philosophers: From Descartes to Nietzsche</i> (Blackwell Philosophy Guides) 1991.		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業では毎回の授業への貢献を60%、小レポートと最終レポートを40%として評価する。また評価にあたっては、共通評価指標(1)②の内容を重視する。		

学際基礎科目・人文科学系		
キリスト教と世界史 a	小宮 正安	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 「ヴンダーカンマー」（珍品収集室／驚異の部屋）を切り口に、ルネッサンスからバロックにかけてのヨーロッパの諸相を学びます。		
<到達目標> ヨーロッパ近世（ルネッサンス、バロック、ロココ）から近代にかけてのキリスト教文化の変遷やヨーロッパの文化の特質を理解できることとします。		
<授業の概要> 近世ヨーロッパを席卷した「ヴンダーカンマー」（珍品収集室／驚異の部屋）の変遷を辿りながら、当時の宗教観や宇宙観について芸術史、科学史、社会史等を織り交ぜることで、近世から近代にかけてのヨーロッパの社会や文化の奥底に渦巻くものを学んでゆきます。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 博物館とコレクションの歴史について 概論 第2回 ルネッサンスの再検証とヴンダーカンマーの誕生 第3回 ルネッサンスの宇宙観と聖書的世界観 第4回 メディチ家に見るコレクション保護政策 第5回 マニエリスムの誕生とヴンダーカンマーの変容 第6回 皇帝ルドルフの魔術的世界観とヴンダーカンマー 第7回 アルチンボルドとヴンダーカンマー的コレクション 第8回 キルヒャーと「キルヒャー博物館」 第9回 「自然科学」の萌芽に見る「近代的博物館」の予兆 第10回 バロックにおけるヴンダーカンマーの潇洒化 第11回 近代の訪れとヴンダーカンマーの解体 第12回 ヴンダーカンマーと博物館の差異 第13回 シュールレアリストたちによるヴンダーカンマー再発見 第14回 ヴンダーカンマーと博物館 各価値観の止揚 第15回 総論・まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とします。 事前にテキストを読み、また前回の内容を理解するために復習しておいてください。		
<テキスト> 愉悅の蒐集 ヴンダーカンマーの謎（小宮正安著 集英社新書）初回授業時に教員が指示します。		
<参考書・参考資料等> 授業の中で教員が指示します。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度、およびレポートを総合的に見て評価します。評価にあたっては、共通評価指標（1）に基づいて行います。		

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目選択換算			
キリスト教と芸術 2 音楽史 a		渡辺 善忠	＜担当形態＞ 単独
前期・2 単位		＜登録条件＞通年の受講をお勧め致します。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 神の救いの御業が旧約聖書の時代から現代まで音楽によって伝えられてきた歴史を学びます。			
＜到達目標＞ 旧約聖書時代（ユダヤ教）から初代教会～宗教改革時代の教会にかけて、神の救いの御業が音楽によって伝えられてきた歴史を辿ることによって、日本の教会における音楽の役割を考察することを目標とします。			
＜授業の概要＞ ユダヤ教～初代教会～16 世紀の教会の音楽史について、講義と CD 鑑賞によって学びます。			
＜履修条件＞ 礼拝と音楽の関わりを大切に考える方、牧師の基礎的な教養として音楽に親しみたい方、奏楽者や聖歌隊と良き交わりを築きたい方の履修を歓迎致します。			
＜授業計画＞ 第 1 回 キリスト教音楽史概説（定義づけ、神学と音楽の関わり等） 第 2 回 旧約聖書時代の音楽①～古代から第一神殿時代にかけてのユダヤ教の音楽～ 第 3 回 旧約聖書時代の音楽②～第二神殿時代のユダヤ教から初代教会にかけての音楽～ 第 4 回 グレゴリオ聖歌とプロテスタント教会①～グレゴリオ聖歌の成立～ 第 5 回 グレゴリオ聖歌とプロテスタント教会②～グレゴリオ聖歌の発展～ 第 6 回 ミサ曲の成立と発展①～音楽史的側面～ 第 7 回 ミサ曲の成立と発展②～礼拝様式との関わりについて～ 第 8 回 オラトリオの成立と発展～音楽史的側面～① 第 9 回 オラトリオの成立と発展～聖書朗読からコンサート音楽へ～② 第 10 回 レクイエムの成立と発展（15 世紀～現代） 第 11 回 宗教改革直前の時代教会音楽 第 12 回 宗教改革時代の教会音楽 第 13 回 旧約時代から宗教改革時代の音楽と讃美歌①～聖書と讃美歌の関わり～ 第 14 回 旧約時代から宗教改革時代の音楽と讃美歌②～現代の教会における讃美歌～ 第 15 回 旧約聖書の時代から宗教改革時代までの教会音楽の発展と評価			
＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 受講者の方々の理解に応じて参考文献の下調べなどについてその都度指示します。			
＜テキスト＞ 「礼拝における賛美の役割と課題」（渡辺善忠著）第 1 回の講義でコピーを配布する予定です。 レジメ（要約）を毎回配りますので、レジメをパソコンに取り込んで授業ノートを取ることをお勧め致します。			
＜参考書・参考資料等＞ 図書館のカウンター横の棚に参考図書のコーナーを設けて頂く予定ですので、講義時に説明致します。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への取り組み方や質問等の平常点を考慮に入れながらレポートで評価致します。レポートを共通評価指標（1）によって評価致します。			

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目選択換算			
キリスト教と芸術 2 音楽史 b		渡辺 善忠	＜担当形態＞ 単独
後期・2 単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 神の救いの御業が旧約聖書の時代から現代まで音楽によって伝えられてきた歴史を学びます。			
＜到達目標＞ 宗教改革時代（16 世紀）から現代まで、神の救いの御業が音楽によって伝えられてきた歴史を辿ることによって、日本の教会における音楽の役割を考察することを目標とします。			
＜授業の概要＞ 16 世紀から現代までの教会音楽史について、講義と CD 鑑賞によって学びます。			
＜履修条件＞ 礼拝と音楽の関わりを大切に考える方、牧師の基礎的な教養として音楽に親しみたい方、奏楽者や聖歌隊と良き交わりを築きたい方の履修を歓迎致します。			
＜授業計画＞ 第 1 回 旧約聖書時代の音楽～宗教改革時代の音楽（前期のまとめと後期への橋渡し） 第 2 回 J. S. バッハ 第 3 回 G. F. ヘンデル 第 4 回 F. J. ハイドンと M. ハイドン 第 5 回 A. モーツァルト 第 6 回 L. V. ベートーヴェン 第 7 回 F. シューベルト 第 8 回 F. メンデルスゾーン 第 9 回 J. ブラームス 第 10 回 F. シュミット 第 11 回 J. ラター 第 12 回 現代のキリスト教音楽と将来の展望 第 13 回 讃美歌の選曲方法①～礼拝における讃美歌の役割～ 第 14 回 讃美歌の選曲方法②～讃美歌選曲の実践～ 第 15 回 宗教改革運動が始まった時代から現代までのキリスト教音楽の発展と評価			
＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 受講者の方々の理解に応じて参考文献の下調べなどについてその都度指示します。			
＜テキスト＞ 「礼拝における賛美の役割と課題」（渡辺善忠著）第 1 回の講義でコピーを配布する予定です。 レジメ（要約）を毎回配りますので、レジメをパソコンに取り込んで授業ノートを取ることをお勧め致します。			
＜参考書・参考資料等＞ 図書館のカウンター横の棚に参考図書のコーナーを設けて頂く予定ですので、講義時に説明致します。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への取り組み方や質問等の平常点を考慮に入れながらレポートで評価致します。レポートを共通評価指標（1）によって評価致します。			

学際基礎科目・社会科学系			
社会史 a		早川 朝子	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 一般の人々の生きた社会を中心に中世のヨーロッパの歴史を学びます。			
＜到達目標＞ ヨーロッパ中世の初期から末期までの大まかな歴史の流れと時代の特徴を理解する。 ヨーロッパの中世史を学ぶうえで重要となる用語や概念を習得する。			
＜授業の概要＞ ヨーロッパ中世の社会においては、芸術や学問、さらには人々の日常生活にまでキリスト教の影響が及びました。この授業では、キリスト教が浸透し定着していったヨーロッパ中世の歴史を概観したうえで、教会建築、巡礼、教会暦、死生観など人々の日常に関わる具体的な事柄をとり上げ、それぞれにみられるキリスト教の影響や中世の人々の考え方などを考察します。なお、とり上げる事柄は状況により変更する場合があります。			
＜履修条件＞ 特にありません。			
＜授業計画＞ 第1回 ヨーロッパの地理、時代区分と西暦、「ヨーロッパ」の名称 第2回 中世史の大まかな流れ、キリスト教の誕生、古代から中世へ 第3回 中世前期から中期のヨーロッパとキリスト教 第4回 中世後期のヨーロッパとキリスト教 第5回 修道院 第6回 教会建築 第7回 巡礼と聖地 第8回 農村：農産物と農業経営 第9回 都市：古代から中世へ、生活環境 第10回 中世の人々の日常と死生観 第11回 教会暦と時間 第12回 十二世紀ルネサンスと中世の人々の「世界」 第13回 ユダヤ人 第14回 疫病の流行と医学 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 配付したプリントをよく見て復習するようにしてください。			
＜テキスト＞ 指定しません。プリントを配付します。			
＜参考書・参考資料等＞ 神崎忠昭『新版 ヨーロッパの中世』（慶應義塾大学出版会、2022年）。 堀越宏一・甚野尚志編著『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』（ミネルヴァ書房、2013年）			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 毎回の授業の最後に学習内容を振り返るための練習問題を行います。そこでは、学んで理解したことを自分のことばで表現することが重要となります。それは歴史学に限らず、学問することの基本であり、「共通評価指標（1）」の①と②に関連します。練習問題へのとり組みの他、出席状況、授業への参加状況により総合的に評価します。			

学際基礎科目・社会科学系			
社会史 b		早川 朝子	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 宗教改革とそれが当時の社会に及ぼした影響を中心に近世のヨーロッパの歴史を学びます。			
<到達目標> 宗教改革の経過とそれがヨーロッパ社会に及ぼした影響についての理解を深める。 ヨーロッパの近世史を学ぶうえで重要となる用語や概念を習得する。			
<授業の概要> ルネサンス・宗教改革を経て時代は中世から近代へと移行し、近代の最初の 300 年ほどを近世と呼んでいます。近世の初めに宗教改革が起きて、新たなキリスト教の宗派、プロテスタントが誕生します。その後ヨーロッパでは、カトリックを信仰する地域とプロテスタントを信仰する地域との間で宗派対立が激しくなっていきます。この授業では、ドイツの宗教改革について詳細に考察したうえで、他地域への宗教改革の広まりや、オランダの独立、改暦、三十年戦争など、宗派対立に関わる出来事を取り上げていきます。なお、授業の各回で扱う内容は状況により変更する場合があります。			
<履修条件> 特にありません。			
<授業計画> 第1回 時代区分、1500 年頃のヨーロッパ、近世史の大まかな流れ 第2回 ルネサンス 第3回 宗教改革のはじまり：『九十五カ条の論題』と贖宥状販売、ルターの足跡 第4回 宗教改革者になるまでのルター 第5回 ローマ教皇・ドイツ国王との対決、宗教改革の予期せぬ展開 第6回 ルターの家庭生活、宗教改革前のヨーロッパ社会とドイツ 第7回 ドイツにおける宗教改革の展開、宗教改革と都市社会、宗教改革の先駆者たち 第8回 宗教改革思想の伝達：木版画 第9回 スイスの宗教改革：ツヴィングリとカルヴァン 第10回 再洗礼派の誕生と広まり 第11回 イングランドの宗教改革 第12回 フランス宗教戦争、オランダの独立、改暦 第13回 三十年戦争、科学革命：ガリレイ 第14回 三十年戦争後のヨーロッパ、魔女狩り 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 配付したプリントをよく見て復習するようにしてください。			
<テキスト> 指定しません。プリントを配付します。			
<参考書・参考資料等> ローランド・ベイントン著、出村彰訳『宗教改革史』（新教出版社、2017 年）。 君塚直隆『ヨーロッパ近代史』（筑摩書房、2019 年）。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の授業の最後に学習内容を振り返るための練習問題を行います。そこでは、学んで理解したことを自分のことばで表現することが重要となります。それは歴史学に限らず、学問することの基本であり、「共通評価指標（1）」の①と②に関連します。練習問題への取り組みの他、出席状況、授業への参加状況により総合的に評価します。			

学際基礎科目・社会科学系			
法と人権 1 法学概論		松田 浩道	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 受講生の関心にあわせて「法と人権」に関する文献を読んでいきます。映画や新聞記事なども利用しつつ、現代社会で実際に生じている問題と「法と人権」との関連を考えます。			
<到達目標> 1. 学生は、法と人権に関して自分なりの視座を得る。 2. 学生は、現代社会で生じている問題を「法と人権」の観点から考察できる。 3. 以上を踏まえ、学生は牧師・聖書科教員等を目指す上で有意義な視点を得る。			
<授業の概要> 受講生の関心にあわせて文献や映像教材を選び、毎回の授業でディスカッションを行う予定です。			
<履修条件> 特に1年生の皆さんに照準を合わせた授業になる予定です。可能な限り「法と人権2」と同時に履修してください。			
<授業計画> 第1回：文献講読（1）人権の歴史的考察 第2回：文献講読（1）人権の理論 第3回：文献講読（1）人権の現代的課題 第4回：映画鑑賞とディスカッション 第5回：文献講読（2）正義の歴史的考察 第6回：文献講読（2）正義の理論 第7回：文献講読（2）正義の現代的課題 第8回：映画鑑賞とディスカッション 第9回：文献講読（3）自由の歴史的考察 第10回：文献講読（3）自由の理論 第11回：文献講読（3）自由の現代的課題 第12回：映画鑑賞とディスカッション 第13回：文献講読（4）平等の歴史的考察 第14回：文献講読（4）平等の理論 第15回：文献講読（4）平等の現代的課題 文献や映画は受講生の関心に応じて選びます。詳細は初回授業で受講生と相談の上、決める予定です。			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 毎日新聞を読む習慣をつけるようにしてください。			
<テキスト> 松田浩道『リベラルアーツの法学 自由のための技法を学ぶ』（東京大学出版会、2022）			
<参考書・参考資料等> 授業中に紹介します。			
<学生に対する評価（方法・基準）> プレゼンテーション 50% ディスカッションへの参加 50%（期末レポートを提出した場合、加点対象とします。） 評価にあたっては、共通評価指標（1）④、⑤の内容を重視します。			

学際基礎科目・社会科学系			
法と人権 2 日本国憲法		松田 浩道	＜担当形態＞ 単独
後期・2 単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 日本国憲法		
＜授業のテーマ＞ 受講生の関心にあわせて日本国憲法に関する文献を読んでいます。映画や新聞記事なども利用しつつ、現代社会で実際に生じている問題と憲法との関連を考えます。			
＜到達目標＞ 1. 学生は、日本国憲法に関して自分なりの視座を得る。 2. 学生は、現代社会で生じている問題を憲法の視点から分析できる。 3. 以上を踏まえ、学生は、牧師・聖書科教員等を目指す上で有意義な視点を獲得。			
＜授業の概要＞ 受講生の関心にあわせて文献や映像教材を選び、毎回の授業でディスカッションを行う予定です。			
＜履修条件＞ 特に 1 年生の皆さんに照準を合わせた授業になる予定です。可能な限り「法と人権 1」と同時に履修してください。			
＜授業計画＞ 第 1 回：文献講読（1）立憲主義の歴史的考察 第 2 回：文献講読（1）立憲主義の理論 第 3 回：文献講読（1）立憲主義の現代的課題 第 4 回：映画鑑賞とディスカッション 第 5 回：文献講読（2）平和主義の歴史的考察 第 6 回：文献講読（2）平和主義の理論 第 7 回：文献講読（2）平和主義の現代的課題 第 8 回：映画鑑賞とディスカッション 第 9 回：文献講読（3）人権の歴史的考察 第 10 回：文献講読（3）人権の理論 第 11 回：文献講読（3）人権の現代的課題 第 12 回：映画鑑賞とディスカッション 第 13 回：文献講読（4）政教分離の歴史的考察 第 14 回：文献講読（4）政教分離の理論 第 15 回：文献講読（4）政教分離の現代的課題 文献や映画は受講生の関心に応じて選びます。詳細は受講生と相談の上、決める予定です。			
＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 毎日新聞を読む習慣をつけるようにしてください。			
＜テキスト＞ 松田浩道『リベラルアーツの法学 自由のための技法を学ぶ』（東京大学出版会、2022）			
＜参考書・参考資料等＞ 授業中に紹介します。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ プレゼンテーション 50% ディスカッションへの参加 50%（期末レポートを提出した場合、加点対象とします。） 評価にあたっては、共通評価指標（1）④、⑤の内容を重視します。			

学際基礎科目・自然科学系			
現代の自然観 a		松原 郁哉	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 古典物理学とその発展にともなう自然観の変化を学ぶ。			
＜到達目標＞(1)科学的なものの見方を身につける。(2)ニュートンの力学等によって自然観がどのように変化したかを理解する。(3)ガリレオやニュートンとキリスト教の関わりを理解する。			
＜授業の概要＞ 主に力学、熱学、波動の基礎とそれに関わる科学者について講義する。簡単な実験・演習を行う。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞ 第1回 力と運動(1)：速度と加速度 第2回 力と運動(2)：運動の法則 第3回 力と運動(3)：落下運動と放物運動 第4回 ガリレオの科学と宗教 第5回 力と運動(4)：等速円運動 第6回 力と運動(5)：万有引力 第7回 ニュートンの科学と宗教 第8回 熱とエネルギー(1)：温度と熱膨張 第9回 熱とエネルギー(2)：比熱と熱容量 第10回 熱とエネルギー(3)：可逆過程と不可逆過程 第11回 熱とエネルギー(4)：エントロピー増大則 第12回 波動(1)：波の種類と特性 第13回 波動(2)：波の重ね合わせと干渉 第14回 波動(3)：波動方程式 第15回 力学、熱および波動のまとめ 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 毎回復習をして、次回までに内容を理解しておくこと。			
＜テキスト＞ プリントを担当者が準備する。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 各授業の最後を書くレポートと期末に行う筆記試験で評価する。評価にあたっては、「共通評価指標（1）」記載項目中(2)、(4)を特に重視する。出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。			

学際基礎科目・自然科学系			
現代の自然観 b		松原 郁哉	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 現代物理学の考え方とその自然観を学ぶ。			
＜到達目標＞(1)現代物理学の考え方の特徴を説明できる。(2)量子力学等によって自然観がどのように変化したかを理解する。(3)ファラデーやアインシュタインと宗教の関わりについて理解する。			
＜授業の概要＞ 電磁気学、相対論、量子力学とそれに関わる科学者について講義する。簡単な実験・演習を行う。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞ 第1回 電気と磁気(1)：電荷と電場 第2回 電気と磁気(2)：電流と磁場 第3回 電気と磁気(3)：変動する電磁場 第4回 電気と磁気(4)：電磁波 第5回 ファラデーの科学と宗教 第6回 相対論(1)：ガリレオの相対性原理と光速 第7回 相対論(2)：アインシュタインの特殊相対性理論 第8回 相対論(3)：アインシュタインの一般相対性理論 第9回 アインシュタインの科学と宗教 第10回 量子論(1)：エネルギーの量子化 第11回 量子論(2)：粒子・波動の2重性 第12回 量子論(3)：シュレディンガー方程式 第13回 量子論(4)：ベルの不等式 第14回 素粒子と宇宙 第15回 電磁気、波動、相対論および量子論のまとめ 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 毎回復習をして、次回までに内容を理解しておくこと。			
＜テキスト＞ プリントを担当者が準備する。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 各授業の最後を書くレポートと期末に行う筆記試験で評価する。評価にあたっては、「共通評価指標（1）」記載項目中(2)、(4)を特に重視する。出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。			

学際基礎科目・情報科学系		
情報基礎	竹井 潔	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校） <科目> 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	
<授業のテーマ> 学生が情報社会で生きていく力として、コンピュータやネットワークの知識を理解し、ワープロソフト・表計算ソフトの基本的なスキルを習得する。		
<到達目標> 学生がワープロソフト・表計算ソフト等の基本的スキルを習得し、大学及び卒業後にパソコンが活用できるスキルを習得する。		
<授業の概要> 学生がパソコンの基本知識やワープロソフト・表計算ソフトのスキルを習得し、情報社会で必要となる基本的な情報リテラシーを身に着ける。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画> 第1回 ガイダンス 第2回 コンピュータの歴史と構造 第3回 OS とアプリケーション 第4回 インターネット 第5回 情報セキュリティの理解 第6回 インターネットの著作権 第7回 ワープロソフトの活用 について基本操作、基本的書式設定 第8回 ワープロソフトの活用 ビジュアル要素 基本（フォントスタイル、書式等） 第9回 ワープロソフトの活用 ビジュアル要素 応用（Smart Art, 図形等） 第10回 ワープロソフトの活用 レイアウト設定、表作成 第11回 表計算ソフトの表計算ソフトの基本操作、表作成 第12回 表計算ソフトの活用 表計算 第13回 表計算ソフトの活用 グラフの作成 第14回 表計算ソフトの活用 データベースの作成、データの並べ替え等 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 パソコンに慣れていない学生はタイピングの練習をしておくこと。		
<テキスト> 授業中に指示する。		
<参考書・参考資料等> 定平誠『しっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト Windows10, Office2019 対応版』技術評論社		
<学生に対する評価（方法・基準）> 平常点（50%）、期末課題（50%）。 平常点及び期末課題の評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～⑤の内容を重視する。		

神学基礎科目 A			
キリスト教通論 I		須田 拓	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 学部1年生は必修	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 神学のある教会生活について学び、神学を学ぶための土台を形成する。			
＜到達目標＞ 教会とは何か、信仰生活でなされていることにどのような意味があるのかについて、神学的に考えることができるようになる。			
＜授業の概要＞ 教会生活について学ぶと共に、議論することを通して、神学的に考えるとはどのようなことであるかを学ぶ。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 「新しい伝道の時代へ」（はじめに） 第3回 「教会生活の鍵」 第4回 「伝道的教会と伝道的信仰」（前半） 第5回 「伝道的教会と伝道的信仰」（後半） 第6回 「洗礼」 第7回 「聖餐」（前半） 第8回 「聖餐」（後半） 第9回 「信仰告白と信仰生活」 第10回 「信仰告白と教会形成」 第11回 「祈りの意味」 第12回 「讃美歌の意味」（前半） 第13回 「讃美歌の意味」（後半） 第14回 「献金の意味」 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 テキストの該当箇所をよく読んでおき、積極的に議論に参加すること。			
＜テキスト＞ 近藤勝彦『教会生活の要点』（東神大パンフレット38） 学生各自で用意すること。（総務課窓口にて購入可能）			
＜参考書・参考資料等＞ 特にないが、授業の中で必要に応じて指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業での発表、議論への参加状況によって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）記載項目中の①～③を特に重視する。			

神学基礎科目 A			
キリスト教通論Ⅱ		須田 拓	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 学部1年生は必修	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ キリスト教信仰の基本的内容を確認しつつ、神学をする目的と意義とを理解する。			
＜到達目標＞ 信仰の各項目について、神学的課題を理解しつつ、説明できるようになる。			
＜授業の概要＞ 使徒信条および日本基督教団信仰告白の主要項目について、信仰内容を確認しつつ、どのような神学課題が考え得るか考察する。			
＜履修条件＞ 原則としてキリスト教通論Ⅰを履修していること。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション・啓示について 第2回 聖書について 第3回 創造について 第4回 人間について 第5回 キリストについて(1) 受肉 第6回 キリストについて(2) 十字架と救済 第7回 キリストについて(3) 復活 第8回 聖霊について 第9回 教会について 第10回 終末について 第11回 三位一体について 第12回 選びについて 第13回 義認と聖化について 第14回 聖礼典について 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 授業で取り扱う信仰の項目について、聖書の該当箇所を探してよく読んでおくこと。			
＜テキスト＞ 授業において、必要に応じて指示する。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業において、必要に応じて指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加状況およびレポートによって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）記載項目中の①～③を特に重視する。			

神学基礎科目 A			
聖書通論 1 旧約通論		矢田 洋子	＜担当形態＞ 単独
前期・2 単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 旧約聖書の基礎知識			
＜到達目標＞ 旧約聖書の概観を把握する。旧約聖書に関する基礎的な知識を身に着ける。			
＜授業の概要＞ 基礎的な知識を提供するとともに、実際に旧約聖書を読み、どこに何が書いてあるかを概観し、またテキスト間の 関連を把握する。同時に、聖書を学問的に読むとはどういうことかをじっくり考える。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1 回 聖書を学問的に読むとはどういうことか 第2 回 旧約聖書とは何か 第3 回 創世記 第4 回 出エジプト記 第5 回 レビ記、民数記、申命記 第6 回 ヨシュア記、士師記、ルツ記 第7 回 サムエル記上下、列王記上下 第8 回 歴代誌上下、エズラ記、ネヘミヤ記、エステル記 第9 回 ヨブ記、詩編 第10 回 箴言、コヘレトの言葉、雅歌 第11 回 イザヤ書 第12 回 エレミヤ書、哀歌 第13 回 エゼキエル書、ダニエル書 第14 回 ホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデヤ書、ヨナ書、ミカ書 第15 回 ナホム書、ハバクク書、ゼファニヤ書、ハガイ書、ゼカリヤ書、マラキ書			
＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 授業と並行して、自分で旧約聖書を通読すること。			
＜テキスト＞ 聖書（新共同訳、聖書協会共同訳など、読みなれているもの。）			
＜参考書・参考資料等＞ A.E.マクグラス『旧約新約聖書ガイド』本多峰子訳、教文館 C.ヴェスターマン『聖書の基礎知識―旧約篇』左近淑・大野恵正訳、日本キリスト教団出版局			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度と、期末の小レポートによって評価する。レポートの課題は夏休み前に提示する。評価にあたって は、共通評価指標（1）①、③、⑤の内容を重視する。			

神学基礎科目 A			
聖書通論 2 旧約時代史		矢田 洋子	<担当形態> 単独
後期・2 単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 旧約時代史概観			
<到達目標> 旧約聖書に反映されたイスラエルの民の歴史を概観的に学び、旧約聖書の背景となっている歴史の知識を身に着けるとともに、それを通して、旧約聖書の信仰の特質を考える。			
<授業の概要> カナン定着からローマ時代に至る旧約の時代史について、テキストに沿って学ぶ。毎回、受講者に、テキストの該当部分をまとめたものを作成して発表していただき、必要であれば講師が補足した後、疑問点を分かち合うことで理解を深めていく。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション、旧約の歴史を学ぶということ 第 2 回 旧約聖書の「原初史」と古代オリエント文化 第 3 回 カナン定着以前の時代 p. 19～p. 31 第 4 回 カナン定着時代（土師時代） p. 33～p. 50 第 5 回 統一王国時代（サウル、ダビデ） p. 51～p. 64 第 6 回 統一王国時代（ソロモン、王国分裂） p. 64～p. 75 第 7 回 北王国イスラエルの歴史（ヤロブアム～イエフ王朝） p. 77～p. 92 第 8 回 北王国イスラエルの歴史（アモス～ホセア） p. 93～p. 111 第 9 回 南王国ユダの歴史（イザヤ、ヨシヤ） p. 113～p. 132 第 1 0 回 バビロン捕囚時代 p. 133～p. 148 第 1 1 回 ペルシア時代 p. 149～p. 161 第 1 2 回 ヘレニズム時代 p. 163～p. 175 第 1 3 回 ローマ時代 p. 177～p. 189 第 1 4 回 補足とまとめ 第 1 5 回 まとめ			
<準備学習等の指示> 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 発表者以外もテキストを読み、そこにある引用聖書箇所周辺も読んで授業に臨むこと。			
<テキスト> 樋口進『よくわかる旧約聖書の歴史』教団出版局			
<参考書・参考資料等> S. ヘルマン／W. クライバー『よくわかるイスラエル史―アブラハムからバル・コクバまで』樋口進訳、教文館 月本昭男、長谷川修一『ヴィジュアル BOOK 旧約聖書の世界と時代』日本キリスト教団出版局 山我哲雄『聖書時代史―旧約篇』岩波現代文庫			
<学生に対する評価（方法・基準）> 各回の発表と授業参加度、期末の筆記試験によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）①、③、⑤の内容を重視する。			

神学基礎科目 A			
聖書通論 3 新約通論・歴史		中野 実	<担当形態> 単独
後期・2 単位		<登録条件>原則として新入生のためのクラス	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ>神学の学びに不可欠な聖書の知識を身につけるためのクラス。			
<到達目標>神学の学びに不可欠な聖書の知識を身に付けることができる。とくに新約聖書の特徴を理解し、その内容についてしっかりした知識を身に付けることができる。			
<授業の概要>毎回のクラスを通して、新約聖書文書 27 書の一つ一つを丁寧に読み、その全体構成、内容、特徴的 神学メッセージをつかんでいく。			
<履修条件>とくになし。			
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 聖書とは？旧約聖書と新約聖書 第 3 回 マタイ福音書 第 4 回 マルコ福音書 第 5 回 ルカ福音書 第 6 回 ヨハネ福音書 第 7 回 使徒言行録 第 8 回 ローマ、 第 9 回 第一コリント、第二コリント 第 10 回 ガラテヤ、フィリピ、第一、第二テサロニケ 第 11 回 エフェソ、コロサイ、フィレモン 第 12 回 第一テモテ、第二テモテ、テトス、ヘブライ 第 13 回 ヤコブ、第一、第二ペトロ、ユダ 第 14 回 第一、第二、第三ヨハネ、ヨハネ黙示録 第 15 回 まとめ。			
<準備学習等の指示> 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 上記の授業計画に基づきつつ、次のような予習を行うことが求められる。まず課題文書全体を丁寧に読み、その文書の全体構成、その内容をつかむ。さらにそれに基づいてその文書特有の神学的メッセージを見つけ出す。実際のクラスでは、参加者がそれらの学習成果を持ち寄り、共に議論することにした。毎回のクラスの後、クラスで学んだ事柄をノートにまとめ、次のクラスにそれを提出してもらう。			
<テキスト>聖書：旧約新約そろったものを用意すること。			
<参考書・参考資料等>必要に応じて、クラスで適宜指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>出席が三分の二に達していない場合は、原則として評価の対象にしない。評価は、共通評価指標（1）に基づいてなされる。			

神学基礎科目 B			
神学通論		神代 真砂実	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 学部2年生と3年次編入生は必修	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 神学とはどのような学問であるか、どのようになされてきたのか、どのような思考を求められているのかを学ぶ。			
<到達目標> ①神学と教会との関係、②神学の歴史、③神学の思考のかたちをそれぞれ理解することを通して、伝道者として神学を学ぶ姿勢を身に着ける。			
<授業の概要> テーマに掲げた内容について、さらには、神学の学問領域全体の概観を講義していく。			
<履修条件> 学部2年生以上であること。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 序——この授業の目的と課題 第1部 キリスト者と神学者 Ⅰ. 霊的な務め・召命 第2回 Ⅱ. 神学と教会奉仕の準備／Ⅲ. 神学と信仰の従順 第3回 第2部 キリスト教神学 Ⅰ. 「神学」という言葉の意味／Ⅱ. キリスト教神学の従来の意味 第4回 Ⅲ. 啓蒙主義以降の神学的思考の変化 第5回 Ⅳ. 近代神学（1）——シュライアマハーの神学の概要 第6回 Ⅳ. 近代神学（2）——シュライアマハーの神学への評価 第7回 Ⅴ. 近代神学の歩み 第8回 Ⅵ. 新たな展開（1）——「近代神学」の「失敗」 第9回 Ⅵ. 新たな展開（2）——カール・バルトおよび「新しい神学」 第10回 Ⅵ. 新たな展開（3）——神の言葉の神学 第11回 Ⅶ. 神学と教会 第12回 Ⅷ. 神学の「学問的」性格（1）——「学問的神学」とは 第13回 Ⅷ. 神学の「学問的」性格（2）——神学と教会 第14回 Ⅸ. 神学諸科の分類 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 このクラスでは事前準備よりも復習が重要になる。また、耳慣れない言葉・概念・論理に出会うので、授業中に積極的に質問すること。			
<テキスト> プラスガー、『ハイデルベルク信仰問答との対話——信仰の宝を掘り起こす』、芳賀力訳（教文館、2019年）。			
<参考書・参考資料等> カピック、『シンガクすること、生きること』、藤野雄大訳（一麦出版社、2022年）；フロマーカ、『神学入門』、平野清美訳（新教出版社、2012年）。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期中の小課題および期末のレポートの総合による。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。			

現代語科目必修			
英語 I A a		矢田 洋子	<担当形態> 単独
前期・1単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 英文法			
<到達目標> 基礎的英語力の向上			
<授業の概要> 基礎的な文法の知識を習得するための学びを、テキストを用いて行う。英語の聖書を読むことも同時に行う。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 (第1章) 8品詞 第3回 (第2章) 文とその構成要素 第4回 (第3章) 文型と文の種類 第5回 (第4章) 句と節 第6回 (第5章) 動詞と動詞の活用 第7回 (第6章) 時制 (完了形・進行形を含む) 第8回 (第7章) (受動) 態 第9回 (第8章) 助動詞 第10回 (第9章) (叙) 法 第11回 (第10章) 否定 第12回 (第11章) 名詞 第13回 (第12章) 代名詞 第14回 (第13章) 疑問詞 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は45分～60分を目安とする。 予習 (テキストの説明部分に目を通しておく) と復習 (残りの練習問題)。			
<テキスト> 豊永彰『英文法ビフォー&アフター』南雲堂			
<参考書・参考資料等> 英語の聖書 (New International Version, New Revised Standard Version など)			
<学生に対する評価 (方法・基準) > 授業内試験、および毎回の練習問題の達成度、授業への参加度によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標 (1) ①、③の内容を重視する。			

現代語科目必修			
英語ⅠA b		矢田 洋子	＜担当形態＞ 単独
後期・1単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 英文法			
＜到達目標＞ 基礎的英語力の向上			
＜授業の概要＞ 基礎的な文法の知識を習得するための学びを、テキストを用いて行う。英語の聖書を読むことも同時に行う。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 （第14章）関係詞 第2回 （第15章）形容詞 第3回 （第16章）限定詞 第4回 （第17章）副詞 第5回 （第18章）比較 第6回 （第19章）不定詞 第7回 （第20章）分詞 第8回 （第21章）（受動）態 第9回 （第22章）前置詞 第10回 （第23章）接続詞と節 第11回 （第24章）呼応 第12回 （第25章）時制の一致と話法 第13回 （第26章）倒置・省略・強調 第14回 （第27章）文の転換 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は45分～60分を目安とする。 予習（テキストの説明部分に目を通しておく）と復習（残りの練習問題）。			
＜テキスト＞ 豊永彰『英文法ビフォー&アフター』南雲堂			
＜参考書・参考資料等＞ 英語の聖書（New International Version, New Revised Standard Version など）			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業内試験、および毎回の練習問題の達成度、授業への参加度によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）①、③の内容を重視する。			

現代語科目必修			
英語 I B a		飯田 仰	<担当形態> 単独
前期・1単位		<登録条件> 特になし	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 初歩的な神学的文献を読むことができるように、英語の読解力を養成する。			
<到達目標> 英語の神学用語に慣れ、初歩的な神学文献が読めるようにする。			
<授業の概要> 基本的な神学用語に慣れることで、英語の読解力を養う。1 センテンスずつ訳してもらいながら進める。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション、テキストの説明 (Alister McGrath. <i>The Living God</i> (Christian Belief for Everyone) London: SPCK, 2013.) 第2回 テキスト講読 pp. 1-2 第3回 テキスト講読 pp. 3-4 第4回 テキスト講読 pp. 5-6 第5回 テキスト講読 pp. 7-8 第6回 テキスト講読 pp. 9-10 第7回 テキスト講読 pp. 11-12 第8回 中間総括 第9回 テキスト講読 pp. 13-14 第10回 テキスト講読 pp. 15-16 第11回 テキスト講読 pp. 17-18 第12回 テキスト講読 pp. 19-21 第13回 テキスト講読 pp. 22-23 第14回 テキスト講読 pp. 24-26 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は45分～60分を目安とする。 テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。			
<テキスト> Alister McGrath. <i>The Living God</i> (Christian Belief for Everyone), London: SPCK, 2013. テキストは担当者が用意する。			
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況及び小テストで評価する。共通評価指標（1）記載項目中の①～③を重視する。			

現代語科目必修			
英語 I B b		飯田 仰	<担当形態> 単独
後期・1単位		<登録条件> 特になし	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 初歩的な神学的文献を読むことができるように、英語の読解力を養成する。			
<到達目標> 英語の神学用語に慣れ、初歩的な神学文献が読めるようにする。			
<授業の概要> 基本的な神学用語に慣れることで、英語の読解力を養う。1 センテンスずつ訳してもらいながら進める。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション、テキストの説明 (Alister McGrath. <i>The Spirit of Grace</i> (Christian Belief for Everyone) London: SPCK, 2015.) 第2回 テキスト講読 pp. 1-2 第3回 テキスト講読 pp. 3-4 第4回 テキスト講読 pp. 5-6 第5回 テキスト講読 pp. 7-8 第6回 テキスト講読 pp. 9-10 第7回 テキスト講読 pp. 11-12 第8回 中間総括 第9回 テキスト講読 pp. 13-14 第10回 テキスト講読 pp. 15-16 第11回 テキスト講読 pp. 17-18 第12回 テキスト講読 pp. 19-21 第13回 テキスト講読 pp. 22-24 第14回 テキスト講読 pp. 25-28 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は45分～60分を目安とする。 テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。			
<テキスト> Alister McGrath. <i>The Spirit of Grace</i> (Christian Belief for Everyone), London: SPCK, 2015. テキストは担当者が用意する。			
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する。			
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加状況及び小テストで評価する。共通評価指標(1)記載項目中の①～③を重視する。			

現代語科目必修			
ドイツ語 I A a（基礎）(1, 2)		長山 道	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ ドイツ語 IAb と通年で登録することが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ ドイツ語の初級文法を身につける。			
＜到達目標＞ 初歩的なテキストを、辞書と文法書を参照しながら読めるようになる。			
＜授業の概要＞ ドイツ語の文法を学ぶ。練習問題を通して読解力を養成する。			
＜履修条件＞ ドイツ語未習であることが望ましい。			
1 オリエンテーション、アルファベット、発音 2 あいさつ表現、季節・月・曜日、国名 3 動詞の現在人称変化(1) 4 定動詞の位置と文の構造 5 名詞の性と格変化、冠詞、名詞の複数形 6 定冠詞類と不定冠詞類、否定、男性弱変化名詞 7 動詞の現在人称変化(2)、不定代名詞、数詞 8 人称代名詞、疑問代名詞 9 前置詞の格支配 10 話法の助動詞 11 未来形 12 形容詞の格変化 13 動詞の3基本形 14 過去人称変化 15 完了形 16 過去完了形、未来完了形、話法の助動詞の完了形 17 分離動詞 18 命令形 19 再帰代名詞 20 再帰動詞 21 接続詞 22 副文 23 zu 不定詞句、非人称動詞 24 形容詞の比較 25 指示代名詞、関係代名詞 26 受動文、分詞 27 接続法第1式 28 接続法第2式 29 接続法の用法 30 総括 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は45分～60分を目安とする。 課された練習問題を必ず解いてくること。初回に指示する独和辞典と単語カードを、第2回以降持参すること。			
＜テキスト＞ Ookawa Isamu / Tsuneki Kentarou / Ishizawa Masato, <i>Deutsche Grammatik für das Leseverständnis</i> , Ikubundo, 2013（2500円）。学生各自で購入する。			
＜参考書・参考資料等＞ 中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』白水社、 ¹⁵ 2013年。 『クラウン独和辞典第5版』三省堂、2014年。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度と学期末の筆記試験によって評価する。共通評価指標（1）の①③を重視する。			

現代語科目必修			
ドイツ語 I A b (基礎) (1, 2)		長山 道	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> ドイツ語 IAa と通年で登録することが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 平易なテキストを読みながら、ドイツ語文法の知識を定着させる。			
<到達目標> 神学用語をドイツ語で身につけ、平易な神学書が読めるようになる。			
<授業の概要> テキストを和訳する。初級文法を復習する。			
<履修条件> 初級文法を一とおり終えていること。			
1 オリエンテーション 2 S. 1 3 S. 2 4 S. 3 5 S. 4 6 S. 5 7 S. 6 8 S. 7 9 S. 8 10 S. 9 11 Reformationstag 12 S. 10 13 S. 11 14 S. 12 15 S. 13 16 S. 14 17 S. 15 18 S. 16 19 S. 17 20 S. 18 21 S. 19 22 Advent, Weihnachten, Epiphanias 23 ドイツ語すごろく 24 S. 20 25 S. 21 26 S. 22 27 S. 23 28 S. 24 29 S. 25 30 総括 定期試験			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は45分～60分を目安とする。 指定されたテキストを必ず和訳してくること。独和辞典、単語カードを持参すること。			
<テキスト> Heinrich Schlier Über die Christliche Existenz, 同学社、1975年（440円）。担当者を通して購入する。			
<参考書・参考資料等> 授業内で教員が指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と学期末の筆記試験によって評価する。共通評価指標（1）の①③を重視する。			

現代語科目必修		
ドイツ語 I B a（コミュニケーション）	岡村 恒	＜担当形態＞ 単独
前期・1単位	＜登録条件＞通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）	
	＜科目＞ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 ＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 外国語コミュニケーション	
＜授業のテーマ＞ 神学生にとって有意義な、ドイツ語による「キリスト教的コミュニケーション」を学ぶ。		
＜到達目標＞ プロテスタンティズムの伝統に基づき、現代も用いられる生きた日常ドイツ語の表現を用いる力を習得する。		
＜授業の概要＞ 様々なテキスト、音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。また平易なドイツ語テキストを併せて読む。		
＜履修条件＞ 学部 2 年に履修。		
＜授業計画＞ 第 1 回 主の祈り 第 2 回 ニカイア信条 第 3 回 使徒信条 第 4 回 十戒 第 5 回 詩編に基づく祈り① 第 6 回 詩編に基づく祈り② 第 7 回 聖書に基づく祈り 第 8 回 子供の祈り 第 9 回 日常生活における祈り 第 1 0 回 日曜日から土曜日までの日ごとの祈り 第 1 1 回 ローゼンゲン(日々の聖句集)を用いて祈る 第 1 2 回 カテキズム(ルター小教理問答)① 第 1 3 回 カテキズム(ルター小教理問答)② 第 1 4 回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、序論と第一部)① 第 1 5 回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、序論と第一部)② 定期試験		
＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 45 分～60 分を目安とする。 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい		
＜テキスト＞ ドイツ語訳聖書、ドイツ語のローゼンゲン、ドイツ語賛美歌集等。必要に応じてコピーを配布。		
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて配布する。		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 十分な出席、積極的な授業参加、期末試験によって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～③の内容を重視する。		

現代語科目必修			
ドイツ語 I B b（コミュニケーション）		岡村 恒	＜担当形態＞ 単独
後期・1単位		＜登録条件＞通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 ＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 外国語コミュニケーション		
＜授業のテーマ＞ 前期に引き続いて、現代も用いられる生きたドイツ語のキリスト教的な表現を出来るだけ幅広く学ぶ。			
＜到達目標＞ プロテスタンティズムの伝統に基づき、現代も用いられる生きた日常ドイツ語の表現を用いる力を習得する。			
＜授業の概要＞ 前期に引き続いて、様々なテキストや音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。			
＜履修条件＞ 学部 2 年に履修。			
＜授業計画＞ 第 1 回 礼拝の言葉 第 2 回 祈りの言葉(礼拝で) 第 3 回 祈りの言葉(家庭で) 第 4 回 証しの言葉(教会で) 第 5 回 証しの言葉(家庭、その他の場所で) 第 6 回 賛美歌のテキストに学ぶ(アドベント) 第 7 回 賛美歌のテキストに学ぶ(クリスマス) 第 8 回 賛美歌のテキストに学ぶ(受難節) 第 9 回 賛美歌のテキストに学ぶ(復活祭) 第 1 0 回 賛美歌のテキストに学ぶ(ペンテコステ、他) 第 1 1 回 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 Wir wollen uns aufmachen…から) 第 1 2 回 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 feiert gott in eurer mitte から)① 第 1 3 回 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 feiert gott in eurer mitte から)② 第 1 4 回 オンライン礼拝説教を聞く(現代の説教者から)① 第 1 5 回 オンライン礼拝説教を聞く(現代の説教者から)② 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 45 分～60 分を目安とする。 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。			
＜テキスト＞ 必要に応じて配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 十分な出席、積極的な参加、および期末試験によって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～③の内容を重視する。			

現代語科目選択			
英語基礎 a		越智 さやか	<担当形態> 単独
前期・ 1 単位		<登録条件>課された者が通年で履修する。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ>英文法・英単語			
<到達目標>中学卒業程度の英文法・英単語の知識を習得する。			
<授業の概要>中学卒業程度の英語の知識を習得する。毎回、小テスト(文法の復習と単語)を行う。文法テキストでの学びを中心に、歌、エッセイ、スピーチも行う。			
<履修条件>特になし。			
<授業計画> 第1回品詞、代名詞 第2回文の種類 第3回文型1 第4回文型2 第5回時制1 第6回時制2 第7回完了形1 第8回完了形2 第9回助動詞1 第10回助動詞2 第11回助動詞3 第12回受動態1 第13回受動態2 第14回不定詞1 第15回まとめ			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は45分～60分を目安とする。 毎回の復習を行い、単語を覚えて小テストに備えること。			
<テキスト> 金谷憲総合監修『総合英語 One【完全準拠】Grammar Book』アルク 2014 年（教務課にて一括購入します。） 木村達哉『夢をかなえる英単語新ユメタン⑩』アルク 2015 年（各自で購入してください。） 木村達哉『夢をかなえる英単語新ユメタン⑪』アルク 2015 年（各自で購入してください。）			
<参考書・参考資料等>特になし。			
<学生に対する評価（方法・基準）>小テスト、エッセイ、スピーチ、まとめによる。評価にあたっては、共通評価指標（1）の②の内容を重視する。			

現代語科目選択			
英語基礎 b		越智 さやか	＜担当形態＞ 単独
後期・1単位		＜登録条件＞課された者が通年で履修する。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞英文法・英単語			
＜到達目標＞高校卒業程度の英単語・文法の知識を習得する。			
＜授業の概要＞『英語基礎 a』では扱わなかった内容を扱い、高校卒業程度の英語の知識を習得する。毎回、小テスト(文法の復習と単語)を行う。文法テキストでの学びを中心に、歌、暗唱、暗写も行う。			
＜履修条件＞特になし。			
＜授業計画＞ 第1回 不定詞2 第2回 不定詞3 第3回 動名詞1 第4回 動名詞2 第5回 分詞1 第6回 分詞2 第7回 関係詞1 第8回 関係詞2 第9回 関係詞3 第10回 比較1 第11回 比較2 第12回 仮定法1 第13回 仮定法2 第14回 強調他 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は45分～60分を目安とする。 毎回の復習を行い、単語を覚えて小テストに備えること。			
＜テキスト＞ 金谷憲総合監修『総合英語 One【完全準拠】Grammar Book』アルク 2014年（教務課にて一括購入します。） 木村達哉『夢をかなえる英単語新ユメタン①』アルク 2015年（各自で購入してください。）			
＜参考書・参考資料等＞特になし。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞小テスト、暗唱、暗写、まとめによる。評価にあたっては、共通評価指標（1）の②の内容を重視する。			

現代語科目選択			
日本語基礎 a		後藤 倫子	＜担当形態＞ 単独
前期・ 1 単位		＜登録条件＞ 課された者が通年で履修する。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ ・ 大学で学ぶためのことばや表現を定着させ、書く力の基礎を強化する			
＜到達目標＞ ・ アカデミック・ジャパニーズのことばや表現を使えるようになる ・ 自分のことばで文章をまとめることができるようになる ・ 話しことばと書きことばの違いを把握し、使い分けることができるようになる			
＜授業の概要＞ ことばや表現は、一度見て書いて覚えてただけでは自分のものになりません。また、意味の分かることばはたくさんあるのに、自分が表現したいことばが出てこないことがあります。この授業では、同じことばや表現をくり返し学習することで、「聞いて／読んで理解する」だけのことばから、「自分のことばとして話せる／書ける」ようになる表現力を高めていきます。			
＜履修条件＞ ・ 日本語を母語としない学生対象			
＜授業計画＞ 第 1 回 ことばと表現① （文法）自動詞・他動詞・受身 第 2 回 ことばと表現② （文型）文末表現の調整 第 3 回 ことばと表現③ （語彙）辞書の危険性 第 4 回 ことばと表現④ （意味）専門用語の選び方 第 5 回 ことばと表現⑤ （文章）文の長さを読みやすさ 第 6 回 ことばと表現⑥ （文章）指示詞による文の接続 第 7 回 ことばと表現⑦ レポートの基本的な書き方 意見と事実 第 8 回 ことばと表現⑧ レポートの基本的な書き方 複雑な内容の整理 第 9 回 ことばと表現⑨ 立場のある文章の書き方 第 10 回 ことばと表現⑩ 先生宛の E メールの書き方 第 11 回 ことばと表現⑪ 思考力を育てる① 詩を描く 第 12 回 ことばと表現⑫ 思考力を育てる② 自分の見方を知る 第 13 回 ことばと表現⑬ 思考力を育てる③ 発表 第 14 回 ことばと表現⑭ 実践 1 レポート作成 第 15 回 ことばと表現⑮ 実践 2 レポート発表 まとめ ＊なお、授業のはじめに毎回漢字・語彙小テストを行う			
＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 45 分～60 分を目安とする。 ・ 毎回授業前に各自タスクを行い提出する ・ 毎回授業後に小テスト、および添削指導の復習を行う			
＜テキスト＞ ・ なし。プリントを配付する			
＜参考書・参考資料等＞ ・ 授業内で随時紹介			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ ・ 学期中の課題とレポート等 70%、授業参加度 30% 欠席が 1/3 を超えた者は成績がつかない ・ 評価にあたっては、共通評価指標（1）に基づいて行う			

現代語科目選択			
日本語基礎 b		後藤 倫子	<担当形態> 単独
後期・1単位		<登録条件> 課された者が通年で履修する。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> ・大学で学ぶためのことばや表現を定着させ、書く力の基礎を強化する			
<到達目標> ・アカデミック・ジャパニーズのことばや表現を理解する ・まとまりのある文章を読み、自分の考えをまとめることができるようになる ・レポートや論文にふさわしい文法・文型、語彙、文章を使うことができるようになる			
<授業の概要> これまでに覚えたことばや表現を自身の中で整理して、適切に使うことを身につけます。ことばをたくさん知っていても、話しことばと書きことばを混ぜて使うと、文全体が不自然になってしまいます。教材には自ら書いた文章を用い、どのように直したらよりよくなるのか、実践を通したスキルアップを目指します。			
<履修条件> ・日本語を母語としない学生対象			
<授業計画> 第1回 単語を言い換える 第1課 書き言葉 第2回 単語を言い換える 第2課 和語と漢語 第3回 単語を言い換える 第3課 名詞化 第4回 単語を言い換える 第4課 ジャンルによる使い分け 第5回 単語を言い換える 総合問題 第6回 意味を読み取って言い換える 第1課 長い文／複数の文 第7回 意味を読み取って言い換える 第2課 上位概念 第8回 意味を読み取って言い換える 第3課 簡潔な表現 第9回 意味を読み取って言い換える 第4課 含意／解釈 第10回 意味を読み取って言い換える 総合問題 第11回 目的に応じた形式で書く 実践問題 1 文献を引用する 第12回 目的に応じた形式で書く 実践問題 2 発表スライドを作成する 第13回 目的に応じた形式で書く 実践問題 3 インタビューの内容をレポートに書く 第14回 実践 1 レポート作成 第15回 実践 2 レポート発表 まとめ ＊なお、授業のはじめに毎回漢字・語彙小テストを行う			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は 45 分～60 分を目安とする。 ・毎回授業前に各自タスクを行い提出する ・毎回授業後に小テスト、および添削指導の復習を行う			
<テキスト> ・なし。プリントを配付する			
<参考書・参考資料等> ・授業内で随時紹介			
<学生に対する評価（方法・基準）> ・学期中の課題とレポート等 70%、授業参加度 30% 欠席が 1/3 を超えた者は成績がつかない ・評価にあたっては、共通評価指標（1）に基づいて行う			

現代語科目選択			
英語Ⅱ a		高砂 民宣	<担当形態> 単独
前期・1単位		<登録条件> 学期ごとの登録可	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> ヨハネ福音書に関して英文で記された講演論文を読み、内容について考察する。			
<到達目標> ①英書の論文に慣れ親しむ。②英書の読解能力を高める。③神学用語や慣用表現を習得する。			
<授業の概要> 英書の論文を読みながら、福音書の歴史的背景や神学用語等について解説をし、文学的特徴や福音書記者の意図等について考察する。			
<履修条件> おもに学部2年生が対象。			
<授業計画> 第1回 Chapter 2: Encountering History p.41 John and History pp.42-43 第2回 John and History pp.44-45 第3回 John and History pp.46-47 第4回 John and History pp.48-49 第5回 John and History p.50 第6回 Transformative Encounters pp.51-52 第7回 Transformative Encounters pp.53-54 第8回 Transformative Encounters pp.55-56 第9回 Transformative Encounters p.57 第10回 Easter Recognitions pp.58-59 第11回 Easter Recognitions p.60 第12回 Easter Recognitions p.61 第13回 The Beloved Disciple as a Guide to Encountering Jesus pp.62-63 第14回 The Beloved Disciple as a Guide to Encountering Jesus pp.64-65 第15回 The Beloved Disciple as a Guide to Encountering Jesus pp.66-67 定期試験			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は45分～60分を目安とする。 毎回該当する箇所を予習して出席すること。			
<テキスト> Harold W. Attridge, <i>History, Theology, and Narrative Rhetoric in the Fourth Gospel</i> , Marquette University Press, Milwaukee, Wisconsin, 2019.			
<参考書・参考資料等> 授業の中で教員が指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。 ※出席が2／3に満たない者は、評価の対象としない。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～⑤の内容を重視する。			

現代語科目選択			
英語Ⅱ b		高砂 民宣	<担当形態> 単独
後期・1単位		<登録条件> 学期ごとの登録可	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> ヨハネ福音書に関して英文で記された講演論文を読み、内容について考察する。			
<到達目標> ①英書の論文に慣れ親しむ。②英書の読解能力を高める。③神学用語や慣用表現を習得する。			
<授業の概要> 英書の論文を読みながら、福音書の歴史的背景や神学用語等について解説をし、文学的特徴や福音書記者の意図等について考察する。			
<履修条件> おもに学部2年生が対象。			
<授業計画> 第1回 Chapter 3: Doing Theology in the Fourth Gospel p.68 第2回 Johannine Reflection on how to know God pp.68-69 第3回 Johannine Reflection on how to know God pp.70-71 第4回 The Importance of “Vision” p.72 第5回 The Importance of “Vision” pp.73-74 第6回 The Biblical Quest to “See” God pp.74-75 第7回 The Biblical Quest to “See” God pp.76-77 第8回 The Greco-Roman Quest to see God pp.77-79 第9回 The Greco-Roman Quest to see God pp.80-82 第10回 The Johannine Version of Seeing God pp.82-83 第11回 The Johannine Version of Seeing God pp.84-86 第12回 John’s Interwoven Images pp.86-88 第13回 John’s Interwoven Images pp.89-90 第14回 Early Reactions to the Johannine Parade of Images pp.90-93 第15回 The Word’s Words Explain the Images pp.93-96 定期試験			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は45分～60分を目安とする。 毎回該当する箇所を予習して出席すること。			
<テキスト> Harold W. Attridge, <i>History, Theology, and Narrative Rhetoric in the Fourth Gospel</i> , Marquette University Press, Milwaukee, Wisconsin, 2019.			
<参考書・参考資料等> 授業の中で教員が指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。 ※出席が2／3に満たない者は、評価の対象としない。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～⑤の内容を重視する。			

現代語科目選択			
英語実践Ⅰ		ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
前期・１単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 外国語コミュニケーション		
＜授業のテーマ＞ 日常的に英語を使うこと。			
＜到達目標＞ 英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。			
＜授業の概要＞ 英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。ビデオを使用することもある。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞ 第 1 回 Orientation 第 2 回 Grandma and Me I 第 3 回 Grandma and Me II 第 4 回 Benny Hinn 第 5 回 Henry Ford 第 6 回 Tiger Woods 第 7 回 Jesus of Nazareth 第 8 回 Glassware 第 9 回 Midterm Evaluation 第 1 0 回 The Shores of Galilee 第 1 1 回 The Shores of Lake Michigan I 第 1 2 回 The Shores of Lake Michigan II 第 1 3 回 Eating and Drinking Jesus 第 1 4 回 Climbing Jacob's Ladder 第 1 5 回 Final Evaluation			
＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 45 分～60 分を目安とする。 テレビ・ラジオやインターネットで英会話を聞く。できるとき英会話をする。			
＜テキスト＞ 必要に応じて授業で指示する。From <i>Heaven Came Down</i> , by Thomas Boogaart, (Reformed Church Press, 1998.)			
＜参考書・参考資料等＞ 英和和英辞書や電子辞書。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席、ディスカッションの参加、中間評価（Midterm Evaluation）、最終評価（Final Evaluation）。 出席が 2／3 に満たない者は評価の対象としない。「共通評価指標（1）」によって評価する。			

現代語科目選択			
英語実践Ⅱ		ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
後期・１単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 外国語コミュニケーション		
＜授業のテーマ＞ 日常的に英語を使うこと。			
＜到達目標＞ 英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。			
＜授業の概要＞ 英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。ビデオを使用することもある。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞ 第 1 回 Orientation 第 2 回 How Lovely are Your Branches 第 3 回 The Biblical Understanding of Tree I 第 4 回 The Biblical Understanding of Tree II 第 5 回 The Plantings of the Gardener I 第 6 回 The Plantings of the Gardener II 第 7 回 The Messiah Tree 第 8 回 The Human Tree 第 9 回 Midterm Evaluation 第 1 0 回 Heaven is a House 第 1 1 回 The Void 第 1 2 回 The World of the Bible 第 1 3 回 Sons and Grandsons of God 第 1 4 回 Jesus Son of God 第 1 5 回 Final Evaluation			
＜準備学習等の指示＞ 1 回の授業あたりの授業外学習は 45 分～60 分を目安とする。 テレビ・ラジオやインターネットで英会話を聞く。できるとき英会話をする。			
＜テキスト＞ 必要に応じて授業で指示する。From <i>Heaven Came Down</i> , by Thomas Boogaart, (Reformed Church Press, 1998.)			
＜参考書・参考資料等＞ 英和和英辞書や電子辞書。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席、ディスカッションの参加、中間評価（Midterm Evaluation）、最終評価（Final Evaluation）。 出席が 2／3 に満たない者は評価の対象としない。「共通評価指標（1）」によって評価する。			

現代語科目選択		
ドイツ語Ⅱ a	岡村 恒	<担当形態> 単独
前期・ 1 単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> ドイツ語聖書、神学書の講読		
<到達目標> 学生が神学的な諸概念と思考法に慣れ親しみ、自主的にドイツ語で神学書を読む力を習得する。		
<授業の概要> 英語圏の神学生が使うテキストを用いて、ドイツ語聖書から始めて、マルティン・ルター、カール・バルト、ディートリッヒ・ボーンヘッファーといったドイツの代表的な神学者の文書を原語で読む。ドイツ語並びに英語の基本的な神学用語と翻訳に触れる。前期はルター訳聖書(1912 年改訂版、1985 年改訂版)並びに現代ドイツ訳(1982 年版)を丁寧に読みながら、その都度、関係する神学用語、神学概念を学ぶ。		
<履修条件> 初級文法を習得していること。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション、Matthäus 3:1-17① 第2回 Matthäus 3:1-17② 第3回 Matthäus 3:1-17③ 第4回 Lukas 18:18-43① 第5回 Lukas 18:18-43② 第6回 Johannes 1:1-18① 第7回 Johannes 1:1-18② 第8回 Apostelgeschichte 9:1-25① 第9回 Apostelgeschichte 9:1-25② 第10回 Römer 5:1-21① 第11回 Römer 5:1-21② 第12回 2 Korinther 4:1-18 第13回 1 Johannes 2:1-29 第14回 1Mose 1:1-31 第15回 1Mose 3:1-24 定期試験		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は45分～60分を目安とする。 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。		
<テキスト> Modern Theological German, Helmut W. Ziefle, Grand Rapids, 1998. テキストは必要に応じて配布する。		
<参考書・参考資料等> 特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～③及び⑤の内容を重視する。		

現代語科目選択			
ドイツ語Ⅱb		岡村 恒	＜担当形態＞ 単独
後期・1単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ ドイツ語神学書の講読			
＜到達目標＞ 神学的な諸概念と思考法を習得する。			
＜授業の概要＞ ドイツ語Ⅱa(前期)を参照。後期は、ドイツの代表的な神学者らの文書を丁寧に読み進んでいく。文法理解、英語訳との比較を通して、扱われている中心的な神学概念に触れる。			
＜履修条件＞ 初級文法を習得していること。			
＜授業計画＞ 第1回 Der Glaube allein, Martin Luther① 第2回 Der Glaube allein, Martin Luther② 第3回 Johannes 1:29, Adolf Schlatter① 第4回 Johannes 1:29, Adolf Schlatter② 第5回 Das Reich Gottes bei Hesekiel, Albert Schweitzer① 第6回 Das Reich Gottes bei Hesekiel, Albert Schweitzer② 第7回 Die Liebe, Karl Barth① 第8回 Die Liebe, Karl Barth② 第9回 Jesus (Röm. 3:22), Karl Barth① 第10回 Jesus (Röm. 3:22), Karl Barth② 第11回 Unser Sinn ist in Jesus, Dietrich Bonhoeffer① 第12回 Unser Sinn ist in Jesus, Dietrich Bonhoeffer② 第13回 Der verlorene Sohn, Helmut Thielicke 第14回 Sammlung und Durchbruch (Micha 2:12,13), Hans Walter Wolff 第15回 Das Gleiten zwischen den Ufern, Jörg Zink 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は45分～60分を目安とする。 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。			
＜テキスト＞ Modern Theological German, Helmut W. Ziefle, Grand Rapids, 1998. テキストは必要に応じて配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～③及び⑤の内容を重視する。			

保健体育科目			
体育Ⅰ		岡田 光弘	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 体育		
<授業のテーマ> 生涯にわたって、自らの日常生活における諸活動を有意義に過ごすため、各自の体力維持・向上の運動方法と、生活を豊かにする基礎的な知識、態度、技術を身につけるとともに、卒業後の活動に役立てることのできる指導方法も学びます。			
<到達目標> 1. 体を動かす楽しさと喜びを再認識できる、各自の体力に合わせた健康体力作りの理論と実践を習得します。 2. 宣教・教会活動に役立つレクリエーション活動の理論と各種活動、および指導法の習得を目指します。			
<授業の概要> 主に身体活動を中心とした実技を行います。 各自の体力に合わせたストレッチ体操、様々な球技、他者と楽しむニュースポーツなどのレクリエーション活動を実践し、合わせて具体的な指導方法について学びます。			
<履修条件> 各自が参加できるレベル、方法で行います。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション（クラスの進め方、体育の考え方、レクリエーションの考え方） 第2回 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際 1 第3回 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際 2（同上） 第4回 ソフトボール1 ＊東神大運動会に向けて（用具の知識と安全、キャッチボール・バッティングの基本） 第5回 ソフトボール2（試合へ向けての基礎技術／キャッチ&スロー、ピッチング、連係プレー） 第6回 ソフトボール3（基本ルールの理解、模擬試合） 第7回 ソフトボール4（ノック練習、試合） 第8回 ニュースポーツ1（フライングディスク／投げ方の基本、取り方の基本、ディスクゴルフの楽しみ方） 第9回 ニュースポーツ2（フライングディスク／ルール・安全管理の理解） 第10回 ニュースポーツ3（フライングディスク／ディスクゴルフ） 第11回 バドミントン1（打ち方） 第12回 バドミントン2（ルール・安全管理の理解） 第13回 バドミントン3（試合） 第14回 バドミントン3（指導法） 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 授業前・後の準備は 180 分～240 分を目安とする。 1. 運動に適した服装に着替えてください。 2. それぞれの種目に適した靴を用意してください。 3. 十分な睡眠をとるなど、体調に十分留意してください。 4. 授業ごとに、コーディネーションなどの運動課題を遂行してください。			
<テキスト> 井上俊・菊幸一（編）（新版）『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房（購入の必要はありません。）			
<参考書・参考資料等> 特に指定しません。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 技能：60％ 時間ごとの観察により評価します。 知識：20％ 実際にゲームを進行していく知識を評価します。 態度：20％ 運動に適した服装などの用意ができているか、授業に積極的に参加しているかを評価します。出席が 2/3 に満たない場合、成績評価の対象にしません。評価にあたっては「共通評価指標（1）①②」の内容を重視します。			

保健体育科目		
体育Ⅱ	岡田 光弘	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> 体育	
<授業のテーマ> 生涯にわたって、自らの日常生活における諸活動を有意義に過ごすため、各自の体力維持・向上の運動方法と、生活を豊かにする基礎的な知識、態度、技術を身につけるとともに、卒業後の活動に役立てることのできる指導方法も学びます。		
<到達目標> 1. 体を動かす楽しさと喜びを再認識できる、各自の体力に合わせた健康体力作りの理論と実践を習得します。 2. 庭球と卓球について、練習法、ルール、試合に必要な技術について学ぶことで、その基礎を獲得します。		
<授業の概要> 庭球、卓球の試合が行えるようになるために、以下の事柄について学びます。 1. ゲームを構成するすべての技術について、その技術を習得します。 2. ゲームを構成するすべてのルールを習得します。 3. 学期が終わったあとも自己学習ができるように練習の仕方を学びます。		
<履修条件> 各自が参加できるレベル、方法で行います。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 コーディネーション・トレーニングの理論と実践 第3回 硬式テニスのルールと用具の歴史（以下、テニス） 第4回 フォアハンドボレー、バックハンドボレー 第5回 フォアハンド・ストローク（トップスピン打法の習得） 第6回 バックハンド・ストローク、ミニゲーム 第7回 サービスとレシーブ 第8回 ダブルス・ゲーム 第9回 シングルス・ゲームとテニスのまとめ 第10回 ピンポン・卓球のルールと用具の歴史（以下、卓球） 第11回 バックハンド・ショート（またはハーフボレー）（ドライブサーブとカットサーブ） 第12回 フォアハンド・ストローク（ドライブ打法の習得） 第13回 多球練習による分習法、制限付きゲームによる全習法 第14回 シングルスとダブルスの試合 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 授業前・後の準備は180分～240分を目安とする。 1. 運動に適した服装に着替えてください。 2. それぞれの種目に適した靴を用意してください。 3. 十分な睡眠をとるなど、体調に十分留意してください。 4. 授業ごとに、コーディネーションなどの運動課題を遂行してください。		
<テキスト> 井上俊・菊幸一（編）（新版）『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房（購入の必要はありません。）		
<参考書・参考資料等> 特に指定しません。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 技能：60％ 時間ごとの観察により評価します。 知識：20％ 実際にゲームを進行していく知識を評価します。 態度：20％ 運動に適した服装などの用意ができているか、授業に積極的に参加しているかを評価します。出席が2/3に満たない場合、成績評価の対象にしません。評価にあたっては「共通評価指標（1）①②」の内容を重視します。		

専門教育科目必修・聖書神学関係			
旧約聖書神学Ⅰ		田中 光	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教学）		
<授業のテーマ> 旧約聖書を総論的に探究し、同時にモーセ五書の緒論的・神学的内容を学ぶこと。			
<到達目標> 旧約聖書とは何かということについて、とりわけモーセ五書について、歴史的、神学的知見両方から深い洞察を獲得すること。			
<授業の概要> 前半で旧約聖書を巡る諸問題（正典としての旧約、イスラエルの歴史、解釈の歴史など）を扱い、後半でモーセ五書を扱う。教科書や参考書に言及しつつ、担当教員が準備したレジュメに基づいて講義を行う。			
<履修条件> 旧約聖書神学ⅡおよびⅢよりも先に受講することが望ましい。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション&イントロダクション（旧約聖書とは何か、それを探究する方法とは） 第2回 旧約聖書解釈の歴史① 新約聖書の時代から宗教改革の時代まで 第3回 旧約聖書解釈の歴史② プロテスタント正統主義の時代から 19 世紀まで 第4回 旧約聖書解釈の歴史③ 20 世紀から現代まで（＋旧約聖書解釈の方法論） 第5回 正典としての旧約聖書（その形と形成の歴史） 第6回 旧約聖書本文を巡る諸問題（本文伝承、古代語諸訳） 第7回 旧約聖書の背景となっている歴史・地理 第8回 旧約聖書の背景となっている古代オリエントの諸観念と旧約聖書の独自性 第9回 モーセ五書の総論と研究史 第10回 創世記 第11回 出エジプト記 第12回 レビ記 第13回 民数記 第14回 申命記 第15回 全体のまとめ 定期試験			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 該当するテキストの箇所や、聖書の箇所をよく読んでくること。また授業後によく復習をすること。			
<テキスト> 左近淑『旧約聖書緒論講義』教文館；W. H. シュミット（木幡藤子訳）『旧約聖書入門 上・下』教文館、1994年（初版、上）／2003年（初版、下）。			
<参考書・参考資料等> 適宜、授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業における貢献度、学期末の筆記試験で評価する。共通評価指標（1）の①～③を重視する。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
旧約聖書神学Ⅱ		田中 光	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教学）		
<授業のテーマ> 申命記的歴史、歴代誌的歴史、知恵文学、詩文学について学ぶこと。			
<到達目標> 上記の旧約諸文書についての歴史的、神学的知識を獲得すること。			
<授業の概要> 上記の旧約諸文書の一つずつ取り上げて学んでいく。教科書や参考書に言及しつつ、担当教員が準備したレジュメに基づいて講義を行う。			
<履修条件> 旧約聖書神学Ⅰを履修済みであることが望ましい。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション&イントロダクション 第2回 モーセ五書における申命記主義的編集（研究史概観） 第3回 申命記的歴史の総論と研究史 第4回 ヨシュア記 第5回 士師記 第6回 サムエル記 第7回 列王記 第8回 歴代誌的歴史の総論と研究史＋歴代誌 第9回 エズラ・ネヘミヤ記 第10回 知恵文学の総論＋ヨブ記 第11回 箴言・コヘレトの言葉 第12回 詩編 第13回 雅歌・哀歌 第14回 ルツ記・エステル記 第15回 まとめ 定期試験			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 該当するテキストの箇所や、聖書の箇所をよく読んでくること。また授業後によく復習をすること。			
<テキスト> 左近淑『旧約聖書緒論講義』教文館；W. H. シュミット（木幡藤子訳）『旧約聖書入門 上・下』教文館、1994年（初版、上）／2003年（初版、下）。			
<参考書・参考資料等> 適宜、授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業における貢献度、学期末の筆記試験で評価する。共通評価指標（1）の①～③を重視する。			

専門教育科目必修・聖書神学関係		
旧約聖書神学Ⅲ	矢田 洋子	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ> 預言者とは何かという問いを、具体的な旧約テキストとその研究史を考察することを通して、探究する。		
<到達目標> 預言者についての本質的な理解を深めるとともに、預言書全般についての概説的知識を獲得する。		
<授業の概要> 最初の数回で、預言者についての総論的知識を学び、その後、書物ごとに学びを深める。書物ごとの学びでは、その預言書の最近の研究状況の紹介、鍵となる神学的テーマについての考察などがなされる。		
<履修条件> 旧約聖書神学Ⅰ履修済み、または並行して履修中であること。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 預言者総論：問題点と研究史概観 p.257・p.280 第3回 預言者総論：古典預言者の否定的同定と肯定的同定（預言者とは何か） p.280・p.288 第4回 第1イザヤ：イザヤ書の構成、イザヤの召命 p.289・p.304 第5回 第1イザヤ：メシア預言の成立 p.305・319 第6回 第2イザヤ：独自性と統一性、精神的環境 p.320・p.335 第7回 第2イザヤ：歴史回復の神学 p.336・p.346 第8回 第3イザヤ（教科書では扱われない） 第9回 エレミヤ：内容区分と編集、エレミヤの時代 p.346・p.362 第10回 エレミヤ：エレミヤの活動、エレミヤのメッセージ p.363・p.368 第11回 エゼキエル：エゼキエルとエゼキエル書（教科書では扱われない） 第12回 十二小預言書：十二小預言書の位置づけと内容（教科書では扱われない） 第13回 ダニエル書：ダニエル書の概説、黙示文学とは何か（教科書では扱われない） 第14回 全体的総括、質疑応答 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 授業毎に、その回に関係する聖書テキストを読み、また教科書の該当部分を読んでくること。 教科書をよく読み、そこに引用される重要な聖書箇所を精読して、預言について問題意識を持つ。		
<テキスト> 左近淑（大住雄一編）『旧約聖書緒論講義』教文館		
<参考書・参考資料等> W.H.シュミット（木幡訳）『旧約聖書入門下』教文館。その他は授業中に指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加と学期末の試験によって成績を付ける。評価にあたっては、共通評価指標（1）①～③の内容を重視する。		

専門教育科目必修・聖書神学関係		
旧約聖書釈義 a	田中 光	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ> 旧約聖書からの説教を最終目標とした釈義の学び		
<到達目標> 旧約聖書を釈義する手法を身に着け、説教作成に役立てる術を会得すること。		
<授業の概要> 前期は下記に定める教科書を一緒に読みながら、釈義の基礎知識を学ぶ。		
<履修条件> 旧約聖書神学Ⅰを履修済みであることが望ましい。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 釈義とは何か： 釈義についての概論的考察 第3回 教科書 第1章1－7： 釈義の全過程についての手引き（前半） 第4回 教科書 第1章8－7： 釈義の全過程についての手引き（後半） 第5回 教科書 第2章1－4： 釈義と原典本文（前半） 第6回 教科書 第2章5－12： 釈義と原典本文（後半） 第7回 教科書 第3章1－4： 説教のための釈義の簡潔な手引き（前半） 第8回 教科書 第3章5－7： 説教のための釈義の簡潔な手引き（後半） 第9回 教科書 第4章1： 釈義の参考図書（本文批評） 第10回 教科書 第4章2－3： 釈義の参考図書（翻訳、文法） 第11回 教科書 第4章4－6： 釈義の参考図書（語彙的な分析、様式、構造） 第12回 教科書 第4章7－8： 釈義の参考図書（歴史的な文脈、文学的な分析） 第13回 教科書 第4章9－11： 釈義の参考図書（聖書の文脈、神学、適用） 第14回 教科書 第4章12： 釈義の参考図書（二次文献） 第15回 全体のまとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 学生は事前に該当する教科書の箇所を予習し、授業後は内容の復習をしておくこと。		
<テキスト> D.スチュアート（山吉智久訳）『旧約聖書の釈義』教文館、2017年。		
<参考書・参考資料等> 適宜、授業の中で指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と期末のレポートで評価する。理由なく授業の三分の一以上を欠席した者は、レポートを提出することができない。レポートの課題は、夏休み前に提示する。共通評価指標（1）の①～③を重視。		

専門教育科目必修・聖書神学関係			
旧約聖書釈義 b		田中 光	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教学）		
<授業のテーマ> 旧約聖書からの説教を最終目標とした釈義の学び			
<到達目標> 旧約聖書を釈義する手法を身に着け、説教作成に役立てる術を会得すること。			
<授業の概要> 前期に学んだ釈義の基礎知識を前提に、後期では具体的な聖書テキストの釈義を行う。			
<履修条件> 旧約聖書神学Ⅰを履修済みであることが望ましい。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 創世記2章1－3節の釈義（前半） 第3回 創世記2章1－3節の釈義（後半） 第4回 創世記32章22－32節の釈義（前半） 第5回 創世記32章22－32節の釈義（後半） 第6回 イザヤ書8章23－9章6節の釈義（前半） 第7回 イザヤ書8章23－9章6節の釈義（後半） 第8回 イザヤ書25章6－10節の釈義（前半） 第9回 イザヤ書25章6－10節の釈義（後半） 第10回 哀歌3章16－33節の釈義（前半） 第11回 哀歌3章16－33節の釈義（後半） 第12回 詩編2編1－12節の釈義（前半） 第13回 詩編2編1－12節の釈義（後半） 第14回 詩編16編1－11節の釈義（前半） 第15回 詩編16編1－11節の釈義（後半）			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 学生は事前に該当する聖書箇所をよく読んでくること。			
<テキスト> 複数の日本語訳聖書			
<参考書・参考資料等> 適宜、授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と学期末に提出していただく釈義レポートで評価する。理由なく三分の一以上を欠席した者は、レポートを提出することができない。共通評価指標（1）の①～③を重視。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
新約聖書神学Ⅰ		中野 実	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位		＜登録条件＞新約聖書神学Ⅱと通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
			教科に関する専門的事項（宗教学）
＜授業のテーマ＞新約聖書とはいかなる書物であるか、新約聖書を学問的に学ぶことの神学的意義について学ぶ。			
＜到達目標＞新約聖書がいかなる書物であるかを深く把握し、新約聖書を学問的に読むことの神学的意義を理解できるようになる。			
＜授業の概要＞新約聖書神学Ⅰにおいては、まず序論として、聖書とは何か？聖書学、聖書神学とは何か？聖書正典とは何か、などについて学ぶ。次に各論に入り、福音書研究の基礎について学ぶ。			
＜履修条件＞ギリシャ語Ⅰを並行して履修していること。			
＜授業計画＞			
第１回 聖書を学問的に読むとは？聖書とは？			
第２回 聖書を学問の対象にするとは？			
第３回 聖書学とは？聖書の批判的研究。			
第４回 近代・現代聖書学のルーツとその展開			
第５回 新約聖書とは何か？ 新約聖書という名称について。			
第６回 旧約聖書について			
第７回 新約聖書の文学、初期キリスト教文書としての新約聖書			
第８回 正典としての新約聖書 正典とは何か？			
第９回 正典化プロセスについて			
第１０回 新約聖書の写本について			
第１１回 新約聖書の時代史について			
第１２回 福音書とは何か？ 福音と福音書			
第１３回 福音書文学：福音書は伝記か？			
第１４回 共観福音書問題： 共観福音書とは何か？それらをめぐる諸仮説			
第１５回 マルコ優先説、二資料仮説、Q資料について。			
＜準備学習等の指示＞ １回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 上記の授業計画に基づいて、予習、復習の時間をしっかり確保すること。			
＜テキスト＞聖書 旧約・新約そろったものを持ってくること。			
＜参考書・参考資料等＞必要に応じて、クラスにおいて適宜指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席が三分の二に達していない場合は、原則として評価の対象にしない。評価は、共通評価指標（1）に基づいてなされる。とくに期末レポートにおいては、課題やテキストを正しく理解しつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかどうかの評価の指標となる。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
新約聖書神学Ⅱ		中野 実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 教科に関する専門的事項（宗教学）		
＜授業のテーマ＞新約聖書を学問的に読むことの神学的意義を理解しつつ、福音書について学ぶ。			
＜到達目標＞新約聖書正典に含まれる四福音書に関する学問的な基礎知識を身に付けることができる。			
＜授業の概要＞新約聖書神学Ⅰでの学びを前提にしつつ、四福音書がそれぞれ有している歴史的、文学的、神学的特徴について学ぶ。			
＜履修条件＞ギリシャ語Ⅱを並行して履修していること。			
＜授業計画＞ 第1回 マルコ福音書：緒論的歴史的諸問題 第2回 マルコ福音書：文学的諸問題、構成、物語展開 第3回 マルコ福音書：神学的諸問題 第4回 マタイ福音書：緒論的歴史的諸問題 第5回 マタイ福音書：文学的諸問題、構成、物語展開 第6回 マタイ福音書：神学的諸問題 第7回 ルカ福音書：緒論的歴史的諸問題 第8回 ルカ福音書：文学的諸問題、構成、物語展開 第9回 ルカ福音書：神学的諸問題 第10回 ヨハネ福音書：緒論的歴史的諸問題 第11回 ヨハネ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開 第12回 ヨハネ福音書：神学的諸問題 第13回 ルカ文書について 第14回 ヨハネ文書について 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 上記の授業計画に基づいて、予習、復習の時間をしっかり確保すること。			
＜テキスト＞旧・新約聖書 ギリシャ語新約聖書も持参すること。			
＜参考書・参考資料等＞必要に応じて、クラスで適宜指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席が三分の二に達していない場合は、原則として評価の対象にしない。評価は、共通評価指標（1）に基づいてなされる。とくに期末レポートにおいては、課題やテキストを正しく理解しつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかどうかの評価の指標となる。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
新約聖書神学Ⅲ		河野 克也	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
			教科に関する専門的事項（宗教学）
＜授業のテーマ＞			
パウロ書簡を通して、使徒パウロの神学について理解を深める。			
＜到達目標＞			
履修生は、パウロ書簡各文書の歴史的背景を考慮しつつ、パウロの宣教活動および神学の全体像を理解できるようになることを目指す。			
＜授業の概要＞			
パウロの思想的背景、パウロ以前の初代教会との関わり、主要な論点、後代への影響などを分析する。			
＜履修条件＞			
ギリシャ語初級文法を既に履修済みであること。			
＜授業計画＞			
第1回 オリエンテーション：パウロと向き合う			
第2回 パウロの歴史的背景：パウロ以前の初代教会			
第3回 パウロの生涯：異邦人の使徒としての召命を中心に			
第4回 書簡文学とパウロの手紙執筆			
第5回 神学者パウロ：パウロの福音の中心的要素（1）——キリスト、神、聖霊			
第6回 神学者パウロ：パウロの福音の中心的要素（2）——終末と救い、義と信仰、倫理			
第7回 パウロとイスラエルおよび律法			
第8回 パウロの教会共同体			
第9回 パウロの影響史			
第10回 パウロ書簡の分析（1）：1テサロニケ書、フィリピ書			
第11回 パウロ書簡の分析（2）：1&2コリント書			
第12回 パウロ書簡の分析（3）：ガラテヤ書			
第13回 パウロ書簡の分析（4）：ローマ書			
第14回 パウロ書簡の分析（5）：フィレモン書			
第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 授業において指示する課題図書を事前に読んでおくこと。			
＜テキスト＞ 旧・新約聖書、ギリシア語新約聖書			
＜参考書・参考資料等＞ David G. Horrell, <i>An Introduction to the Study of Paul</i> , 3rd ed. (London et al.: Bloomsbury, 2015). その他、必要に応じてクラスで指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席が2/3に満たない場合は対象外。授業への貢献と期末レポートを共通評価指標（1）に基づいて評価する。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
新約聖書釈義 a		河野 克也	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>新約聖書釈義 a, b を通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教学）		
<授業のテーマ> 新約聖書テキストの釈義の手順を学ぶ。			
<到達目標> 履修生は、新約聖書ギリシャ語テキストから説教へと至る釈義のプロセスを理解し、実践できるようになることを目指す。			
<授業の概要> ゴードン・フィー『新約聖書の釈義』を手がかりに、釈義のプロセスを学ぶ。			
<履修条件> ギリシャ語初級文法を既に履修済みであること。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション：クラスの目標と課題について 第2回 釈義とは何か？ フィー『新約聖書の釈義』序論、第1章「釈義の全過程についての手引き」 第3回 ステップ1：全般的に歴史的脈絡を概観する 第4回 ステップ2：章句の区切りを確認する 第5回 ステップ3：段落・ペリコーペを徹底的に熟知する（1）——暫定訳の作成・釈義上の問題点の整理 第6回 ステップ3：段落・ペリコーペを徹底的に熟知する（2）——翻訳版の比較検討・段落の確定 第7回 ステップ4：文の構成と統語的關係を分析する（1）——図式化についての説明 第8回 ステップ4：文の構成と統語的關係を分析する（2）——図式化の実践 第9回 ステップ5：本文を確定する（1）——本文批評の理論 第10回 ステップ5：本文を確定する（2）——本文批評の実践 第11回 ステップ6：文法を分析する（1）——釈義文法の概要 第12回 ステップ6：文法を分析する（2）——釈義文法の実践 第13回 説教のための釈義（1）——手順の確認 第14回 説教のための釈義（2）——実践 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 『新約聖書の釈義』の該当箇所を読み、各ステップにおいて指定する準備をしておくこと。			
<テキスト> G・D・フィー『新約聖書の釈義』（教文館、1988年）を各自で購入しておくこと。ギリシア語新約聖書校訂版（ネストレ＝アラント第28版、あるいは、UBS第5版）			
<参考書・参考資料等> 浅野淳博他『新約聖書解釈の手引き』（日本キリスト教団出版局、2016年）。必要に応じてクラスで指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席が2/3に満たない場合は対象外。授業への貢献と期末レポートを共通評価指標（1）に基づいて評価する。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
新約聖書釈義 b		河野 克也	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>新約聖書釈義 a, b を通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教学）		
<授業のテーマ> 新約聖書テキストの釈義の手順を学ぶ。			
<到達目標> 履修生は、新約聖書ギリシャ語テキストから説教へと至る釈義のプロセスを理解し、実践できるようになることを目指す。			
<授業の概要> ゴードン・フィー『新約聖書の釈義』を手がかりに、釈義のプロセスを学ぶ。			
<履修条件> ギリシャ語初級文法を既に履修済みであること。			
<授業計画> 第1回 ステップ7：重要な語を分析する（1）——語義研究の概要 第2回 ステップ7：重要な語を分析する（2）——語義研究の実践 第3回 ステップ8：歴史的文化的背景を探求する（1）——ユダヤ的背景概観 第4回 ステップ8：歴史的文化的背景を探求する（2）——ギリシア・ローマ的背景概観 第5回 書簡の釈義 ①（ステップ9）：書簡の形式面での特徴を確定する 第6回 書簡の釈義 ②（ステップ10-11）：特有の歴史的脈絡、文化的脈絡を調べる 第7回 福音書の釈義 ①（ステップ9）：ペリコーペの形式面での特徴を確定する 第8回 福音書の釈義 ②（ステップ10）：ペリコーペを福音書共観表で分析する 第9回 福音書の釈義 ③（ステップ11）：イエスの宣教活動において可能な生活の諸状況を考察する 第10回 使徒言行録の釈義（ステップ10-11）：歴史的問題を研究する・文学的脈絡を確定する 第11回 黙示録の釈義 ①（ステップ9）：黙示録の形式面での特徴を理解する 第12回 黙示録の釈義 ②（ステップ10-11）：歴史的脈絡、文学的脈絡を確定する 第13回 ステップ12：より広い聖書的また神学的脈絡を考察する 第14回 ステップ13：第2次文献を蓄積し、広く読む 第15回 ステップ14：完成した訳・説教ノートを提供する			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 『新約聖書の釈義』の該当箇所を読み、各ステップにおいて指定する準備をしておくこと。			
<テキスト> 新約釈義 a の同項目を参照。			
<参考書・参考資料等> 必要に応じてクラスで指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席が2/3に満たない場合は対象外。授業への貢献と期末レポートを共通評価指標（1）に基づいて評価する。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
ギリシャ語Ⅰ（1・2）		中野 実	＜担当形態＞ 単独
前期・4単位		＜登録条件＞ギリシャ語Ⅱと通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞新約聖書のギリシャ語文法の基礎的理解を身につけ、ギリシャ語新約聖書の基本的読解力を養う。			
＜到達目標＞新約聖書ギリシャ語の基本文法を理解し、新約聖書をギリシャ語で正確に読む力を身につけることができる。			
＜授業の概要＞前期においては、まず基本文法の習得に努める。クラスでは、大貫隆『新約聖書ギリシア語入門』（岩波書店）を教科書として用いながら学びを進めていく。目標は、ギリシャ語新約聖書の読解にある。それ故、基本文法を学びながらも、ギリシャ語新約聖書テキストに慣れ親しむことにも注意を向けたい。			
＜履修条件＞とくになし。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 新約聖書を原典で読むとは？ 第2回 文字と発音 第3回 単語：音節、アクセント、句読点など。 第4回 動詞の活用について。 第5回 動詞活用 直接法能動現在 第6回 名詞の変化、第一変化名詞 第7回 格と用法、第二変化名詞 第8回 定冠詞、第一、第二変化形容詞 第9回 第二変化の女性名詞、第一変化の男性名詞 第10回 第三変化名詞、第三変化形容詞 第11回 第三変化名詞続き、前置詞とその用法 第12回 人称代名詞、後接辞と前接辞 第13回 指示代名詞、強意代名詞 第14回 中・受動相現在、能動相欠如動詞など。 第15回 本時称と副時称、能動相未完了過去 第16回 中・受動相未完了過去、接続詞、否定詞、否定疑問文。 第17回 再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞 第18回 能動相未来、中動相未来。 第19回 形容詞と副詞の比較、格の特殊用法 第20回 能動相第一アオリスト 第21回 中動相第一アオリスト 第22回 能動相現在完了 第23回 中・受動相現在完了 第24回 過去完了 第25回 受動相アオリスト 第26回 受動相未来 第27回 能動相現在分詞、中・受動相現在分詞 第28回 能動相未来分詞、中動相未来分詞 第29回 能動相アオリスト分詞、中動相アオリスト分詞 第30回 受動相アオリスト分詞、受動相未来分詞			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 暗記して身につけるべき課題の多い科目なので、上記の授業計画に基づいて、予習、復習の時間をしっかり確保すること。各自、学習グループを作るなどして、工夫することも大切。			
＜テキスト＞ 大貫隆『新約聖書ギリシア語入門』岩波書店 2004年 学生が各自クラス開始までに準備しておくこと。			
＜参考書・参考資料など＞ギリシャ語の新約聖書（ネストレーア・ラント版あるいはUBS版）を各自用意する。詳しくはクラスで指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席が三分の二に達しない場合、原則として評価の対象にしない。共通評価指標（1）に基づきながら、出席などの基本点に加え、クラス内で行われる練習問題、試験（クイズ）などを通して、総合的に評価する。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
ギリシャ語Ⅱ		中野 実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ギリシャ語Ⅰと通年で履修すること。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞新約聖書のギリシャ語文法の基本的理解を身につけ、ギリシャ語新約聖書の基本的読解力を養う。			
＜到達目標＞前期から学んでいる基礎文法に基づいて、少しずつギリシャ語新約聖書テキストを読解できるようになる。			
＜授業の概要＞前期から始めた基本文法の学びをさらに進めていく。その際、ギリシャ語新約聖書テキストを読解するために必要な知識、方法にも注意を向けていく。			
＜履修条件＞ギリシャ語Ⅰを履修済みのこと。			
＜授業計画＞ 第1回 能動相現在完了分詞、中・受動相現在完了分詞 第2回 分詞の述語的用法、独立属格構文 第3回 母音融合動詞、流音幹動詞 第4回 不規則変化形容詞、接続詞とその用法 第5回 希求法 第6回 条件文 第7回 疑問代名詞、不定代名詞 第8回 関係代名詞、不定関係代名詞 第9回 不定詞 第10回 命令法 第11回 μι 動詞 第12回 数詞 第13回 固有名詞、小辞 第14回 読解へ向けて、コンコルダンス。辞典について。 第15回 まとめ。			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 上記の授業計画にもとづいて、予習、復習の時間をしっかり確保する。			
＜テキスト＞大貫隆『新約聖書ギリシア語入門』岩波書店 2004年			
＜参考書・参考資料等＞辞典、コンコルダンスについては、クラスで適宜指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席が三分の二に達しない場合、原則として評価の対象にしない。共通評価指標（1）に基づきながら、出席などの基本点に加え、クラス内で行われる練習問題、試験（クイズ）などを通して、総合的に評価する。			

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学Ⅰ a		芳賀 力	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）			
<授業のテーマ>			
キリスト教信仰の基本的内容を、教義学の重要項目に沿って、組織的、体系的に整理し、考察する。			
<到達目標>			
伝道者として宣べ伝えるべき福音の基本的内容を明確に把握し、表現できるようになる。			
<授業の概要>			
講義形式で行うが、疑問点の質問や全体の感想・意見の表明を歓迎する。			
<履修条件>			
将来の専攻にかかわらず、必ず履修すること。			
<授業計画>			
第1回 歴史としての啓示と神の言葉の伝承			
第2回 神の名の啓示と神の人格性			
第3回 教会の成立と信仰の規則			
第4回 聖書の成立と正典としての権威			
第5回 聖書の効力とその解釈			
第6回 神の存在証明			
第7回 被造世界と内なる良心			
第8回 有神論と無神論			
第9回 経綸的三位一体論			
第10回 内在的三位一体論、神の本質と属性			
第11回 無からの創造			
第12回 宗教と科学、一般恩恵			
第13回 創造の根拠、創造のロゴス、創造のエネルゲイア			
第14回 神に対応する人間			
第15回 運命と摂理、創造の目的			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 ノートやメモをよく整理しておくこと。			
<テキスト>拙著『神学の小径Ⅰ 啓示への問い』キリスト新聞社、2008年。『神学の小径Ⅱ 神への問い』2012年。 『神学の小径Ⅲ 創造への問い』2015年			
<参考書・参考資料等>			
授業内で適宜指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
学期末にレポートを提出してもらう。共通評価指標（1）に基づいて評価する。			

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学 I b		芳賀 力	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）			
<授業のテーマ>			
キリスト教信仰の基本的内容を、教義学の重要項目に沿って、組織的、体系的に整理し、考察する。			
<到達目標>			
伝道者として宣べ伝えるべき福音の基本的内容を明確に把握し、表現できるようになる。			
<授業の概要>			
講義形式で行うが、疑問点の質問や全体の感想・意見の表明を歓迎する。			
<履修条件>			
将来の専攻にかかわらず、必ず履修すること。			
<授業計画>			
第1回 救済のニーズと罪の問題			
第2回 罪障、罪責、罪性			
第3回 人の子としてのイエス			
第4回 苦難の僕の死			
第5回 復活の主と神の子の告白、キリスト論の成立			
第6回 救済の出来事とその解釈			
第7回 恵みとしての信仰義認			
第8回 恵みとしての予定と選び			
第9回 救済史の担い手			
第10回 キリストの体としての教会			
第11回 説教と sacrament			
第12回 義認と聖化、福音と律法、歴史形成の論理			
第13回 開始された終末論			
第14回 死と永遠の命			
第15回 神の国のビジョン			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 ノートやメモをよく整理しておくこと。			
<テキスト>			
拙著『神学の小径Ⅳ 救済への問い』キリスト新聞社、2019 年。『神学の小径Ⅴ 成就への問い』2023 年。			
<参考書・参考資料等>			
授業内で適宜指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
学期末にレポートを提出してもらう。共通評価指標（1）に基づいて評価する。			

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学Ⅱ a		神代 真砂実	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 組織神学Ⅱb と併せて登録（履修）すること	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）		
<授業のテーマ> キリスト教倫理学の基礎と諸問題について学ぶ。			
<到達目標> ①一般倫理学とキリスト教倫理学との関係のあり方とその可能性を理解し、②キリスト教倫理学固有の特徴と主張、およびその基礎となる信仰理解を身に着ける。			
《授業の概要》 主にキリスト教倫理学の予備的議論について講義する。並行して、キリスト教倫理思想史の学びを、H・リチャード・ニーバーの『キリストと文化』の講読によって行なう。			
<履修条件> 組織神学Ⅰを履修済みか、並行して履修していること。			
<授業計画> （テキストの講読は第2回から。一回あたり一節を目安に行なう。） 第1回 序——過渡期のキリスト教倫理学 第2回 Ⅰ. キリスト教倫理と倫理的課題 1) 倫理的課題、2) 一般倫理の諸側面、3) 行為についての規範的倫理学の形成 第3回 4) 倫理学と価値についての理論、5) 存在についての規範的倫理学の形成 第4回 6) 倫理学の正当化 第5回 7) 正当化の諸説 Ⅱ. ギリシャの倫理学的伝統 1) キリスト教とギリシャの倫理学的伝統、2) プラトン 第6回 3) アリストテレス 第7回 4) エピクロス、5) ストア派 第8回 6) プロティノス 第9回 Ⅲ. 聖書の倫理 1) 旧約聖書 第10回 2) イエス 第11回 3) パウロ 第12回 Ⅳ. 伝統的モデル 1) アウグスティヌス 第13回 2) トマス・アキナス 第14回 3) 宗教改革者達 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示>1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 なお、よくノートをとること。			
<テキスト> H・リチャード・ニーバー、『キリストと文化』、赤城泰訳、（日本キリスト教団出版局、オンデマンド）。			
<参考書・参考資料等> 特になし。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期中の小課題（複数回）による。共通評価指標（1）の①～④が重視される。			

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学Ⅱ b		神代 真砂実	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 組織神学Ⅱa と併せて登録（履修）すること。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）		
<授業のテーマ> Ⅱ a と同じ。			
<到達目標> Ⅱ a と同じ。			
<授業の概要> 主にキリスト教倫理の形成について講義する。ニーバーの『キリストと文化』の講読も並行して行なう。			
<履修条件> Ⅱ a と同じ。			
<授業計画> （テキストの講読は第2回から。一回あたり一節を目安に行なう。） 第1回 V. 現代的モデル 1) 社会秩序のキリスト教化、2) 超越の倫理学 第2回 3) 規範としての愛、4) 弟子の倫理 第3回 5) 解放の倫理学 第4回 6) 徳と性格、7) 福音派 第5回 8) まとめ VI. キリスト教倫理と現代の状況 1) 現代の状況 第6回 2) キリスト教倫理と人間の倫理的探求①普遍性・②神の意志・③善・④人間中心性 ・⑤キリスト教による変革 第7回 2) キリスト教倫理と人間の倫理的探求⑥自然主義からの脱出・⑦キリスト教倫理の普遍性 3) 共同体に基礎を置くキリスト教倫理学①全体性・②徳 第8回 3) 共同体に基礎を置くキリスト教倫理学③潜在的危険・④諸宗教の伝統 ・⑤キリスト教倫理の独自性 第9回 VII. キリスト教倫理学の基礎 1) 啓示 第10回 2) 神学的基礎①神 第11回 2) 神学的基礎②人間・③キリスト教的生活の中心・④倫理的生活の方向性 第12回 VIII. キリスト教倫理の内容——包括的愛 1) キリスト教的な愛の理解の基礎 第13回 2) 愛の倫理、3) 愛とキリスト教倫理、4) 愛の倫理とキリスト教共同体 第14回 おわりに——礼拝と倫理 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 他はⅡ a と同じ。			
<テキスト> Ⅱ a と同じ。			
<参考書・参考資料等> 特になし。			
<学生に対する評価（方法・基準）> Ⅱ a と同じ。			

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学Ⅲ a		須田 拓	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 組織神学Ⅲb と通年で登録することが望ましい	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
	教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）		
＜授業のテーマ＞ 組織神学の中の弁証学について扱う。			
＜到達目標＞ 弁証学の基礎的な知識を身につけ、現代世界での伝道において問われる事柄について、自ら神学的に考え、自分なりの答えを出せるようになる。			
＜授業の概要＞ 弁証学とは何か、またその歴史について講義した上で、悪の問題について、及び無神論の問題について、どのようにキリスト教の真理性を弁証可能か検討する。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション、弁証学とは何か 第2回 弁証学の方法と可能性 第3回 弁証学の歴史(1) 古代教父(i)（ユスティノスなど） 第4回 弁証学の歴史(2) 古代教父(ii)（アウグスティヌスなど） 第5回 弁証学の歴史(3) 近代の神学者（シュライエルマッハー） 第6回 弁証学の歴史(4) 現代の神学者 第7回 中間総括 第8回 悪の問題（神義論）(1) 神義論の課題 第9回 悪の問題（神義論）(2) 悪の起源と正体について 第10回 悪の問題（神義論）(3) 悪の克服の問題の前提としての創造論 第11回 悪の問題（神義論）(4) 悪の克服 第12回 無神論(1) 無神論の諸相 第13回 無神論(2) 無神論への応答 第14回 信仰と理性 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 前回の内容をよく復習すると共に、扱われるテーマに関する聖書箇所を読んでくる。			
＜テキスト＞ 特になし。			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて授業の中で指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加状況およびレポートによって評価する。評価にあたっては、共通評価指標(1)記載項目中の①～④を重視する。			

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学Ⅲ b		須田 拓	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 組織神学Ⅲa と通年で登録することが望ましい	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）			
<授業のテーマ> 組織神学の中の弁証学について扱う。			
<到達目標> 弁証学の基礎的な知識を身につけ、現代世界での伝道において問われる事柄について、自ら神学的に考え、自分なりの答えを出せるようになる。			
<授業の概要> 前期に引き続いて、歴史や近代の文化価値、「宗教の神学」「日本の神学」といったテーマに取り組む。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 神と歴史(1) 歴史とは何か 第3回 神と歴史(2) 救済史と歴史の意味 第4回 近代世界の文化価値(1) 近代世界の成立とキリスト教 第5回 近代世界の文化価値(2) 自由(i)（寛容と市民社会の自由） 第6回 近代世界の文化価値(3) 自由(ii)（自由の弁証） 第7回 近代世界の文化価値(4) 人格 第8回 中間総括 第9回 宗教の神学(1) 「キリスト教の絶対性」と他宗教の存在 第10回 宗教の神学(2) 多元主義について 第11回 宗教の神学(3) 包括主義について 第12回 日本の文脈(1) 近代の観点から 第13回 日本の文脈(2) 日本人の宗教観 第14回 日本の文脈(3) 日本伝道を目指して 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 前回の内容をよく復習すると共に、扱われるテーマに関する聖書箇所を読んでくる。			
<テキスト> 特になし。			
<参考書・参考資料等> 必要に応じて授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況およびレポートによって評価する。評価にあたっては、共通評価指標(1)記載項目中の①～④を重視する。			

専門教育科目必修・歴史神学関係		
教会史Ⅰ	本城 仰太	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ> 古代教会（教会のはじまりからアウグスティヌスの時代まで）の歴史と諸問題を学ぶ。		
<到達目標> ①古代教会史の知識を身に着けるだけでなく、古代教会の歴史を整理して概観できる力を養う。 ②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を神学的に論じる力を養う。		
<授業の概要> 古代教会史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画> 第1回 ガイダンス、教会のはじまりと地中海世界 第2回 教会と国家：教会への迫害 第3回 使徒教父たち 第4回 弁証家たち 第5回 正統と異端①：エイレナイオス 第6回 正統と異端②：テルトゥリアヌスとキプリアヌス 第7回 アレクサンドリア学派：クレメンスとオリゲネス 第8回 コンスタンティヌス帝とキリスト教公認 第9回 修道院運動 第10回 キリスト論論争①：アレイオス主義とニカイア信条 第11回 キリスト論論争②：アタナシオスとニカイア・コンスタンティノポリス信条 第12回 カップドキア三教父 第13回 4～5世紀の教会①：アンブロシウス、クリュソストモス、ヒエロニュモス 第14回 4～5世紀の教会②：アウグスティヌスとその神学 第15回 総括 期末試験		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 授業中にとったノートをもとに、講義内容を<参考書>などによって補いながら、自分で整理して記述できるようにしていくこと。		
<テキスト> 特に定めない。毎回プリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> 1. J. ゴンザレス『キリスト教史（上巻）』（新教出版社） 2. W. ウォーカー『キリスト教史①古代教会』（ヨルダン社） 3. ブロック『古代教会史』（教文館）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 講義の出席を前提とし、①期末試験 および ②レポートによって、共通評価指標（1）に基づいて総合的に評価する。		

専門教育科目必修・歴史神学関係		
教会史Ⅱ	本城 仰太	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ> 中世（アウグスティヌス後から宗教改革前まで）の教会の歴史と諸問題を学ぶ。		
<到達目標> ①中世の教会史の知識を身に着けるだけでなく、歴史を整理して概観できる力を養う。 ②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を神学的に論じる力を養う。		
<授業の概要> 中世の教会史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画> 第1回 ガイダンス、古代から中世へ 第2回 中世初期の教会と伝道 第3回 教会と国家①：神聖ローマ帝国の成立 第4回 教会と国家②：西方教会と東方教会 第5回 教会と国家③：叙任権闘争 第6回 修道院運動①：修道院運動の展開 第7回 修道院運動②：修道院の刷新運動 第8回 十字軍 第9回 修道院運動③：托鉢修道会 第10回 教会と国家④：教皇権の絶頂 第11回 スコラ神学①：初期（アンセルムスとアベラルドゥス） 第12回 スコラ神学②：盛期（トマス・アクィナスとボナヴェントゥーラ） 第13回 教会と国家⑤：教皇庁の衰退 第14回 中世から宗教改革時代へ 第15回 総括 期末試験		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 授業中にとったノートをもとに、講義内容を<参考書>などによって補いながら、自分で整理して記述できるようにしていくこと。		
<テキスト> 特に定めない。毎回プリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> 1. 出村彰『中世キリスト教の歴史』（教団出版局） 2. J. ゴンザレス『キリスト教史（上巻）』（新教出版社）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 講義の出席を前提とし、①期末試験 および ②レポートによって、共通評価指標（1）に基づいて総合的に評価する。		

専門教育科目必修・歴史神学関係		
教会史Ⅲ	本城 仰太	<担当形態> 単独
後期・２単位	<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ> 宗教改革期（改革前史、ルターの改革から各地の宗教改革まで）の歴史と諸問題を学ぶ。		
<到達目標> ①宗教改革史の知識を身に着けるだけでなく、宗教改革の歴史を整理して概観できる力を養う。 ②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を神学的に論じる力を養う。		
<授業の概要> 宗教改革史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画> 第１回 宗教改革前史①：教会改革の必要性 第２回 宗教改革前史②：エラスムスと人文主義 第３回 ドイツの改革①：改革者ルター 第４回 ドイツの改革②：ルターの神学 第５回 ドイツの改革③：ルター派教会の形成 第６回 スイスの改革①：ツヴィングリ 第７回 再洗礼派 第８回 スイスの改革②：カルヴァン 第９回 カルヴァンの神学と改革派教会の形成 第１０回 改革者たちの神学：聖餐論、洗礼論、教会論 第１１回 イングランドの改革 第１２回 スコットランドの改革 第１３回 諸信条・信仰告白・問答 第１４回 カトリック教会の改革 第１５回 総括 期末試験		
<準備学習等の指示> １回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 授業中にとったノートをもとに、講義内容を<参考書>などによって補いながら、自分で整理して記述できるようにしていくこと。		
<テキスト> 特に定めない。毎回プリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> １. J. ゴンザレス『キリスト教史（下巻）』（新教出版社） ２. 出村彰『総説 キリスト教史 ２ 宗教改革篇』（日本キリスト教団出版局）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 講義の出席を前提とし、①期末試験 および ②レポートによって、共通評価指標（１）に基づいて総合的に評価する。		

専門教育科目必修・歴史神学関係			
教会史Ⅳ		佐野 正子	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
教科に関する専門的事項（宗教史）			
＜授業のテーマ＞ 近・現代の教会史の動向と諸問題			
＜到達目標＞ 近・現代の教会史に関わる資料を読みこなし、基礎的な知識を習得し、教会史に関する諸問題を概観できる能力を養う。			
＜授業の概要＞ 近・現代の教会史を、史料にあたりながら、地域別、テーマごとに講義する。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞			
第1回 ガイダンス、教会史概観			
第2回 宗教改革から近・現代へ			
第3回 17・18世紀のイギリスのキリスト教-英国国教会とピューリタニズム			
第4回 17・18世紀のアメリカのキリスト教-アメリカの植民地時代の教会			
第5回 17・18世紀のイギリス・アメリカのキリスト教-メソジスト運動			
第6回 17・18世紀のアメリカのキリスト教-大覚醒とアメリカの独立			
第7回 17・18世紀のヨーロッパのキリスト教-ルター派教会と敬虔主義			
第8回 17・18世紀のヨーロッパのキリスト教-改革派教会とアルミニウス主義			
第9回 17・18世紀のヨーロッパのキリスト教-トリエント公会議後のカトリック教会			
第10回 19世紀のプロテスタント教会			
第11回 19世紀のカトリック教会			
第12回 近代の東方正教会			
第13回 エキュメニカル運動			
第14回 現代世界の教会			
第15回 総括			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 講義内容を＜参考書＞などによって補いながら、自分で整理して復習すること。			
＜テキスト＞ プリントを配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ A.E. マクグラス『キリスト教神学資料集』キリスト新聞社 2007年、J. ゴンザレス『キリスト教史（下巻）』キリスト新聞社 2013年、栗林輝夫他『総説 キリスト教史3 近・現代篇』日本キリスト教団出版局 2007年、W. ウォーカー『キリスト教史④ 近・現代のキリスト教』ヨルダン社 1986年、菊地榮三他『キリスト教史』教文館 2017年			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業の参加度および期末レポートによって総合的に評価する。出席を2/3以上満たした者を評価の対象とする。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～⑤の内容を重視する。			

専門教育科目必修・歴史神学関係			
教会史Ⅴ		小室 尚子	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
教科に関する専門的事項（宗教史）			
<授業のテーマ>			
日本におけるキリスト教宣教開始（16世紀）以来の、教会形成の歴史を学ぶ。			
<到達目標>			
異教社会での多くの試練を越えて、教会がどのように形成、展開されて来たのかを学ぶことによって、現代において宣教に遣わされる者が、歴史的視点に立って、何を受け継ぎ、どのように伝えて行くのかの指針を見出すことを目標とする。			
<授業の概要>			
キリシタンの時代から現代までの教会史／教会と日本の伝統的思想との緊張関係／現代日本において教会が抱える問題と課題（日本基督教団の問題と課題を中心に）と3つのテーマによって講義を進める。			
<履修条件>			
<授業計画>			
第1回 序論：教会史を学ぶ意義			
第2回 キリスト教伝来前史			
第3回 キリシタンの歴史（1549～1873）			
第4回 キリシタンの教会形成			
第5回 プロテスタント・キリスト教の移入と展開			
第6回 教会の形成期（1859～1912）			
第7回 （1）日本基督公会時代とその後			
第8回 （2）福音主義の理解			
第9回 （3）教育史における貢献と弾圧			
第10回 聖書の翻訳			
第11回 教会の発展期（1912～1926）			
第12回 教会の試練と解放（1926～現代）			
第13回 （1）戦時下、日本基督教団の成立			
第14回 （2）戦後から現代へ：日本基督教団が抱えた問題			
第15回 （3）日本の教会の課題			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 テキストや配付史料をよく読み込むこと。			
<テキスト>			
鶴沼裕子『史料による日本キリスト教史』聖学院大学出版会 『日本キリスト教史年表[改訂版]』日本キリスト教歴史大事典編集委員会編 教文館（絶版のため、授業時にコピーを配付する。）			
<参考書・参考資料等>			
初回授業時に文献表とともに紹介する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
レポート（60%）と、授業への参加意識(40%)によって評価する。レポートは、「共通評価指標（1）」によって評価する。			

専門教育科目必修・歴史神学関係		
宗教史Ⅰ	上村 敏文	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	＜科目＞	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞	教科に関する専門的事項（宗教史）
＜授業のテーマ＞世界の宗教全般を広く学ぶ。歴史神学としての世界の宗教の基本的研究法、理論を学ぶと同時に、特にキリスト教との関連においての視座と、それぞれの宗教の立場の相違に着目する。		
＜到達目標＞学生は①世界の宗教の基本的教義を学ぶ。②その上でどのような歴史的背景と必然性により、その宗教が生じたのかに着目する。③キリスト教伝道において、宗教史を学ぶことにより、その応用としての伝道論を各自が理解できるようにする。		
＜授業の概要＞指定されたテキストを中心に講義を進めていく。適宜、配布資料、レジュメなどにより、発展的にテキストを理解、そしてそれぞれがキリスト教の立場からどのように了解するかに留意していく。		
＜履修条件＞世界の宗教を学んだ上で、さらに発展的に日本の宗教についての理解を深めていくことが望ましい。		
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 宗教史総説 第2回 先史・未開の宗教について 第3回 古代宗教とその定義 第4回 ギリシャ・ローマの宗教 第5回 ユダヤ人の宗教（1） その歴史的位置と特質 第6回 ユダヤ人の宗教（2） ディアスポラ以降 第7回 キリスト教 西方教会 第8回 キリスト教と東方教会 第9回 イスラーム（1） 教義と歴史概観 第10回 イスラーム（2） ヘジラ以降の変遷と現代 第11回 インド人の宗教 自然、社会、文化 第12回 仏教（1） 原始仏教 部派仏教 第13回 仏教（2） 北伝と南伝仏教 密教について 第14回 中国人の宗教 儒教と道教を中心として 第15回 日本人の宗教 神道について 定期試験		
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。事前に指摘テキストの該当箇所を読んでおくこと。		
＜テキスト＞ 岸本英夫 『世界の宗教』（原書房、2008）		
＜参考書・参考資料等＞ 門脇佳吉『日本の宗教とキリストの道』（岩波書店、1997）		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞①期末試験による考査。②授業への積極的取り組み（事前学習等）を重視する。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～⑤の内容を重視する。		

専門教育科目必修・実践神学関係			
実践神学概論 a		小泉 健	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 通年（a、b）の登録が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。			
<到達目標> 神学の全体構造の中に実践神学を正しく位置づけられるようになること。実践神学の主要なテーマについて、基本的な考え方を身につけること。			
<授業の概要> 前期は実践神学全体を概観した上で、実践神学基礎論としての教会論と説教学を扱う。			
<履修条件> 原則として、学部最終学年において履修のこと。			
<授業計画> 第1回 神学とは何かを改めて考え、その中での実践神学の位置づけを学ぶ。 第2回 実践神学とは何か（その1）実践神学の歴史を学ぶ。 第3回 実践神学とは何か（その2）「実践」と「神学」との関係を学ぶ。 第4回 実践神学とは何か（その3）現代のさまざまな実践神学の立場を知る。 第5回 実践神学とは何か（その4）まとめとして、実践神学を伝道論として捉えることを学ぶ。 第6回 教会建設論（その1）信仰と救済にとってなぜ教会が必要かを考える。 第7回 教会建設論（その2）さまざまな教会建設論の考え方を考える。 第8回 教会建設論（その3）実践神学基礎論としての教会論を整理する。 第9回 教会建設論（その4）日本において伝道する教会を建設する際の課題を考える。 第10回 説教学（その1）説教とは何か 説教の神学 第11回 説教学（その2）誰が説教するのか 説教者論 第12回 説教学（その3）誰に説教するのか 聴衆論 第13回 説教学（その4）どこで説教するのか 説教と礼拝 第14回 説教学（その5）何を説教するのか 説教と聖書 第15回 説教学（その6）いかに説教するのか 説教と修辞学			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 教室で配布される資料をていねいに読み、教会生活と照らし合わせて考察すること。			
<テキスト> レジュメを用いるほか、必要に応じて教室でプリントを配布する。			
<参考書・参考資料等> 加藤常昭『教会とは何か』東神大パンフレット2 山口隆康『アブラハムと実践神学』東神大パンフレット27 R. ボーレン『神が美しくなられるために』教文館 R. リチャー『説教の神学——キリストのいのちを伝える』教文館 その他については授業中に文献表を配布する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席態度とレポートによって評価する。共通評価指標（1）の②～④を重視する。			

専門教育科目必修・実践神学関係			
実践神学概論 b		小泉 健	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 通年（a、b）の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。			
<到達目標> 教会で実践され、経験的に知っている行為に対して、神学的に把握し反省するための実践神学的な考え方を身につけること。			
<授業の概要> 実践神学諸科から、とくに礼拝学と牧会学の基礎を扱う。			
<履修条件> 原則として、学部最終学年において履修のこと。			
<授業計画> 第1回 礼拝学（その1）「礼拝」の広がり、と、礼拝を礼拝にするものを考える。 第2回 礼拝学（その2）新約聖書における礼拝と1、2世紀の教会の礼拝から学ぶ。 第3回 礼拝学（その3）3、4世紀の教会の礼拝についての重要文献を読む。 第4回 礼拝学（その4）宗教改革における礼拝改革を学ぶ。 第5回 礼拝学（その5）宗教改革以後の教会の礼拝の変遷を学ぶ。 第6回 礼拝学（その6）以上の学びを踏まえて、わたしたちの礼拝を再考する。 第7回 礼拝学（その7）個別のテーマとして、聖礼典の理解と礼拝堂の問題を取り上げる。 第8回 礼拝学（その8）個別のテーマとして、教会暦と主日聖書日課、さらに讃美歌学を取り上げる。 第9回 牧会学（その1）「牧会」とは何かを、聖書と教会の歴史から考える。 第10回 牧会学（その2）20世紀以降の牧会学におけるさまざまな牧会の理解を学ぶ。 第11回 牧会学（その3）牧会の課題について整理する。 第12回 牧会学（その4）特別な牧会の場面（結婚、病、死別）について考察する。 第13回 牧会学（その5）牧会の方法（祈り、指導、訪問、手紙）を考える。 第14回 牧会学（その6）個別のテーマとして、告解と相互牧会を取り上げる。 第15回 牧会学（その7）教会法と戒規を牧会の問題として理解する。			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 教室で配布される資料をていねいに読み、教会生活と照らし合わせて考察すること。			
<テキスト> レジュメを用いるほか、必要に応じて教室でプリントを配布する。			
<参考書・参考資料等> J. F. ホワイト『キリスト教の礼拝』日本基督教団出版局 加藤常昭『慰めのコイノーニア——牧師と信徒が共に学ぶ牧会学』日本キリスト教団出版局 その他については授業中に文献表を配布する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席態度とレポートによって評価する。共通評価指標（1）の②～④を重視する。			

専門教育科目必修・実践神学関係		
キリスト教教育概論 a	長山 道	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 通年登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> キリスト教教育の理論、歴史、諸問題について学ぶ。		
<到達目標> キリスト教教育の特徴、キリスト教教育学の基本的な用語とその意味、キリスト教教育の歴史を理解する。		
<授業の概要> キリスト教教育に関する基礎的な理論および歴史について講義し、現代の教会やキリスト教学校との関連についてディスカッションをしながら考察を深める。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 キリスト教教育とは 第2回 信仰を教えることは可能か 第3回 教師としてのイエス（1）マルコによる福音書 第4回 教師としてのイエス（2）マタイによる福音書 第5回 福音伝道とキリスト教教育 第6回 キリスト教教育と道德教育 第7回 原始キリスト教における教育（1）パラドシス 第8回 原始キリスト教における教育（2）ケリュグマとディダケー 第9回 原始キリスト教における教育（3）パイディア 第10回 中世におけるキリスト教教育 第11回 宗教改革期におけるキリスト教教育（1）ルター 第12回 宗教改革期におけるキリスト教教育（2）カルヴァン 第13回 ピューリタンの時代におけるキリスト教教育 第14回 カテキズム教育（1）『大教理問答』『小教理問答』 第15回 カテキズム教育（2）『ハイデルベルク信仰問答』		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 毎回の講義の中で教員が指示する。		
<テキスト> レジュメを配布する。		
<参考書・参考資料等> 講義中に適宜指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを課す。共通評価指標（1）に基づいて評価する。		

専門教育科目必修・実践神学関係		
キリスト教教育概論b	長山 道	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 通年登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> キリスト教教育の理論、歴史、諸形態について学ぶ。		
<到達目標> キリスト教教育の特徴、キリスト教教育学の基本的な用語とその意味、キリスト教教育学の基本的な議論を理解する。		
<授業の概要> キリスト教教育に関する基礎的な理論について講義し、現代の教会やキリスト教学校との関連についてディスカッションをしながら考察を深める。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 カテキズム教育（3）『ウェストミンスター小教理問答』 第2回 近代の教育学に見る「キリスト教的」人間観（1）コメニウス 第3回 近代の教育学に見る「キリスト教的」人間観（2）フレーベル 第4回 近代の教育学に見る「キリスト教的」人間観（3）ペスタロッチ 第5回 創造と聖化 第6回 教会学校の歴史と意義 第7回 幼児洗礼 第8回 キリスト教幼児教育 第9回 キリスト教学校 第10回 青少年期のキリスト教教育 第11回 成人のキリスト教教育 第12回 高齢者のキリスト教教育 第13回 人格形成とキリスト教教育 第14回 礼拝と教育 第15回 家庭におけるキリスト教教育		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 毎回の講義の中で教員が指示する。		
<テキスト> レジュメを配布する。		
<参考書・参考資料等> 講義中に適宜指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを課す。共通評価指標（1）に基づいて評価する。		

専門教育科目選択必修・学部演習			
旧約聖書学部演習 a		矢田 洋子	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 旧約聖書学の方法と議論に親しみ旧約聖書学分野で論文を書く準備をする。			
<到達目標> 旧約聖書学の方法論を理解する。			
<授業の概要> 前期の授業の前半では、旧約聖書学の基本的書物を読み、知識を整理する。 前期の後半では、エレミヤ書 31 章 31～34 節を原典で読み、釈義論文作成の準備をする。			
<履修条件> ヒブル語 I を履修済または並行して履修中であること。			
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 『預言者 I』前理解のために・序曲 p.17-p.75、『預言者 II』序文 p.3-p.8 第 3 回 『預言者 I』アッシリア時代初頭の無条件的災いの預言：アモス p.76-p.149 第 4 回 『預言者 I』アッシリア時代初頭の無条件的災いの預言：ホセア、ミカ p.140-p.205 第 5 回 『預言者 I』アッシリア時代初頭の無条件的災いの預言：イザヤ p.205-p.302 第 6 回 『預言者 I』アッシリア時代の終わりのある決定的な日の預言者たち p.303-314 『預言者 II』新バビロニア時代の回帰を求める預言：申命記 p.19-p.39 第 7 回 『預言者 II』新バビロニア時代の回帰を求める預言：エレミヤ p.40-p.155 第 8 回 『預言者 II』新バビロニア時代の回帰を求める預言：ハバククとオバデヤ、エゼキエル p.155-p.220 第 9 回 『預言者 II』新バビロニア時代の回帰を求める預言：第二イザヤ p.221-p.278 ペルシア時代の預言活動の盛衰：第三イザヤ p.279-p.292 第 10 回 『預言者 II』ペルシア時代の預言活動の盛衰：ハガイとゼカリヤ、マラキからヨナまで p.293-p.342 回顧と展望 p.343-p.367 第 11 回 エレミヤ書について、日本語の注解書を読む（現代聖書注解、ATD） 第 12 回 エレミヤ書 31 章 31～32 節を原典で読む。 第 13 回 エレミヤ書 31 章 33 節を原典で読む。 第 14 回 エレミヤ書 31 章 34 節を原典で読む。 第 15 回 まとめ			
<準備学習等の指示> 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 演習形式で授業を行う。前半は、基本的書物を読むにあたっては、内容を要約して発表していただき、皆で議論する。後半の事前準備はその都度指示する。			
<テキスト> K. コッホ（荒井・木幡訳）『預言者 I』教文館、1990 年、K. コッホ（荒井訳）『預言者 II』教文館、2009 年 Biblia Hebraica Stuttgartensia			
<参考書・参考資料等> ヘブライ語辞書（Holladay, BDB など）、コンコーダンス（G. Lisowsky, <i>Konkordanz zum Hebräischen Alten Testament</i> など）、 <i>Theological Dictionary of the Old Testament</i> ,			
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表内容、授業への参加度によって評価する。評価は共通評価指標（1）①③④⑤に基づいて行う。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
旧約聖書学部演習 b		矢田 洋子	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> ヘブライ語原典を読んで釈義し、釈義論文を作成する。			
<到達目標> 学部卒業論文の作成。エレミヤ書 31 章 31～34 節についての釈義論文、あるいはそこから自分で立てたテーマについての小論文。			
<授業の概要> エレミヤ書 31 章 31～34 節を原典で読み、いくつかの注解書を読み、コンコーダンス、神学用語辞典も利用しつつ、釈義的な議論を重ねる。			
<履修条件> 学部 4 年で旧約専攻あるいは希望者。			
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション、エレミヤ書 31 章 31～34 節の原典購読の復習とコンコーダンス利用の紹介 第 2 回 外国語の注解書を読む (WBC) 第 3 回 外国語の注解書を読む (AB) 第 4 回 外国語の注解書を読む (Hermeneia, ICC) 第 5 回 神学用語辞典 (TDOT) を読む。 第 6 回 コンコーダンスを利用した報告 第 7 回 参考文献の探し方、図書館ツアー 第 8 回 論文執筆の注意事項、形式、パラグラフ、参考文献など 第 9 回 論文作成経過発表① 第一グループ 第 1 0 回 論文作成経過発表① 第二グループ 第 1 1 回 論文作成経過発表② 第一グループ 第 1 2 回 論文作成経過発表② 第二グループ 第 1 3 回 論文作成経過発表③ 第一グループ 第 1 4 回 論文作成経過発表③ 第二グループ 第 1 5 回 論文報告会			
<準備学習等の指示> 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 自分の担当回に向けて、発表の準備を十分にしてくること。前半の注解書、神学用語辞典、コンコーダンス利用については、演習形式で、担当者に発表していただき、共に議論する。			
<テキスト> 特に定めない。			
<参考書・参考資料等> ヒブル語辞書 (Holladay, BDB など)、ヒブル語コンコーダンス (G. Lisowsky, <i>Konkordanz zum Hebräischen Alten Testament</i> など)、 <i>Theological Dictionary of the Old Testament</i> ,			
<学生に対する評価 (方法・基準)> 発表の内容と、学部卒業論文によって評価する。評価は共通評価指標 (2) に基づいて行う。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
新約聖書学部演習 a		河野 克也	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 学部4年生	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 新約聖書解釈の方法論について基礎的な知識を獲得し、新約聖書学の論文を執筆する基礎を築く。			
＜到達目標＞ 履修生は学部論文執筆に必要な各方法論を理解し、その実践的知識を習得することを目指す。			
＜授業の概要＞ 『新約聖書解釈の手引き』（日本キリスト教団出版局、2016年）を使い、各方法論について学ぶ。			
＜履修条件＞ 新約聖書学部演習 a, b を通年で履修すること。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション：序論 第2回 第1章：本文批評 第3回 第2章：資料・様式・編集（1）——概観・共観福音書問題 第4回 第2章：資料・様式・編集（2）——様式史・編集史 第5回 第3章：社会史的研究 第6回 第4章：社会科学批評 第7回 第5章：修辞学批評 第8回 第6章：物語批評 第9回 第7章：スピーチアクト分析 第10回 第8章：文化研究批評 第11回 第9章：正典批評 第12回 方法論に関するまとめ 第13回 新約聖書解釈の実践（1）——歴史批評的アプローチ 第14回 新約聖書解釈の実践（2）——文学批評的アプローチ 第15回 新約聖書解釈の実践（3）——イデオロギー批評的アプローチ ＊各自1回、方法論を一つ選んでクラス内で発表すること			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 『新約聖書解釈の手引き』の該当箇所を読んでおくこと。			
＜テキスト＞ 浅野淳博、他『新約聖書解釈の手引き』（日本キリスト教団出版局、2016年）。			
＜参考書・参考資料等＞ G・D・フィー『新約聖書の釈義』（教文館、1988年）。必要に応じてクラスで指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席が2/3に満たない場合は対象外。授業への貢献、発表と期末レポートを共通評価指標（1）に基づき評価。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
新約聖書学部演習 b		河野 克也	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 学部4年生	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 学部論文としての釈義レポートを書く準備を行う。			
<到達目標> 履修生は、釈義論文の各プロセスを実際に辿りつつ、論文執筆に向けて実践的な知識を習得することを目指す。			
<授業の概要> 具体的なテキストを取り上げ、釈義の各段階を確認しながら、最終的に論文を執筆する。			
<履修条件>			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 論文、レポートの書き方について 第3回 釈義論文の書き方について 第4回 論文のテーマを設定する 第5回 問題を定義する 第6回 釈義のプロセスを確認する 第7回 方法論を設定する 第8回 先行研究と対話する (1)：注解書を使う 第9回 先行研究と対話する (2)：研究書を使う 第10回 論文作成の実践 (1)：フィー『新約聖書の釈義』ステップ 1-3 第11回 論文作成の実践 (2)：フィー『新約聖書の釈義』ステップ 4-6 第12回 論文作成の実践 (3)：フィー『新約聖書の釈義』ステップ 7-8 第13回 論文作成の実践 (4)：フィー『新約聖書の釈義』ステップ 9-11 第14回 論文作成の実践 (5)：フィー『新約聖書の釈義』ステップ 12-15 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 授業の準備として、各自でギリシャ語テキスト、注解書、研究書をよみ、釈義の各段階と取り組む。			
<テキスト> G・D・フィー『新約聖書の釈義』（教文館、1988年）、浅野淳博、他『新約聖書解釈の手引き』（日本キリスト教団出版局、2016年）。			
<参考書・参考資料等> 必要に応じてクラスで紹介する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席が2/3に満たない場合は対象外。授業への貢献と期末レポートを共通評価指標（2）に基づき評価。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
組織神学学部演習 a		須田 拓	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>組織神学学部演習 b と通年で履修・登録することを原則とする	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 卒業論文の作成に向けて、組織神学的に考え叙述する技法を学ぶ。			
<到達目標> 組織神学的に考えることができるようになる。			
<授業の概要> 後期における卒業論文作成の準備			
<履修条件> 学部4年生で卒業を予定している者			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 卒業論文の主題について 第3回 論文の書き方(1) 論文とは何か 第4回 論文の書き方(2) 論文の構成と書き方 第5回 組織神学の考え方(1) 文章の読解 第6回 組織神学の考え方(2) 内容の検討 第7回 組織神学の考え方(3) 批評とその書き方 第8回 中間総括 第9回 卒業論文の主題と文献について 第10回 組織神学の論じ方(1) 神学的文章の読解 第11回 組織神学の論じ方(2) 神学的文章の検討 第12回 組織神学の論じ方(3) 神学的文章の批評 第13回 卒業論文主題の検討 第14回 卒業論文主題の最終決定 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 与えられた課題を準備してくること。			
<テキスト> 特になし			
<参考書・参考資料等> 授業の中で、必要に応じて指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況と学期中の課題によって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）に基づいて評価する。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
組織神学学部演習 b		須田 拓	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>組織神学学部演習 a と通年で履修・登録することを原則とする	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 学部卒業論文を作成する。			
<到達目標> 学部卒業論文を作成する。			
<授業の概要> 受講者を3つのグループに分け、順に中間発表を重ねながら、卒業論文を作成する。			
<履修条件> 前期と同じ			
<授業計画>			
第1回 オリエンテーション			
第2回 文献表・主要文献の内容概観の発表（第1グループ・第2グループ前半）			
第3回 文献表・主要文献の内容概観の発表（第2グループ後半・第3グループ）			
<第1サイクル>（1,000字程度を執筆してくる）			
第4回 第1グループのメンバー各自の発表			
第5回 第2グループのメンバー各自の発表			
第6回 第3グループのメンバー各自の発表			
<第2サイクル>（2,000字程度を執筆してくる）			
第7回 第1グループのメンバー各自の発表			
第8回 第2グループのメンバー各自の発表			
第9回 第3グループのメンバー各自の発表			
<第3サイクル>（3,000字程度を執筆してくる）			
第10回 第1グループのメンバー各自の発表			
第11回 第2グループのメンバー各自の発表			
第12回 第3グループのメンバー各自の発表			
<第4サイクル>（4,000字程度を執筆してくる）			
第13回 第1グループのメンバー各自の発表			
第14回 第2グループのメンバー各自の発表			
第15回 第3グループのメンバー各自の発表			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 論文作成に積極的に取り組むこと。			
<テキスト> 特になし			
<参考書・参考資料等> 授業の中で、必要に応じて指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 最終的に提出された卒業論文によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（2）に基づいて評価する。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
歴史神学学部演習 a		飯田 仰	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 歴史神学の学習方法の習得と学部論文作成の手順を学ぶ。			
<到達目標> ①歴史史料の扱い方、読み方を身につける。②歴史神学の方法論（特に史料を用いての論文の書き方）を身につける。			
<授業の概要> 歴史神学の学門研究のために必要な基礎概念、史料の扱い方、論文作成の方法等を学ぶ。テキストを割り当てて発表して内容をつかんでいく。また、その過程で自分の研究テーマを設定し、史料を集め、史料を読み、学部論文作成のための素材を整えていく。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 ガイダンス、歴史神学と歴史記述について 第2回 テキスト発表1章「テーマ設定」 第3回 テキスト発表2章「史料の探し方」 第4回 テキスト発表3章「研究の準備」 第5回 「テーマ」の発表 第6回 テキスト発表4章「史料の読み方とまとめ方」 第7回 テキスト発表5章「史料の批判」 第8回 「一次史料」の発表 第9回 「二次史料」の発表① 第10回 「二次史料」の発表② 第11回 テキスト発表6章「アウトライン」 第12回 「アウトライン」の発表 第13回 テキスト発表7章「書く」 第14回 テキスト発表8章「注と参考文献」 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 学部論文作成のための素材を整えていくために、計画的に進めていくこと。			
<テキスト> 澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫153）。このテキストは、各自購入しておくこと。			
<参考書・参考資料等> ジョンH.アーノルド『歴史』（新広記訳）岩波書店、2003年。N.F. Cantor, R.I. Schneider, <i>How to Study History</i> . 他			
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表とクラスでの討議の貢献度、レポート等によって、共通評価指標（1）に基づいて総合的に評価する。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
歴史神学学部演習 b		飯田 仰	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 歴史神学の学部論文作成と、各個教会史を批判的に読み解く訓練をする。			
<到達目標> ①歴史神学の方法論（特に史料を用いての論文の書き方）を習得する。②各個教会史などの歴史史料を批判的に評価できるようにする。			
<授業の概要> 前期に行った内容（テーマ設定、一次史料及び二次史料の読解、アウトライン作成）を踏まえ、実際に学部論文を作成していく。また、将来牧師として教会史を執筆することを踏まえ、各個教会史を読み、論評することを学ぶ。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 ガイダンス、学部論文と教会史について 第2回 論文作成における一次史料と二次史料の内容紹介及び分析 第3回 学部論文の中間発表① 第4回 学部論文の中間発表② 第5回 学部論文の中間発表③ 第6回 教会史作成のための史料 第7回 教会史と記念誌の論評 第8回 教会史・記念誌の発表① 第9回 教会史・記念誌の発表② 第10回 教会史・記念誌の発表③ 第11回 学部論文の発表① 第12回 学部論文の発表② 第13回 学部論文の発表③ 第14回 ディスカッション 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 学部論文作成に向けて、授業で指示されたことを確実に進めていくこと。			
<テキスト> 澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫153）。このテキストは、各自購入しておくこと。			
<参考書・参考資料等> 土肥昭夫『各個教会史をどう書くか』（教文館）、他			
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表とクラスでの討議の貢献度、学部論文等によって、共通評価指標（1）及び（2）に基づいて総合的に評価する。			

専門教育科目選択必修・神学書講読		
英語神学書講読・聖書Ⅰ	山口 希生	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> マルコ福音書への複数の視点を持つ。		
<到達目標> 学生が、説教準備のために洋書を読みこなせるようになること。		
<授業の概要> 予習として訳してきたテキストを元にしてディスカッションを行う。		
<履修条件> 英語Ⅱ履修済みか、それと同程度の英語力を有していること。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション、テキスト Introduction 第2回 テキスト、第一章、pp. 19-28 第3回 テキスト、第一章、pp. 28-40 第4回 テキスト、第二章、pp. 41-48 第5回 テキスト、第二章、pp. 49-59 第6回 テキスト、第三章、pp. 60-67 第7回 テキスト、第三章、pp. 67-75 第8回 テキスト、第四章、pp. 76-85 第9回 テキスト、第四章、pp. 85-97 第10回 テキスト、第五章、pp. 98-106 第11回 テキスト、第五章、pp. 107-115 第12回 テキスト、第六章、pp. 116-127 第13回 テキスト、第六章、pp. 127-143 第14回 説教 第15回 説教 定期試験		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 指定した範囲を訳して授業に望むこと。		
<テキスト> Brian Blount and Gary Charles, <i>Preaching Mark in Two Voices</i> , Westminster John Knox, 2002		
<参考書・参考資料等> 辞書・文法書		
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の予習と授業参加、説教、試験を共通評価指標（1）にしたがって評価する。		

専門教育科目選択必修・神学書講読		
英語神学書講読・聖書Ⅱ	山口 希生	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> マルコ福音書への複数の視点を持つ。		
<到達目標> 学生が、説教準備のために洋書を読みこなせるようになること。		
<授業の概要> 予習として訳してきたテキストを元にしてディスカッションを行う。		
<履修条件> 英語Ⅱ履修済みか、それと同程度の英語力を有していること。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト、第七章、pp. 144-152 第3回 テキスト、第七章、pp. 153-160 第4回 テキスト、第八章、pp.161-169 第5回 テキスト、第八章、pp. 170-185 第6回 テキスト、第九章、pp.186-199 第7回 テキスト、第九章、pp. 200-207 第8回 テキスト、第十章、pp. 208-218 第9回 テキスト、第十章、pp. 218-231 第10回 テキスト、第十一章、pp. 232-245 第11回 テキスト、第十一章、pp.245-254 第12回 テキスト、第十二章、pp. 255-265 第13回 テキスト、第十二章、pp. 265-273 第14回 説教 第15回 説教 定期試験		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 指定した範囲を訳して授業に望むこと。		
<テキスト> Brian Blount and Gary Charles, <i>Preaching Mark in Two Voices</i> , Westminster John Knox, 2002		
<参考書・参考資料等> 辞書・文法書		
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の予習と授業参加、説教、試験を共通評価指標（1）にしたがって評価する。		

専門教育科目選択必修・神学書講読		
独語神学書講読・聖書Ⅰ	朴 憲郁	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位	＜登録条件＞ 特になし	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
＜授業のテーマ＞ 旧約/新約聖書神学の内、新約神学に関するドイツ語研究書の一書として P. Stuhlmacher の聖書学論文を読み合わせていく。		
＜到達目標＞ 文法的に正確にテキストを読むことを踏まえて、聖書神学のドイツ語文章に習熟すること。内容的には、各章・節・パラグラフなど、著者の展開の仕方と主張点を把握する。		
＜授業の概要＞ 神の国運動を推し進めたイエスの宣教と、イエスをキリストと告げた原始キリスト教の宣教に関する論争を明らかにしつつ、その神学的意味と成果を確認する。		
＜履修条件＞ ドイツ語文法とドイツ語書物の講読の基礎的知識のある人		
＜授業計画＞ 第1回 地上のイエスを問う必要性と問題点 第2回 イエスの出現の年代表 第3回 イエスと洗礼者ヨハネ 第4回 神の子と神の支配 第5回 イエスの宣教と特徴的な諸形式 第6回 イエスの宣教における神の唯一性と救済実現 第7回 イエスの宣教における神の意志 第8回 メシア的な人の子ーイエスの主権要求 第9回 イエスの苦難準備と死の理解 第10回 イエス派遣の結果ー受難と十字架 第11回 ナザレのイエスとは誰か？ 第12回 死者の中からのイエスの甦り 第13回 キリスト告白の発達 第14回 初期キリスト教の形成 第15回 初期キリスト教の結束と宣教		
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 毎回読み合わせていくテキスト箇所を、受講者が事前に予習しておくこと。		
＜テキスト＞ Peter Stuhlmacher, Biblische Theologie des Neuen Testaments, Band 1, Grundlegung Von Jesus zu Paulus, Göttingen 1992. 各自が購入することを勧めるが、授業用に当該箇所をプリントによっても用意する。		
＜参考書・参考資料等＞ 授業時に随時紹介する。		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 2/3以上の出席を前提とし、読み合わせ時の邦訳作業によって評価する。共通評価指標（1）の①～④を重視する。		

専門教育科目選択必修・神学書講読			
英語神学書講読・組織Ⅰ		須田 拓	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 学期毎の登録可	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 組織神学分野の英語文献を読む。			
<到達目標> 英語読解力を養成して、組織神学分野の英語文献を読んで理解することができるようになる。			
<授業の概要> 英語の神学書を読んで内容の把握に努めると共に、現代の三位一体論について学ぶ。授業では、受講者に、割り当てた箇所を要約あるいは全訳して発表していただく。			
<履修条件> 英語Ⅱ修了程度の英語力があること			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト講読 pp.1-2 第3回 テキスト講読 pp.3-4 第4回 テキスト講読 pp.5-7 第5回 テキスト講読 pp.8-10 第6回 テキスト講読 pp.11-12 第7回 テキスト講読 pp.13-14 第8回 テキスト講読 pp.15-17 第9回 テキスト講読 pp.18-19 第10回 テキスト講読 pp.20-21 第11回 テキスト講読 pp.22-23 第12回 テキスト講読 pp.24-25 第13回 テキスト講読 pp.26-27 第14回 テキスト講読 pp.28-29 第15回 テキスト講読 pp.30-32			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。			
<テキスト> Stephen R. Holmes, <i>The Quest for the Trinity: the Doctrine of God in Scripture, History and Modernity</i> , Downers Grove: IVP Academic, 2012. テキストは担当者が用意する。			
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況及び発表により評価する。評価にあたっては、共通評価指標(1)の①③を重視する。			

専門教育科目選択必修・神学書講読			
英語神学書講読・組織Ⅱ		須田 拓	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 学期毎の登録可	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 組織神学分野の英語文献を読む。			
＜到達目標＞ 英語読解力を養成して、組織神学分野の英語文献を読んで理解することができるようになる。			
＜授業の概要＞ 英語の神学論文を読んで内容を把握することを目指すと共に、カール・バルトの和解論について学ぶ。授業では、受講者に、割り当てた箇所を要約あるいは全訳して発表していただく。			
＜履修条件＞ 英語Ⅱ修了程度の英語力があること			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト講読 pp.68-69 第3回 テキスト講読 pp.70-71 第4回 テキスト講読 pp.71-72 第5回 テキスト講読 pp.73-74 第6回 テキスト講読 pp.74-75 第7回 テキスト講読 pp.76-77 第8回 テキスト講読 pp.77-78 第9回 テキスト講読 pp.79-80 第10回 テキスト講読 pp.80-81 第11回 テキスト講読 pp.82-83 第12回 テキスト講読 pp.83-84 第13回 テキスト講読 pp.85-86 第14回 テキスト講読 pp.86-87 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。			
＜テキスト＞ George Hunsinger, ‘A Tale of Two Simultaneities: Justification and Sanctification in Calvin and Barth’, in: John C. McDowell and Mike Higton eds, <i>Conversing with Barth</i> , Aldershot and Burlington: Ashgate, 2004, pp.68-89. テキストは担当者が用意する。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業において、必要に応じて指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加状況及び発表により評価する。評価にあたっては、共通評価指標(1)の①③を重視する。			

専門教育科目選択必修・神学書講読			
独語神学書講読・組織Ⅰ		芳賀 力	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ H. -J. Kraus のテキストを一字一句丹念に読み、現代において聖霊について語る神学的筋道を吟味する。			
＜到達目標＞ 辞書を頼りにドイツ語の神学書を読みこなす力を身につける。			
＜授業の概要＞ テキストを音読し、順番に訳していく。			
＜履修条件＞ ドイツ語の基本文法を一応終えていること。			
＜授業計画＞ 第１回 オリエンテーション：序章をかいつまんで説明する。 第２回 テキストの SS.13-14 第３回 テキストの SS.15-16 第４回 テキストの SS.17-18 第５回 テキストの SS.19-20 第６回 テキストの SS.21-22 第７回 テキストの SS.23-24 第８回 テキストの SS.25-26 第９回 テキストの SS.27-28 第１０回 テキストの SS.29-30 第１１回 テキストの SS.31-32 第１２回 テキストの SS.33-34 第１３回 テキストの SS.35-36 第１４回 テキストの SS.37-38 第１５回 テキストの SS.39-40			
＜準備学習等の指示＞ １回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 前もって辞書を小まめによく引き、不明な単語がないようにしておくこと。			
＜テキスト＞ Hans-Joachim Kraus, Heiliger Geist. Gottes befreiende Gegenwart, Kösel-Verlag München 1986. 担当者が用意する。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 毎回のドイツ語読解力をもって試験に代える。共通評価指標（１）のうち、特に①と②を重視する。			

専門教育科目選択必修・神学書講読			
独語神学書講読・組織Ⅱ		芳賀 力	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 前期に引き続き H.-J. Kraus のテキストを通して、現代において聖霊について語る神学的筋道を吟味する。			
＜到達目標＞ 辞書を頼りにドイツ語の神学書を読みこなす力を身につける。			
＜授業の概要＞ テキストを音読し、順番に訳していく。			
＜履修条件＞ ドイツ語の基本文法を一応終えていること。			
＜授業計画＞ 第1回 テキストの SS.41-42 第2回 テキストの SS.43-44 第3回 テキストの SS.45-46 第4回 テキストの SS.47-48 第5回 テキストの SS.49-50 第6回 テキストの SS.51-53 第7回 テキストの SS.54-55 第8回 テキストの SS.56-57 第9回 テキストの SS.58-59 第10回 テキストの SS.60-61 第11回 テキストの SS.62-63 第12回 テキストの SS.64-65 第13回 テキストの SS.66-67 第14回 テキストの SS.68-69 第15回 テキストの SS.70-71			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 前もって辞書を小まめによく引き、不明な単語がないようにしておくこと。			
＜テキスト＞ Hans-Joachim Kraus, Heiliger Geist. Gottes befreiende Gegenwart, Kösel-Verlag München 1986. 担当者が用意する。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 毎回のドイツ語読解力をもって試験に代える。共通評価指標（1）のうち、特に①と②を重視する。			

専門教育科目選択必修・神学書講読			
英語神学書講読・組織歴史Ⅰ		飯田 仰	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 英語の神学書を読むための基本的な読解力を養う。当該文献内容についての理解も深める。			
＜到達目標＞ 英語の神学書を神学的に読むことができるようにする。付随する神学的な用語・人物・署名等を自ら調べることができるようにする。英語の文献を理解した上で、神学的議論を展開できるようにする。			
＜授業の概要＞ １センテンスずつ訳してもらいながら進める。必要事項は適宜、解説しながら読んでいく。			
＜履修条件＞ 英語Ⅱ履修済みか、それと同程度の英語力を有していること。			
＜授業計画＞ 第１回 オリエンテーション、テキストの説明（Jaroslav Pelikan. <i>Credo: Historical and Theological Guide to Creeds and Confessions of Faith in the Christian Tradition</i>. New Haven and London: Yale University Press, 2003.） 第２回 テキスト pp. 1-5 第３回 テキスト pp. 7-10 第４回 テキスト pp. 10-13 第５回 テキスト pp. 13-16 第６回 テキスト pp. 16-18 第７回 テキスト pp. 18-22 第８回 テキスト pp. 22-26 第９回 テキスト pp. 27-31 第１０回 テキスト pp.31-34 第１１回 テキスト pp. 35-39 第１２回 テキスト pp. 39-43 第１３回 テキスト pp. 43-47 第１４回 テキスト pp. 48-53 第１５回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ １回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。予習をしていくこと。			
＜テキスト＞ 担当者が用意するプリント。			
＜参考書・参考資料等＞ 特になし。英和辞典、英文法解説書を準備すること。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提とし、授業での訳、授業への参加態度、期末レポート（テキストの要約）及び小テストによって、共通評価指標（１）に基づいて総合的に評価する。			

専門教育科目選択必修・神学書講読			
英語神学書講読・組織歴史Ⅱ		飯田 仰	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 英語の神学書を読むための基本的な読解力を養う。当該文献内容についての理解も深める。			
＜到達目標＞ 英語の神学書を神学的に読むことができるようにする。付随する神学的な用語・人物・署名等を自ら調べることができるようにする。英語の文献を理解した上で、神学的議論を展開できるようにする。			
＜授業の概要＞ 1センテンスずつ訳してもらいながら進める。必要事項は適宜、解説しながら読んでいく。			
＜履修条件＞ 英語Ⅱ履修済みか、それと同程度の英語力を有していること。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション、テキストの説明 (Alister E. McGrath. <i>Iustitia Dei: A History of the Christian Doctrine of Justification</i>. 4th ed. Cambridge: Cambridge University Press, 2020.) 第2回 テキスト pp. 26-28 第3回 テキスト pp. 28-30 第4回 テキスト pp. 30-32 第5回 テキスト pp. 32-36 第6回 テキスト pp. 36-38 第7回 テキスト pp. 38-41 第8回 テキスト pp. 42-46 第9回 テキスト pp. 46-52 第10回 テキスト pp. 52-58 第11回 テキスト pp. 59-63 第12回 テキスト pp. 63-65 第13回 テキスト pp. 67-70 第14回 テキスト pp. 71-76 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。予習をしてくること。			
＜テキスト＞ 担当者が用意するプリント。			
＜参考書・参考資料等＞ 特になし。英和辞典、英文法解説書を準備すること。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提とし、授業での訳、授業への参加態度、期末レポート（テキストの要約）及び小テストによって、共通評価指標（1）に基づいて総合的に評価する。			

専門教育科目選択・聖書神学関係			
旧約聖書神学Ⅳ		左近 豊	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 旧約聖書に見出される神学思想の現代的意義について考察する。			
＜到達目標＞ 東日本大震災や COVID-19 などによる共同体の危機において、特に旧約聖書の「嘆き」に注目し、学生が将来、教会の礼拝、牧会、祈り、霊的生活において旧約聖書神学的視座に立って思索できるようになる。			
＜授業の概要＞ パンデミックを含めた災害や危難に直面した地域に建てられている教会の「とりなし祈り」の務めについて、旧約聖書の詩人たちの祈りに学ぶ。危機の時代に発せられた言葉として旧約詩編、エレミヤ書、哀歌等を取り上げ、参照すべき文献を精読し、また聖書テキストを文芸学的手法を用いて分析し、その様式や語り口の特徴を理解し、現代の危機に向けて教会が語るべき言葉、神に訴えるべき「嘆き」の言葉について探求する。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第1回 序 課題の設定：現代の教会に仕える私たちが、旧約聖書に問い、また逆に問われている問題、特に「嘆き」に注目し、授業全体の課題を設定する 第2回 旧約聖書と現代（1）：現代を旧約聖書神学的視点から考察する 第3回 旧約聖書と現代（2）：現代日本を旧約聖書神学的視点から考察する 第4回 証言としての旧約聖書：旧約聖書の証言性に注目し、「嘆き」を通して証しされる神、信仰共同体、歴史について考察する 第5回 聖書における嘆きの神学的考察の可能性を探る 第6回 聖書における崩壊期の思想について 第7回 日本の霊的生活における悲哀の思想について 第8回 旧約聖書 嘆きの詩編（1）：その様式と内容について考察する 第9回 旧約聖書 嘆きの詩編（2）：「嘆きの詩編」の神学的主題について考察する 第10回 旧約聖書 エレミヤ書：「エレミヤ書」の嘆きの様式と内容について考察する 第11回 旧約聖書 哀歌（1）：「哀歌」の様式と内容について考察する 第12回 旧約聖書 哀歌（2）：「哀歌」の神学的主題について考察する 第13回 信仰共同体の歴史における嘆き：影響史的視点から哀歌解釈について考察する 第14回 キリストの受難における嘆き：嘆きの礼拝学的意味を考察する 第15回 現代の嘆きの詩：現代における旧約詩編の展開例として数名の信仰詩人の詩を取り上げて考察する			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 各授業で挙げられる参考文献に事前に目を通しておくこと			
＜テキスト＞ ・聖書 ・『3・11以降の世界と聖書』（日本基督教団出版局、2016年） ・『現代聖書注解 哀歌』（日本基督教団出版局、2013年） その他授業の中で指示する。			
＜参考書・参考資料等＞ テキストに加えて授業において随時提示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業参加（発題・コメントシート） 60％ 期末レポート 40％ 評価にあたっては共通評価指標（1）の①～⑤の内容を重視する。			

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係			
ヒブル語Ⅰ（1,2）		宮 寄 薫	＜担当形態＞ 単独
前期・4単位		＜登録条件＞ 通年の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 聖書ヒブル語の基礎的な文法を学ぶ。			
＜到達目標＞ ヒブル語の読み書きができる。平易な聖書ヒブル語の文章が理解できる。			
＜授業の概要＞ テキストによる基礎文法の説明、練習問題、小テスト。			
＜履修条件＞ 単位取得者は継続して後期（ヒブル語Ⅱ）も履修すること。旧約専攻者は必須。			
＜授業計画＞ 第1回 序 論 ヒブル語とは 文字（Alphabet） 第2回 1 読み方 第1課 字母 写字練習 第3回 第2課 母音記号 第4回 第3課 音節と Shewa 第5回 第4課 母音文字と Mappiq 第6回 第5課・第6課 Dagesh と Rafe、母音の分類と変化 第7回 第7課 喉音 第8回 第8課 アクセント等諸記号、Ketib・Qere 第9回 2 品 詞 第9課 定冠詞、形容詞（1） 第10回 第9課 接続詞 第11回 第10課 代名詞、関係代名詞（1）、疑問詞 第12回 第11課 前置詞、目的辞 第13回 第11課 人称代名詞語尾（1） 第14回 3 動 詞（Ⅰ） --強動詞 Qal-- 第15回 第12課 動詞：完了態 第16回 第13課 動詞：未完了態 第17回 第14課 願望形 第18回 第14課 継続 Waw および従属 Waw 第19回 第15課 命令法、不定詞 第20回 第15課 分詞 第21回 第16課 状態動詞 第22回 4 名詞の変化 第17課 語形変化、分類、独立形 第23回 第17課 合形成、形容詞（2） 第24回 第18課 名詞の変化（第一類） 第25回 第18課 不規則変化名詞 第26回 第19課 名詞の変化（第二類）、副詞と形成接辞、所有 第27回 第20課 名詞の変化（第三、第四、第五類）、名詞形成と接辞 第28回 5 代名詞語尾 第21課 人称代名詞語尾（2）Ⅰ：名詞の人称代名詞語尾 第29回 全体復習 第21課 Ⅱ：動詞の人称代名詞語尾 第30回 総まとめ 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 予習・復習を欠かさない。ノートを用いて、毎回出される宿題（練習問題）をこなすこと。			
＜テキスト＞ 「ヒブル語入門」[改訂増補版] 左近義慈／本間敏雄、教文館、2011年 （学生各自で購入する。）			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で教員が指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席状況、授業参加度、発表、小テスト、期末試験を総合的に評価する。 欠席が1/3以上の場合には評価の対象としない。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～③の内容を重視する。			

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係																																															
ヒブル語Ⅱ		宮 寄 薫	＜担当形態＞ 単独																																												
後期・2単位		＜登録条件＞ 通年の登録が望ましい。 後期登録は、前期単位取得者とする。																																													
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず																																														
＜授業のテーマ＞ 聖書ヒブル語の基礎的な文法を学ぶ。																																															
＜到達目標＞ ヒブル語の単語を分析し、文意が理解できる。ヒブル語の文章が正しく発音できる。																																															
＜授業の概要＞ テキストによる基礎文法の説明、練習問題、小テスト。																																															
＜履修条件＞ 前期から継続して履修すること。旧約専攻者は必須。																																															
＜授業計画＞ 前期より継続 <table><tr><td>第1回</td><td>6 動 詞（Ⅱ）</td><td>第22課</td><td>動詞の語幹、基本語幹：Qal、Nifal</td></tr><tr><td>第2回</td><td></td><td>第23課</td><td>強意語幹：Piel</td></tr><tr><td>第3回</td><td></td><td>第23課</td><td>強意語幹：Pual、Hithpaal</td></tr><tr><td>第4回</td><td></td><td>第24課</td><td>使役語幹：Hifil</td></tr><tr><td>第5回</td><td></td><td>第24課</td><td>使役語幹：Hofal</td></tr><tr><td>第6回</td><td>7 動 詞（Ⅲ）</td><td>第25課</td><td>不規則動詞：Pe 喉音動詞</td></tr><tr><td>第7回</td><td></td><td>第26課</td><td>Ayin 喉音、Lamed 喉音動詞、関係代名詞（2）</td></tr><tr><td>第8回</td><td></td><td>第27課</td><td>二重 Ayin 動詞、二根字動詞</td></tr><tr><td>第9回</td><td>8 数 詞</td><td>第28課</td><td>基数と序数、年齢表記</td></tr><tr><td>第10回</td><td>9 動 詞（Ⅳ）</td><td>第29課</td><td>弱 Pe 動詞（1）：Pe Alef 動詞</td></tr><tr><td>第11回</td><td></td><td>第29課</td><td>〃 </td></tr></table>				第1回	6 動 詞（Ⅱ）	第22課	動詞の語幹、基本語幹：Qal、Nifal	第2回		第23課	強意語幹：Piel	第3回		第23課	強意語幹：Pual、Hithpaal	第4回		第24課	使役語幹：Hifil	第5回		第24課	使役語幹：Hofal	第6回	7 動 詞（Ⅲ）	第25課	不規則動詞：Pe 喉音動詞	第7回		第26課	Ayin 喉音、Lamed 喉音動詞、関係代名詞（2）	第8回		第27課	二重 Ayin 動詞、二根字動詞	第9回	8 数 詞	第28課	基数と序数、年齢表記	第10回	9 動 詞（Ⅳ）	第29課	弱 Pe 動詞（1）：Pe Alef 動詞	第11回		第29課	〃 〃
第1回	6 動 詞（Ⅱ）	第22課	動詞の語幹、基本語幹：Qal、Nifal																																												
第2回		第23課	強意語幹：Piel																																												
第3回		第23課	強意語幹：Pual、Hithpaal																																												
第4回		第24課	使役語幹：Hifil																																												
第5回		第24課	使役語幹：Hofal																																												
第6回	7 動 詞（Ⅲ）	第25課	不規則動詞：Pe 喉音動詞																																												
第7回		第26課	Ayin 喉音、Lamed 喉音動詞、関係代名詞（2）																																												
第8回		第27課	二重 Ayin 動詞、二根字動詞																																												
第9回	8 数 詞	第28課	基数と序数、年齢表記																																												
第10回	9 動 詞（Ⅳ）	第29課	弱 Pe 動詞（1）：Pe Alef 動詞																																												
第11回		第29課	〃 〃																																												

専門教育科目選択・聖書神学関係			
イスラエル古代史		田中 光	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 旧約聖書に反映されたイスラエルの民の歴史の探究			
＜到達目標＞ 上記の歴史を概観的に学ぶことで、旧約聖書の背景となっている歴史を知識として身につけること。			
＜授業の概要＞ 担当教員が作成したレジュメに基づいて授業を行う。			
＜履修条件＞ 日本基督教団の補教師試験を受験する者で、聖書通論２旧約時代史を履修していない者は履修すること。			
＜授業計画＞ 第１回　オリエンテーション 第２回　聖書時代以前の古代オリエント世界とパレスチナ地方の地理 第３回　族長時代 第４回　出エジプト 第５回　カナン定着 第６回　統一王国の成立 第７回　北王国の歴史（統一王国の分裂からイエフ王朝まで） 第８回　北王国の滅亡と南王国の歴史①（レハブアムからアハズまで） 第９回　南王国の歴史②（ヒゼキヤからヨシヤまで） 第１０回　バビロン捕囚 第１１回　ペルシャ時代 第１２回　ヘレニズム時代 第１３回　ローマ時代 第１４回　死海文書について 第１５回　まとめ 定期試験			
＜準備学習等の指示＞１回の授業あたりの授業外学習は１８０分～２４０分を目安とする。 学生は該当するテキスト（以下参照）の内容と該当する聖書の内容を事前に読み、よく復習をすること。			
＜テキスト＞ 山我哲雄『聖書時代史：旧約篇』岩波現代文庫、岩波書店、２００３年。			
＜参考書・参考資料等＞ テキストの他に参考にすべき書物は適宜レジュメの中で指示する。ここでは、旧約の歴史を学ぶ際に手元にあると役に立つバイブル・アトラスのみ、幾つかのものを紹介しておく。バリー・Ｊ・バイツェル（船本弘毅監修、山崎正浩他訳）『地図と聖書で読む聖書大百科』。他に、地図を用いた発表のために以下の書物を用いても良い。Adrian Curtis, <i>Oxford Bible Atlas</i> , Oxford University Press; Paul H. Wright, <i>Rose Then and Now Bible Atlas</i> , Rose Publishing.			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業に対する貢献、定期試験によって評価を行う。尚、評価は共通評価指標（１）①～③を重視する。			

専門教育科目選択・聖書神学関係			
新約聖書神学Ⅳ		河野 克也	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 第二パウロ書簡および公同書簡からそれぞれの神学思想を読み取る。			
＜到達目標＞ 履修生は、第二パウロ書簡および公同書簡各文書の概要を理解し、それぞれのテキストからその神学思想を読み取りつつ、相互関係を考察することができるようになることを目指す。			
＜授業の概要＞ 第二パウロ書簡、公同書簡の各文書を分析する。新約聖書神学についても考察する。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション：偽名書簡について 第2回 第二パウロ書簡（1）：2テサロニケ書 第3回 第二パウロ書簡（2）：コロサイ書 第4回 第二パウロ書簡（3）：エフェソ書 第5回 牧会書簡（1）：1テモテ書 第6回 牧会書簡（2）：2テモテ書 第7回 牧会書簡（3）：テトス書 第8回 ヤコブ書 第9回 ヘブライ書 第10回 1ペトロ書 第11回 2ペトロ書・ユダ書 第12回 新約聖書神学について（1）：歴史的視点から 第13回 新約聖書神学について（2）：文学的・正典的視点から 第14回 新約聖書神学について（3）：他の神学分野との関係 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 それぞれの回で扱う聖書箇所と、クラスで指定する課題図書を読んでおくこと。			
＜テキスト＞ 辻学『偽名書簡の謎を解く』（新教出版社、2013年）。			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じてクラスで紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席が2/3に満たない場合は対象外。授業への貢献と期末レポートを共通評価指標(1)に基づき評価。			

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係			
新約原典講読Ⅰ		三永 旨従	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 「マルコ」「マタイ」「ルカ」各福音書独自の神学的メッセージをギリシャ語原文に則して明らかにしていきます。			
＜到達目標＞ ギリシャ語Ⅰ、Ⅱで学んだポイントを復習しつつ、原典で聖書を読む重要性を理解します。			
＜授業の概要＞ 編集史批判の実例と重要性を明らかにして文献を読んだ後、各福音書の特徴的用語、用例を重視しつつ、各福音書理解のポイントとなる箇所をていねいに読んでいきます。			
＜履修条件＞ ギリシャ語１、２を修得済みの者。新約専攻者は必須。（聴講生も歓迎します。）			
＜授業計画＞ 第１回 辞書、コンコーダンスの用法について 第２回 "The Stilling of The Storm in Matthew" 講読 P.52-57 第３回 「嵐を鎮める」読解（マルコ） 第４回 「嵐を鎮める」読解（マタイ） 第５回 「嵐を鎮める」読解（ルカ） 第６回 ゲッセマネの祈り（マルコ） 第７回 ゲッセマネの祈り（マタイ） 第８回 ゲッセマネの祈り（ルカ） 第９回 「バルテマイの癒し」読解 第１０回 「バルテマイの癒し」読解とマルコの歴史的状況 第１１回 「バルテマイの癒し」読解とマルコの神学 第１２回 「十字架」読解（マルコ） 第１３回 「十字架」読解（マタイ） 第１４回 「十字架」読解（ルカ） 第１５回 「ガリラヤ宣教」読解（ルカ）			
＜準備学習等の指示＞ １回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 翻訳に依存することなく、予習として各箇所の重要な用語について辞書、コンコーダンス等を用い、原文の持つ意味を正確に読んでおいてください。			
＜テキスト＞ ・"The Stilling of The Storm in Matthew" G. Bornkamm in Tradition & Interpretation in Matthew, G. Bornkamm, G. Barth, H.J. Held (1960) ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE（27 版）に基づいた対観福音書（授業にて紹介します。） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧めます。）			
＜参考書・参考資料等＞ 原典・新共同訳、辞書・コンコーダンス以外に用いるものは、基本的にありません。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ テキストを正確に読むための手続きを身に付け又、その重要性を理解しているかが、評価の対象となります。 評価にあたっては「共通評価指標（1）」に基づいて行います。			

専門教育科目選択・聖書神学関係			
新約原典講読Ⅱ		三永 旨従	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 前期に引き続き、「マルコ」「マタイ」「ルカ」各福音書独自の神学的メッセージをギリシャ語原文に則して明らかにしていきます。			
<到達目標> ギリシャ語Ⅰ、Ⅱで学んだポイントを復習しつつ、原典で聖書を読む重要性を確認します。			
<授業の概要> 編集史批判の実例と重要性を明らかにして文献を読んだ後、各福音書の特徴的用語、用例を重視しつつ、各福音書理解のポイントとなる箇所をていねいに読んでいきます。			
<履修条件> ギリシャ語Ⅰ、Ⅱを修得済みの者。（聴講生も歓迎します。）			
<授業計画> 第1回 「盲人の癒し」読解（マルコ） 第2回 「盲人の癒し」読解（マタイ） 第3回 「盲人の癒し」読解（ルカ） 第4回 「悪霊追放」読解（マルコ） 第5回 「悪霊追放」読解（マタイ） 第6回 「悪霊追放」読解（ルカ） 第7回 「山上の変貌」読解（マルコ） 第8回 「山上の変貌」読解（マタイ） 第9回 「山上の変貌」読解（ルカ） 第10回 「エルサレム入城」読解（マルコ） 第11回 「エルサレム入城」読解（マタイ） 第12回 「エルサレム入城」読解（ルカ） 第13回 「復活の言及箇所」読解（マルコ） 第14回 「復活顕現」読解（マタイ） 第15回 「復活顕現」読解（ルカ）			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 翻訳に依存することなく、予習として各箇所の重要な用語について辞書、コンコーダンス等を用い、原文の持つ意味を正確に読んでおいてください。			
<テキスト> ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE（27版）に基づいた対観福音書（授業にて紹介します。） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧めます。）			
<参考書・参考資料等> 原典・新共同訳、辞書・コンコーダンス以外に用いるものは、基本的にありません。			
<学生に対する評価（方法・基準）> テキストを正確に読むための手続きを身に付け又、その重要性を理解しているかが、評価の対象となります。 評価にあたっては「共通評価指標（1）」に基づいて行います。			

専門教育科目選択・歴史神学関係		
宗教史Ⅱ	小室 尚子	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ> 日本人の世界観を形成する諸宗教について学ぶことにより、日本における福音宣教の課題を探る。		
<到達目標> ①日本における諸宗教の歴史、内容、日本的展開について知る。②日本という異教社会の中で福音を伝える方法を考える。		
<授業の概要> 日本における諸宗教の歴史的・日本的展開、およびその内容・形態の概説と、キリスト教伝来後の、キリスト教とそれらの宗教との関係を学ぶ。また歴史的に培われた日本人の伝統的思想に基づいた現代日本人の宗教観を分析・考察し、福音宣教における諸問題の克服への緒を探る。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 序論：キリスト教受容における（日本人の）問題点 第2回 宗教と世界観の関係／キリスト教の世界観 第3回 日本人の世界観 第4回 日本における宗教史概説 第5回 日本人のカミ観念の形成 第6回 仏教伝来と「神道」 第7回 「習合」という形態 第8回 日本仏教の形成とその特質 第9回 中国の宗教の日本的展開 第10回 民衆の宗教と「日本宗教」 第11回 日本におけるキリスト教史概説 第12回 日本人の精神的伝統とキリスト教 第13回 日本におけるキリスト教土着化の問題：宣教における諸問題（1）丸山正男、武田清子の分析から 第14回 日本におけるキリスト教土着化の問題：宣教における諸問題（2）三つの問題点（「神」理解、「贖罪」理解、「教会」理解） 第15回 まとめ：日本の教会の課題と使命		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 提示した参考文献や配付資料は事前に目を通しておくこと。		
<テキスト> 担当者がプリント教材・資料を用意する。		
<参考書・参考資料等> 初回授業において参考文献表を配付する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート（60%）と、授業への参加意識（40%）によって評価する。レポートは、「共通評価指標（1）」によって評価する。		

専門教育科目選択・歴史神学関係			
教理史Ⅰ		本城 仰太	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 特になし	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 教会史Ⅰ～Ⅳで十分に触れられなかった事柄を中心に、教理史の観点から学ぶ。			
＜到達目標＞ 教理史にかかわる主要な主題を把握し、神学的に論じられるようになる。			
＜授業の概要＞ 教理史の各主題を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義し、ディスカッションを行う。			
＜履修条件＞ 教会史ⅠとⅡを履修済、ⅢとⅣを履修済もしくは履修中であることが望ましい。			
＜授業計画＞ 第1回 教理とは？ 第2回 聖書と伝統 第3回 使徒信条 第4回 キリスト論論争とニカイア信条 第5回 キリスト論論争とカルケドン信条 第6回 三位一体論 第7回 ドナティスト論争 第8回 ペラギウス論争 第9回 中世のサクラメント論と贖罪論 第10回 ルターの十字架の神学と信仰義認論 第11回 改革者たちのサクラメント論 第12回 改革者たちの教会論 第13回 改革者たちの政治神学 第14回 アルミニウス論争 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 教会史Ⅰ～Ⅳの関連する事柄や史料を読んでおくこと。			
＜テキスト＞ 特に定めない。毎回プリントを配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ マクグラス『キリスト教思想史入門－歴史神学概説』（キリスト新聞社）、棚村重行『現代人のための教理史ガイド』（教文館）、など。（その他のものは授業で紹介する）			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 講義の出席を前提とし、授業への参加態度、レポートによって、共通評価指標（1）に基づいて総合的に評価する。			

専門教育科目選択・実践神学関係			
教会実習Ⅰ		ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ セミオティクスとパストラル・ケア			
＜到達目標＞ 象徴学；記号論を通して、学生は自らのアイデンティティをより理解し、又、シンボルを理解することによって、キリスト者を牧会的に助けることができるように成長する。			
＜授業の概要＞ 宗教改革以前、キリスト者は宗教的シンボルを理解し、そのシンボルを通して神との関係や、教会との関係を知ろうとした。しかし、500年前から、プロテスタントの信者は偶像礼拝を避けるため、シンボルから離れてきた。対照的に、正教会とカトリック教会はシンボルを持っているために、自らの信仰との関係がより理解されている側面がある。牧会的な立場から考えると、プロテスタントの信者は神を、愛してくださる親として理解することが難しく、又、イエスを友として理解することも難しくなっていると言える。愛に基づく神や教会との関係は学問的、神学的説明に捉えられる傾向がある。シンボルの健全的な理解により、神を父として、又、教会を母として理解することが可能になり、又、堅固な神学的土台の上に、セミオティクス（象徴学；記号論）を通して自らの信仰を理解しようとするキリスト者に魂の牧会ケアを与えることを学びとする。			
＜履修条件＞ 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性がある。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 現代的シンボル 第3回 世俗的シンボル 第4回 プロテスタントのシンボル 第5回 ユダヤ教のシンボル 第6回 正教会のアイコン 第7回 カトリックのシンボル 第8回 動物のシンボルの役割 第9回 キリスト者のファッション 第10回 キリスト者の生活 第11回 学生プレゼンテーション 第12回 学生プレゼンテーション 第13回 学生プレゼンテーション 第14回 学生プレゼンテーション 第15回 最終評価			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 周りの環境のシンボルを熟考する。			
＜テキスト＞ 講義をしながら、様々な参考書やインターネットからの参考資料を紹介する。			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて授業で紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提として、ディスカッションの参加、プレゼンテーション、最終評価 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。「共通評価指標（1）」によって評価する。			

専門教育科目選択・実践神学関係		
教会実習Ⅱ	ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位	＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
＜授業のテーマ＞ セミオティクスとパストラル・ケア		
＜到達目標＞ 象徴学；記号論を通して、学生は自らのアイデンティティーをより理解し、又、シンボルを理解することによって、キリスト者を牧会的に助けることができるように成長する。		
＜授業の概要＞ 宗教改革以前、キリスト者は宗教的シンボルを理解し、そのシンボルを通して神との関係や、教会との関係を知ろうとした。しかし、500年前から、プロテスタントの信者は偶像礼拝を避けるため、シンボルから離れてきた。対照的に、正教会とカトリック教会はシンボルを持っているために、自らの信仰との関係がより理解されている側面がある。牧会的な立場から考えると、プロテスタントの信者は神を、愛してくださる親として理解することが難しく、又、イエスを友として理解することも難しくなっていると言える。愛に基づく神や教会との関係は学問的、神学的説明に捉えられる傾向がある。シンボルの健全な理解により、神を父として、又、教会を母として理解することが可能になり、又、堅固な神学的土台の上に、セミオティクス（象徴学；記号論）を通して自らの信仰を理解しようとするキリスト者に魂の牧会ケアを与えることを学びとする。		
＜履修条件＞ 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性がある。		
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 キリスト教建築 第3回 教会の調度品 第4回 聖職者の礼服、法衣、祭服 第5回 聖書翻訳 第6回 教会音楽と讃美歌 第7回 バプテスマ（洗礼）の儀式 第8回 ユーカリスト（聖餐）の儀式 第9回 教派 第10回 諸宗教のシンボルの比較 第11回 学生プレゼンテーション 第12回 学生プレゼンテーション 第13回 学生プレゼンテーション 第14回 学生プレゼンテーション 第15回 最終評価		
＜準備学習等の指示＞1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 周りの環境のシンボルを熟考する。		
＜テキスト＞ 講義をしながら、様々な参考書やインターネットからの参考資料を紹介する。		
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて授業で紹介する。		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提として、ディスカッションの参加、プレゼンテーション、最終評価 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。「共通評価指標（1）」によって評価する。		

専門教育科目選択・実践神学関係		
牧会心理学 a	ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 牧会における心理学的課題を学ぶこと。牧会者としてのアイデンティティを養成すること。		
<到達目標> 牧会で直面する様々なケースに正しく対応できるようになる。		
<授業の概要> 牧会的／心理学的課題について講義をし、逐語記録やケース・スタディーで実践的に学ぶ。		
<履修条件> 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性がある。		
<授業計画> 第1回 牧会カウンセリングの歴史と定義 第2回 宗教と魂 第3回 人格関係の重要性 第4回 傾聴について 第5回 癒し 第6回 認識と洞察 第7回 受容 第8回 結婚と家庭におけるカウンセリング 第9回 逐語記録グループ・スタディー 第10回 逐語記録グループ・スタディー 第11回 逐語記録グループ・スタディー 第12回 ケース・スタディー 第13回 ケース・スタディー 第14回 ケース・スタディー 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 インターネットでカウンセリングに関するビデオを見る。		
<テキスト> 必要に応じて授業で指示する。		
<参考書・参考資料等> ハワード・ストーム『臨死—そして与えられた二度目の人生』 リーハイバレー・ジャパニーズ・ミニストリーズ（2015）；“I am a Church Member”, Thom S. Rainer, (B&H Books, 2013).		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を前提として、ロールプレーへの参加。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。「共通評価指標（1）」によって評価する。		

専門教育科目選択・実践神学関係			
牧会心理学 b		ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 牧会における心理学的課題を学ぶこと。牧会者としてのアイデンティティを養成すること。			
<到達目標> ロールプレーを通して、クライアントや牧師の様々な立場から考えることができるようになる。			
<授業の概要> 牧会的／心理学的課題について講義をし、ロールプレーで実践的に学ぶ。			
<履修条件> 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性がある。			
<授業計画>			
学習テーマ			
第1回	オリエンテーション		
第2回	ロールプレー	(一人対一人)	恋愛
第3回	ロールプレー	(一人対一人)	DV
第4回	ロールプレー	(一人対一人)	ひきこもり問題
第5回	ロールプレー	(一人対一人)	自らを赦す事
第6回	ロールプレー	(一人対一人)	相手を赦す事
第7回	ロールプレー	(一人対一人)	職場でのトラブル
第8回	ロールプレー	(一人対一人)	病名告知
第9回	ロールプレー	(一人対一人)	経済的悩み
第10回	ロールプレー	(一人対一人)	自殺
第11回	ロールプレー	(一人対一人)	霊的に乾いている
第12回	ロールプレー	(一人対二人)	結婚相談
第13回	ロールプレー	(一人対二人)	非行少年[少女]問題
第14回	ロールプレー	(一人対二人)	共に暮らしている親との人間関係
第15回	まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 インターネットでカウンセリングに関するビデオを見る。			
<テキスト> 必要に応じて授業で指示する。			
<参考書・参考資料等> ハワード・ストーム『臨死—そして与えられた二度目の人生』リーハイバレー・ジャパニーズ・ミニストリーズ(2015)；“I am a Church Member”, Thom S. Rainer, (B&H Books, 2013).			
<学生に対する評価(方法・基準)> 出席を前提として、ロールプレーへの参加。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。「共通評価指標(1)」によって評価する。			

専門教育科目選択・実践神学関係		
臨床牧会教育 a	ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。		
<到達目標> 自分の牧会者像を明確にすること。		
<授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、实际的にカウンセリングを学ぶ。		
<履修条件> 講義は登録者2人以上から6人未満で成立する。		
<授業計画> 第1回　オリエンテーション 第2回　自叙伝の発表 第3回　牧会を考える映画を見る。 第4回　第3回の授業で見た映画のディスカッションを行う。 第5回　院長による精神病理の講義。病院見学。 第6回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。 ＊病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。 ＊面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 ＊各学生によるケース提出とディスカッションを行う。		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 遅刻をしないこと。 休まないこと。		
<テキスト> 必要に応じて配る。		
<参考書・参考資料等> 聖書		
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。期末面談によって評価する。出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。 「共通評価指標（1）」によって総合的に評価する。		

専門教育科目選択・実践神学関係			
臨床牧会教育 b		ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。			
＜到達目標＞ 自分の牧会者像を明確にすること。			
＜授業の概要＞ 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、实际的にカウンセリングを学ぶ。			
＜履修条件＞ 臨床牧会教育 a を終えていること。 講義は登録者 2 人以上から 6 人未満で成立する。			
＜授業計画＞ ＊各回、各病棟におもむき、患者と出会い、カウンセリングを行う。 ＊面接記録（逐語記録）をつくり、スーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントを得、話し合いをする。 ＊各自のケース・レポートをし、ケース・スタディをする。 第 1 回から第 15 回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。			
＜準備学習等の指示＞1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 遅刻をしないこと。 休まないこと。			
＜テキスト＞ 必要に応じて配る。			
＜参考書・参考資料等＞ 聖書			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 実習の参加度によって評価する。期末面談によって評価する。出席が 2／3 に満たない者は評価の対象としない。 「共通評価指標（1）」によって総合的に評価する。			

専門教育科目選択・実践神学関係			
説教学入門 a		小泉 健	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 聖書から聞くこと、聞いたことを語ることを、体験的に学ぶ。			
<到達目標> 自分で説教を準備するための土台を身につけること。			
<授業の概要> 説教準備の各段階を意識しつつ、学生各自が発表・実演を行い、それを素材として討論を重ねながら学ぶ。			
<履修条件> ギリシア語初級履修済み、もしくは履修中であること。			
<授業計画> 第1回 「説教とは何か」を考え始める 第2回 「わたし」について語る 第3回 「わたしがいちばん伝えたいこと」 第4回 「わたし」と「聖書」と「福音」 第5回 「わたし」と「あなた」と「主イエス」 第6回 聖書を読む、朗読する 第7回 聖書朗読と説教 第8回 聖書に聞く、黙想する 第9回 聖書を読む、釈義する 第10回 聖書を語り直す 第11回 さらに黙想する（その1）説教と教義学 第12回 さらに黙想する（その2）説教と牧会 第13回 説教は何をしているか 第14回 説教を読む 第15回 言葉が語る、言語以外のものが語る			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 説教学を学ぶ者として、また将来の説教者としての「日々聖書を読む生活」を身に着ける。 説教準備の過程をたどっていくので、自分で実際に一つずつ行っていく。			
<テキスト> 聖書を持参すること。その他は、必要に応じて教室でプリントを配布する。			
<参考書・参考資料等> 加藤常昭『説教への道——牧師と信徒のための説教学』日本キリスト教団出版局 平野克己『説教を知るキーワード』日本キリスト教団出版局 その他については授業中に文献表を配布する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業での発表、発言とレポート（説教または説教批評）によって評価する。共通評価指標（1）の②、③、⑤を重視する。			

専門教育科目選択・専攻間共同			
アジア伝道論演習 a		朴 憲郁	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> なし	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 東南アジアにおけるキリスト教伝道			
<到達目標> キリスト教は学問理論として研究・考察され得るが、何よりも歴史の中に働く神の啓示たるイエス・キリストの福音の力として、実践的行為において存続する。それは、キリスト共同体形成と福音伝道の形をとる。この福音伝道を理論的、歴史的に考察し、特にアジア的文脈においてこの伝道の構築を目指す。			
<授業の概要> 東南アジアにおけるキリスト教伝道の展望を模索する。最初に、アジア伝道論の緒論的問題を講じた後、今回はタイとシンガポールで宣教と神学教育に携わった神学者、小山晃佑の宣教論を手掛かりに考察していく。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回： 伝道（宣教）学とは何か 第2回： アジアにおけるキリスト教－文化的、伝道論的視点から 第3回： 『水牛の神学』－歴史を解釈する－（1～2章） 第4回： 歴史を解釈する－（3～4章） 第5回： 福音を根付かせる－（5～6章） 第6回： 福音を根付かせる（7～8章） 第7回： 福音を根付かせる－（9～10章） 第8回： タイ仏教に直面して（11章） 第9回： タイ仏教に直面して（12章） 第10回： タイ仏教に直面して（13章） 第11回： 文脈におけるキリスト教信仰の解釈（14章） 第12回： 文脈におけるキリスト教信仰の解釈（15章） 第13回： 文脈におけるキリスト教信仰の解釈（16章） 第14回： 文脈におけるキリスト教信仰の解釈（17章） 第15回： 文脈におけるキリスト教信仰の解釈（18章）			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 講義をするが、受講者もテーマに従って発表していただく。次週授業で扱うテキスト箇所は皆が事前に読んで予備知識をもち、議論に参加できるよう心がけること。			
<テキスト> 小山晃佑著 森泉弘次訳『水牛神学』－アジアの文脈のなかで福音の真理を問う－教文館 2011年 各自で入手すること。			
<参考書・参考資料等> ・日本基督教団出版局編『アジア・キリスト教の歴史』日本基督教団出版局 1991年 ・『アジア・キリスト教史[2]』教文館 1985年 初版 重版 その他、授業時に随時紹介する。 ・朴憲郁「日本プロテスタント伝道の一考察－アジア伝道の視点から－」 『神学』71号 2009年12月			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、学期末レポート（4000字以上）などによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。共通評価指標（1）の①～④を重視する。			

専門教育科目選択・専攻間共同			
アジア伝道論演習 b		朴 憲郁	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> なし	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 今日の伝道(宣教)学			
<到達目標> アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような展望と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。それをこのたびは、20世紀後半の代表的宣教学者の伝道理解を学ぶ。			
<授業の概要> 伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、ヒンドゥー教国のインドで長年宣教活動にたずさわったイギリス出身の宣教師、レスリー・ニュービギンの「宣教学」を一つ一つ学ぶ。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回： 序説1－伝道（宣教）学とは何か－ 第2回： 序説2（その1）－キリスト論的三位一体論 第3回： 序説2（その2）－キリスト論的三位一体論における諸宗教との対話－ 第4回： 序説3－韓国におけるキリスト論的三位一論の展開の試みとその批判 （以下、テキストに従って、第5～14回まで学生発表と講義） 第5回： 議論の背景 第6回： 権威の問題 第7回： 三位一体の神の宣教 第8回： 御父の御国を宣べ伝えること－信仰としての宣教－ 第9回： 御子の生を分かち合うこと－愛としての宣教－ 第10回： 聖霊の証しを担うこと－希望としての宣教－ 第11回： 福音と世界の歴史 第12回： 神の正義のための行動としての説教 第13回： 教会成長、改宗、文化 第14回： 諸宗教の中の福音 第15回： アジア伝道の反省と展望（講義）			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。随時発表もしていただく。			
<テキスト> レスリー・ニュービギン『宣教学入門』鈴木脩平訳 日本キリスト教団出版局編 2010年 各自で入手すること。			
<参考書・参考資料> 朴憲郁(Heon-Wook Park) Perspective of the Northeast Asian Mission from the Viewpoint of Pauline Theology: Focused on Christology『神学』72号 東京神学大学神学会 2010年 教文館 143～166頁			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、学期末レポート（(4000字以上）などによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。共通評価指標（1）の①～④を重視する。			

専門教育科目選択・古典語		
ラテン語Ⅰ	本城 仰太	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 原則、通年で履修すること	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> ラテン語の基礎文法を習得する。		
<到達目標> ラテン語の基礎文法や辞書の使い方など習得し、ラテン語聖書ウルガタやラテン教父を読むための基礎作りをする。		
<授業の概要> テキストに即してUnit 毎に、文法を学び、練習問題を解いていく。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画> 第1回 導入、J.F.Collins, <i>Primer of Ecclesiastical Latin</i> の Unit 1 第2回 Unit 2, 3 第3回 Unit 4 第4回 Unit 5 第5回 Unit 6 第6回 Unit 7 第7回 Unit 8 第8回 Unit 9 第9回 Unit 10 第10回 Unit 11 第11回 Unit 12 第12回 Unit 13 第13回 Unit 14 第14回 Unit 15 第15回 総括 期末試験		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 毎回、課題（テキストの練習問題）をやってくる。毎回、模範解答を配布し、課題の解説をしてフィードバックを行う。		
<テキスト> 担当者が用意するプリント（日本語訳）		
<参考書・参考資料等> 小林標『ラテン語の世界 ローマが残した無限の遺産』（中公新書、2006）、水谷智洋編『<改訂版>羅和辞典』（研究社）（各辞典については初回授業で説明する。）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を前提とし、試験（50%）と授業での課題（50%）によって、共通評価指標（1）に基づいて総合的に評価する。		

専門教育科目選択・古典語			
ラテン語Ⅱ		本城 仰太	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 原則、通年で履修すること	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ ラテン語の基礎文法を習得し、ラテン語の文章を読んでいく。			
＜到達目標＞ ラテン語の基礎文法や辞書の使い方など習得し、ラテン語聖書ウルガタやラテン語の信条、ラテン教父の文章を読むことができるようにする。			
＜授業の概要＞ テキストに即して Unit 毎に、文法を学び、練習問題を解いていく。後半はラテン語聖書ウルガタ、ラテン語の信条の文章を読んでいく。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞			
第1回 J.F.Collins, <i>Primer of Ecclesiastical Latin</i> の Unit 16			
第2回 Unit 17			
第3回 Unit 18			
第4回 Unit 19			
第5回 Unit 20			
第6回 Unit 21			
第7回 Unit 22			
第8回 Unit 23			
第9回 Unit 24			
第10回 ラテン語の信条テキストを読む①（古ローマ信条）			
第11回 ラテン語の信条テキストを読む②（使徒信条）			
第12回 ラテン語の信条テキストを読む③（ニカイア・コンスタンティノポリス信条）			
第13回 ラテン語聖書ウルガタを読む①（ヨハネによる福音書 1:1-9）			
第14回 ラテン語聖書ウルガタを読む②（ヨハネによる福音書 1:10-18）			
第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 毎回、課題（テキストの練習問題や講読）をやってくること。毎回、模範解答を配布し、課題の解説をしてフィードバックを行う。			
＜テキスト＞ 担当者が用意するプリント（日本語訳）			
＜参考書・参考資料等＞ 水谷智洋編『＜改訂版＞羅和辞典』（研究社）、R.Gryson (ed.), <i>Biblia Sacra Vulgata</i> , Deutsche Bibelgesellschaft, Editio quinta(5 th ed.), 2007			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提とし、レポート（50%）と授業での課題（50%）によって、共通評価指標（1）に基づいて総合的に評価する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
宗教科教授法 B a		小泉 健	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 通年で登録すること	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校）、選択科目（高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<授業のテーマ> キリスト教学校（中学校・高等学校）における宗教科（聖書科）の基本構造と指導法を実践的に学ぶ。			
<到達目標> 宗教科（聖書科）の目標や内容を理解する。授業指導案を作成し、実際の教授を行う力を身につける。 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。			
<授業の概要> 宗教科教師の独特の役割、宗教科授業が持つべき内容とカリキュラムの構造、授業の意味と方法を学ぶ。			
<履修条件>			
<授業計画> 第1回 キリスト教教育論（その1）神学的人間論 第2回 キリスト教教育論（その2）信仰と教育 第3回 教師論（その1）聖書科教師と教務教師 第4回 教師論（その2）聖書科教師の使命と役割 第5回 聖書科授業の目標 第6回 聖書科授業の主な内容と全体構造 第7回 聖書科授業のカリキュラム 第8回 聖書科授業における聖書と教材 第9回 聖書科授業をどう評価するか 授業の展開 第10回 授業の展開（その1）教理教育、道徳教育、問題中心の授業 第11回 授業の展開（その2）聖書的授業、象徴教授法 第12回 授業の展開（その3）文化形成 第13回 授業の方法（その1）学習指導案の作成 第14回 授業の方法（その2）神学諸科とのかかわり、教材の開発 第15回 授業の方法（その3）学習形態の工夫、授業展開を導く教授行為			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 公教育の中で聖書がいかに力を発揮できるかを、創造的に考え続ける。 キリスト教学校出身でない者は、できるだけ学校見学を行う。			
<テキスト> 聖書を持参すること。必要に応じてプリントを配布する。その他については、授業の中で教員が指示する。			
<参考書・参考資料等> 『中学校学習指導要領解説』『特別の教科 道徳』文部科学省、最新版。 『高等学校学習指導要領解説』『公民編』『福祉編』文部科学省、最新版。 学校伝道研究会編『教育の神学』ヨルダン社、1987年（絶版） 『キリスト教学校教育の理念と課題』キリスト教学校教育同盟、1991年（絶版） 『私たちの道徳 中学校』文部科学省、最新版。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 期末のレポート(学習指導案)によって評価する。共通評価指標（1）の③～⑤を重視する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
宗教科教授法 B b		小泉 健	<担当形態> 単独
後期・2 単位		<登録条件> 通年で登録すること	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校）、選択科目（高等学校）		
	<科目>		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			
<授業のテーマ>			
キリスト教学校（中学校・高等学校）における宗教科（聖書科）の基本構造と指導法を実践的に学ぶ。			
<到達目標>			
宗教科（聖書科）の目標や内容を理解する。授業指導案を作成し、実際の教授を行う力を身につける。 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。			
<授業の概要>			
学習指導案の作成、模擬授業、その振り返りを行い、授業設計の向上に取り組む。			
<履修条件>			
<授業計画>			
第 1 回 授業の方法（その 4）情報機器の活用			
第 2 回 教材の活用と授業設計			
第 3 回 生徒の実態と授業設計			
第 4 回 模擬授業（その 1） 弟子になる（マタイ 4 章 18～22 節）			
第 5 回 模擬授業（その 2） 愛のおきて（マルコ 12 章 28～34 節）			
第 6 回 模擬授業（その 3） タレントを活かす（マタイ 25 章 14～30 節）			
第 7 回 模擬授業（その 4） パン五つと魚二匹（ルカ 9 章 10～17 節）			
第 8 回 模擬授業（その 5） 祈り（ルカ 11 章 1～13 節）			
第 9 回 模擬授業（その 6） 罪を犯した者へのまなざし（ヨハネ 8 章 1～11 節）			
第 1 0 回 模擬授業（その 7） なお一つ欠けているもの（マルコ 10 章 17～31 節）			
第 1 1 回 模擬授業（その 8） 空の鳥、野の花（マタイ 6 章 25～34 節）			
第 1 2 回 模擬授業（その 9） 赦す（マタイ 18 章 21～35 節）			
第 1 3 回 模擬授業（その 1 0） クリスマス（ルカ 2 章 1～21 節）			
第 1 4 回 模擬授業（その 1 1） 十字架（マルコ 15 章 1～47 節）			
第 1 5 回 模擬授業（その 1 2） 復活（マルコ 16 章 1～8 節）			
模擬授業においては、毎回一名の学生が 50 分の授業を行う。 その後、行われた授業を素材として、全体で討論を行う。			
<準備学習等の指示> 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 自分が担当する模擬授業のための指導案を作成し、必要な資料等を計画的に準備しておく。			
<テキスト>			
聖書を持参すること。必要に応じてプリントを配布する。その他については、授業の中で教員が指示する。			
<参考書・参考資料等>			
『中学校学習指導要領解説』『特別の教科 道徳』文部科学省、最新版。			
『高等学校学習指導要領解説』『公民編』『福祉編』文部科学省、最新版。			
学校伝道研究会編『教育の神学』ヨルダン社、1987 年（絶版）			
『キリスト教学校教育の理念と課題』キリスト教学校教育同盟、1991 年（絶版）			
後藤田典子『ジュニアのための聖書入門』新教出版社、2003 年。			
『私たちの道徳 中学校』文部科学省、最新版。			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
授業中の模擬授業発表および授業への参加の度合い、内容で評価する。共通評価指標（1）の③～⑤を重視する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教育基礎論		長山 道	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教育の基礎的理解に関する科目 ＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
＜授業のテーマ＞ 教育の理念、教育に関する歴史、思想について理解し、基礎的な知識を身につける。			
＜到達目標＞ 教育学の基本的概念を身につける。教育の歴史を理解する。教育思想史を理解する。現代における教育課題を理解する。			
＜授業の概要＞ 教育本質論を扱った後、その源流となる西洋教育思想史をたどり、さらに日本における西洋教育思想の受容とその後の教育史を概観する。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第1回 教育の本質と目的 第2回 教育を成り立たせる要素とその関連 第3回 古代ギリシアの教育観と学校教育 第4回 中世からルネサンス、宗教改革にかけての教育観の変遷 第5回 ルターの教育論と公教育 第6回 近代教育制度の成立 ―コメニウスの教育論 第7回 ロックの教育論と家庭教育 第8回 ルソーの教育論と家庭教育 第9回 カントの教育論 第10回 教育と社会 ―ペスタロッチの教育論 第11回 シュライアマハーの教育論 第12回 幼稚園の成立 ―フレーベルの教育論 第13回 ヘルバルトの教育論 第14回 デューイの教育論と新教育運動 第15回 現代社会における教育課題			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 毎回の講義の中で教員が指示する。			
＜テキスト＞ レジュメを配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 深谷潤・広岡義之（編著）『教育の原理』ミネルヴァ書房、2021年。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表と学期末のレポートを課す。共通評価指標（1）に基づいて評価する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教職概論		朴 憲郁	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教育の基礎的理解に関する科目		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<授業のテーマ> 教職の役割と意義			
<到達目標> 現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。			
<授業の概要> 今日の学校教育の課題の一つは、教師の資質と像をめぐる問題であろう。どのような教育理念と教師像を目指すべきかという基本的な主題を問いつつ、教師に関する理解の歴史的変遷、組織、見識、教育課題などに分類して考察していく。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画>			
第1回 日本における教員養成と採用			
第2回 教師の仕事－授業をつくる			
第3回 学級づくりの教師			
第4回 学校の管理・運営を担う教師－組織・カリキュラムのマネジメント			
第5回 教員の資質能力			
第6回 諸外国の教員養成			
第7回 教育課程の編成と学習指導要領			
第8回 道德教育の意義と指導			
第9回 特別活動の意義と役割			
第10回 社会性の指導			
第11回 教員研修および職務遂行のための生涯学習			
第12回 教員の職務上の義務と身分保障の認識			
第13回 教職の専門性とキリスト教学校の教師像			
第14回 「チームとしての私立学校」と家庭、地域との関係			
第15回 教職員の指導体制の充実（専門能力スタッフの参画、地域との連携など）			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 毎回の授業において、前半は指定テキストの分担箇所の学生発表と意見交換がなされ、後半は担当講師の講義をする。次週に扱うテキスト箇所を各自あらかじめ読んで理解しておき、意見を交し合う。			
<テキスト> 南本長徳編著、『新しい教職概論』、ミネルヴァ書房、2016年。各自で入手すること。			
<参考書・参考資料等> 1. 佐藤学、『教師というアボリア＝反省的実践』、世織書房、1996年 2. 山崎・西村編著、『求められる教師像と教員養成』、ミネルヴァ書房、2005年 3. 日本教師教育学会 編、『教師とは』、学文社、2002年			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、期末レポートなどによって評価する。 出席を2／3以上満たした者を評価の対象とする。共通評価指標（1）の①～④を重視する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教育制度論		長山 道	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教育の基礎的理解に関する科目 ＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 （学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
＜授業のテーマ＞ 教育に関する社会的、制度的、経営的事項について理解し、基礎的な知識を身につける。地域との連携、学校安全について、具体的な事例を踏まえて理解する。			
＜到達目標＞ 教育社会学、教育制度、教育に関する経営的事項についての基本的概念を身につける。学校と地域の連携の意義やその方法を理解する。学校安全への対応の目的や方法を理解する。			
＜授業の概要＞ 学校社会学的に見た教育、社会における教育、教育制度の原理と基盤、および学校経営をめぐる基本問題について解説する。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第1回 学校と社会 第2回 子どもの生活と指導上の課題 第3回 教育政策 第4回 諸外国の教育事情1 ヨーロッパ、アメリカ 第5回 諸外国の教育事情2 アジア 第6回 公教育 第7回 教育法 第8回 教育行政 第9回 教育制度をめぐる課題 第10回 学校経営とは 第11回 学校における教育活動 第12回 学級経営 第13回 組織としての学校 第14回 学校と地域社会 第15回 学校の安全			
＜準備学習等の指示＞ 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 毎回の講義の中で教員が指示する。			
＜テキスト＞ レジュメを配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 講義中に紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表と学期末のレポートを課す。共通評価指標（1）により評価する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
心理発達と教育	森 真弓	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> 教育の基礎的理解に関する科目	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
<授業のテーマ> 人生をライフステージごとに見つめ、教育者として把握しておきたい青年期までの発達課題と学習について学ぶ。教育者になるための心理的レジネスや自己対応スキルにつながることをも目的としている。		
<到達目標> 学生は、人の発達段階における課題を整理し、教育現場における不適応・問題行動の背景にある心理を発達心理学・臨床心理学の視点から理解する力を身につける。学生は、学習に関する基礎的知識を身につけ、発達段階に応じた学習を支える指導についても基礎的な考え方を理解する。		
<授業の概要> 心理発達基礎理論では、心理社会的発達や認知的発達について学ぶ。乳児期では精神病理にもふれる。幼児期については母子関係における分離個体化理論で幼児の心がどのように発達していくかを学び、土居健郎の甘え理論にもふれる。児童期の発達課題を学んだあとに、学習心理学関連の理論について学ぶ。第8回・第9回で学習についての代表的理論をおさえ、第10回以降は、思春期・青年期の発達課題を学びつつ、同時に、悩み多き怒涛の時代にいかにして主体的学習を確立していけばよいか、または若者の学習をどのようにリードしていけばよいかをライフイベントとからめながら学生と一緒に考えていく。 学生からの質問を含む「レスポンスペーパー」や随時設定する「ディスカッション」等を通じて学習を進めていく。また、教育者自身の自己理解を深めるため、査定・ワークを2回に分けて実施する。		
<履修条件> 特にない。		
<授業計画> 第1回 心とは―――魂と霊（三分法と二分法）、自我・超自我・エス、自我防衛 第2回 心理発達基礎理論(1)―――エリクソン、8つのライフサイクル 第3回 心理発達基礎理論(2)―――フロイトとエディプス期、ピアジェの認知発達論 第4回 自分自身を知るⅠ―――認知行動療法、投影法、ジョハリの窓 第5回 乳児期―――クラインの対象関係論、バウンダリー、精神病理・パーソナリティ障害 第6回 幼児期―――マラーの分離・個体化理論、土居健郎の甘え理論 等 第7回 児童期―――児童期課題（勤勉性と劣等感）、コールバーグの道徳性発達 第8回 学習心理学関連Ⅰ―――記憶、動機づけ、思考と言語 等 第9回 学習心理学関連Ⅱ―――集団づくり、社会的学習（バンデュラ）、教育評価（ブルーム）等 第10回 思春期(1)―――思春期の特徴（乳幼児期との比較をとおして生徒を理解する） 第11回 思春期(2)―――思春期の課題（不登校、いじめ、ゲーム依存、リストカット 等） 第12回 青年期(1)―――青年期のライフイベント、現代青年のヤマアラシ・ジレンマ 等 第13回 青年期(2)―――キリスト者の心理特性、青年ルター 第14回 自分自身を知るⅡ―――エゴグラム、信仰と自我 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 授業計画にキーワードを2～3個挙げているので、あらかじめ問題意識を深めるために興味のあるワードを最低1個は調べておくこと。質問を最低1つは準備しておくこと。		
<テキスト> 授業中に資料を配布する。		
<参考書・参考資料等> 繁多進 著；木部則雄 監修『基礎講義アタッチメント』（岩崎学術出版社、2019） その他は授業の中で紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を前提とし、授業への参加状況（レスポンスペーパーやディスカッション）による評価、および期末レポート（1回）により評価する。レポートの評価に当たっては、共通評価指標（1）①～⑤を重視する。また提出期限遵守のこと。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
特別支援教育概論		森 真弓	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教育の基礎的理解に関する科目		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			
<授業のテーマ> 発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒について、支援に必要な知識や支援方法を学ぶ。			
<到達目標> 学生は、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、将来、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために、必要な知識や支援方法を理解する。 学生は、ASD、ADHD、LD のみならず、特別支援教育の対象である「視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等」の幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身につける。			
<授業の概要> 特別支援教育とは並びに発達障害とはという大きなテーマの学びから始まり、各障害の特性を理解し、支援方法を学んでいく。ASD、ADHD、LD については其々理解と支援に分けて学ぶ。学生による発表という形をとる。			
<履修条件> 特にない。			
<授業計画> 第1回 ガイダンス（全体の概要と発表者の決定） 第2回 発達障害とは 第3回 特別支援教育とは 第4回 通級による指導 第5回 ASD について 第6回 ASD の支援 第7回 ADHD について 第8回 ADHD の支援 第9回 LD について 第10回 LD の支援 第11回 知的障害と支援 第12回 視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱と支援 第13回 言語障害・情緒障害・重度/重複障害と支援 第14回 母国語や貧困の問題等 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 発表の担当は十分に時間をかけてテキストを準備し、そのテーマについて自分の言葉で伝えられるようにしておく。自分の発表ではない回も、問題意識をもって各回のテーマについて考え、レスポンスペーパーに意見・感想をまとめる。			
<テキスト> 森マミ著『大人になった発達障害の仲間たち』（いのちのことば社、2019年）（担当者が用意する。） その他の資料は授業時に配布する。			
<参考書・参考資料等> （LD 関連3部作）リサ・パップ作 菊田まりこ訳『わたしのそばできいていて』；『いまのわたしにできること』；『わたしはあなたをしんじてる』（WEVE 出版、2016；2019；2021）			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を前提とし、授業への参加状況、発表（1～2回）、レスポンスペーパーにより評価する。発表内容の評価については、共通評価指標（1）①～⑤を重視する。また発表時間20～25分を満たしているかについても評価の対象となる。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
教育課程・特別活動論		山口 博
		<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目>	
	教育の基礎的理解に関する科目	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	
	特別活動の指導法	
<授業のテーマ>		
「特別活動指導法」及びカリキュラム・マネジメントを含めた「教育課程の意義及び編成の方法」の内容を学ぶ。キリスト教を標榜する中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）における特別活動の位置を学ぶ。		
<到達目標>		
受講生が教育課程（カリキュラム）における特別活動の意義を踏まえ、赴任校において学校礼拝等の実際に当たれることを到達目標とする。		
<授業の概要>		
学習指導要領の主旨に沿った中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）の意義と編成を、現状を踏まえつつ全体的に把握したい。その上で特別活動のあり方を諸局面に即して検討し、それらの集団活動を通して、生徒の個性と人間性を育成する道筋を明らかにしていく。授業後半に学校礼拝奨励のプレゼンを課題とする。		
<履修条件>		
教職免許状取得希望者		
<授業計画>		
第1回	序論	キリスト教を標榜する中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）及び特別活動
第2回	学習指導要領の変遷	
第3回	教育課程（カリキュラム）の意義と評価	
第4回	教育課程（カリキュラム）の編成と現状	
第5回	キリスト教学校における教育課程（カリキュラム）	
第6回	カリキュラム・マネジメントの実施と評価	
第7回	特別活動の目標	
第8回	ホーム・ルーム活動の意義と特質	
第9回	学校行事の意義と特質、現状分析	
第10回	学校礼拝の意義と特質	（これ以降の授業後半において学校礼拝奨励のプレゼンを全員に課す）
第11回	式典について	
第12回	生徒会活動とクラブ活動について	
第13回	ボランティア活動と国際交流について	
第14回	総合的な学習について	
第15回	総括	
<準備学習等の指示> 1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。学校礼拝奨励等の原稿提出準備を課す。		
<テキスト>		
『中学校学習指導要領』文部科学省（最新版）「特別活動編」を扱う。		
『高等学校学習指導要領』文部科学省（最新版）「特別活動編」を扱う。		
『中学校学習指導要領解説』文部科学省（最新版）「特別活動編」を扱う。		
『高等学校学習指導要領解説』文部科学省（最新版）「特別活動編」を扱う。		
文部科学省、HPよりダウンロードも可。		
<参考書・参考資料等>		
『キリスト教学校に勤めるということ』―現場の声― キリスト教学校教育同盟 監修		
<学生に対する評価（方法・基準）>		
レポート及び試験と授業への参加姿勢によって評価。評価にあたっては「共通評価指標（1）」によって行う。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
道徳指導法		菱刈 晃夫	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校）		
	＜科目＞ 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 道徳の理論及び指導法		
＜授業のテーマ＞ 教職志望者にとって必要不可欠な、道徳教育に関する教育学的知識と実践的指導力の修得をテーマとする。			
＜到達目標＞ 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。			
＜授業の概要＞ 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等について概説し、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身につける。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第1回：導入・「道徳」への問い。道徳とは、道徳教育とは。道徳教育の課題(いじめ・情報モラル)について。 第2回：道徳の本質（１）「道徳」の語義について。 第3回：道徳の本質（２）近代の「道徳について」。 第4回：道徳の本質（３）現代の「道徳」について。いじめ・情報モラル等について。 第5回：道徳教育(補足して宗教教育)の歴史について。 第6回：学校教育のなかの道徳教育—学習指導要領など—（１）。 第7回：学校教育のなかの道徳教育—道徳教育の指導計画など—（２）。 第8回：中学生における道徳性の発達段階とその特徴。 第9回：道徳の授業の基本型について。 第10回：道徳授業の構想に基づく指導案の作り方について—教科書、読み物資料を用いた授業—。 第11回：学生による「道徳の内容」別模擬授業（１）。中学校１年生を中心に。予備学習として指導案作成・提出。 第12回：学生による「道徳の内容」別模擬授業（２）。中学校２年年を中心に。予備学習として指導案作成・提出。 第13回：学生による「道徳の内容」別模擬授業（３）。中学校３年年を中心に。予備学習として指導案作成・提出。 第14回：学生による「道徳の内容」別模擬授業（４）。中学校全学年より補足。予備学習として指導案作成・提出。 第15回：道徳授業の創意工夫、そして総括。 定期試験は実施しない。			
＜準備学習等の指示＞ １回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。 授業中に指示された箇所を予め読んでワークシートに要点を記し、授業後には振り返ってまとめておくこと。			
＜テキスト＞ 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（最新版、文部科学省、HPよりダウンロードでも可）。 菱刈晃夫『教育にできないこと、できること—基礎・実践・探究—〔第５版〕』（成文堂、2022年）。各自で購入すること。必ず最新の〔第５版〕であること。			
＜参考書・参考資料等＞ 特になし。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 模擬授業および指導案作成の内容(40%)。レポート試験(30%)。平常点(30%)。平常点は、毎時間ごとのワークシートの記入状況を総合して判断する。評価にあたっては、共通評価指標（１）の①～④の内容を重視する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教育の方法と情報技術		竹井 潔	<担当形態> 単独
前期・２単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
		教育の方法及び技術	
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	
<授業のテーマ>			
学生が教育の方法論や教育技術、情報通信技術を理解して授業を設計し、その中で情報機器を活用した効果的な授業展開が行えるような能力を身に着ける。			
<到達目標>			
学生が中学、高等学校の授業において教育の方法論や教育技術、情報通信技術（ICT）を理解して情報機器や教材を適切に活用し、多角的な授業展開が行えるようにする。			
<授業の概要>			
教育の方法論や教育技術および情報通信技術（ICT）を活用した教育の理論及び方法について理解する。 将来教員になった場合、教育の方法論や教育技術を理解し、情報通信技術（ICT）を適切に活用することにより、受講者の立場に立ったわかりやすい授業展開ができるような能力を実践的に身に着ける。学生が授業の設計を行い、パソコンでプレゼンテーションソフト等により授業の教材を作成し、実際に模擬授業を行う。			
<履修条件>			
パソコンを使うため、パソコンの基本操作や Microsoft Office ソフトの基本的な操作ができること。または情報基礎を履修していること。			
<授業計画>			
第１回	学習指導要領と教育方法		
第２回	教育方法とアクティブラーニング		
第３回	アクティブラーニングの方法と進め方		
第４回	創造的なグループワークの方法と進め方		
第５回	プレゼンテーションの方法と進め方		
第６回	プレゼンテーションの技術、留意点		
第７回	授業での学習指導案（授業プラン、進め方・方法）作成の方法		
第８回	情報化の進展と教育の情報化		
第９回	情報通信技術（ICT）の基本的知識の理解		
第１０回	情報活用能力の育成（情報モラル含む）		
第１１回	教科等の指導における情報通信技術（ICT）の活用		
第１２回	校務における情報化の推進		
第１３回	教育情報セキュリティの理解		
第１４回	学校における情報通信技術（ICT）環境の整備		
第１５回	情報通信技術（ICT）を活用した授業の進め方と留意点		
<準備学習等の指示> １回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 授業中に必要に応じて指示する。			
<テキスト>			
授業中に必要に応じて指示する。			
<参考書・参考資料等>			
文部科学省「中学校学習指導要領」・「中学校学習指導要領解説」総則（最新版） 文部科学省「高等学校学習指導要領」・「高等学校学習指導要領解説」総則編（最新版） 文部科学省「教育の情報化に関する手引」（最新版）			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
平常点（５０％）・期末課題（５０％） 平常点及び期末課題の評価にあたっては、共通評価指標（１）の①～⑤の内容を重視する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
生徒・進路指導論		水口 洋	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<授業のテーマ> 生活指導・進路指導及びキャリア教育の学校教育における目的・内容・方法について理解を深め、より現実的で実際の指導法と生徒との関わり方を探求する。			
<到達目標> 生徒指導・進路指導及びキャリア教育の目的・内容・方法を具体的に理解する。現在の学校教育の中での問題点を知る。聖書科教員としての生徒との関わり方を考察し、将来現場での実践に役立てる。			
<授業の概要> 生徒指導・進路指導及びキャリア教育の目的・内容・方法を知り、具体的な事柄や現場の出来事を通して、実際にキリスト教学校の教員となった時に、その教育を担う者として心すべき生徒指導・進路指導・生徒理解のあり方を考察する。			
<履修条件> 教職課程履修者			
<授業計画> 第 1 回 授業内容ガイダンス～生徒指導を可能にするもの 第 2 回 生徒指導と教育課程①～授業を整える 第 3 回 生徒指導と教育課程②～特別活動を通してのキャリア教育 第 4 回 生徒指導と教育課程③～進路を見据えた総合的な学習の展開 第 5 回 生徒指導と教育課程④～道徳教育とキャリア教育 第 6 回 生徒指導と教育課程⑤～自己実現を目指しての進路指導・キャリア教育 第 7 回 生徒指導と進路指導・キャリア教育との相関関係 第 8 回 生徒指導・進路指導とホームルーム担任 第 9 回 魂に触れる指導（キリスト教学校の独自性） 第 10 回 問題行動の理解と指導①～同質性が生む問題 第 11 回 問題行動の理解と指導②～SNS の浸透と人間関係の変化 第 12 回 問題行動の理解と指導③～発達障がいもたらすもの 第 13 回 問題行動の理解と指導④～生活指導の諸問題 第 14 回 問題行動の理解と指導⑤～家族の問題 第 15 回 まとめと総括～未来へ向けての生徒指導とチーム力			
<準備学習等の指示> 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 毎回レポートを提出することで学習内容を確認する。次週の準備を指示し予習を行うことを義務付ける。			
<テキスト> 文部科学省「生徒指導提要」（最新版） 文部科学省「中学校学習指導要領」（平成 30 年 3 月 東山書房） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説・総則編」（平成 31 年 1 月 東洋館出版社） 文部科学省ホームページよりダウンロードも可			
<参考書・参考資料等> 水口洋「教育を考えるあなたに」（いのちのことば社 2006 年） 他は授業中に指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート、発表、授業への貢献度を総合的に評価する。共通評価指標（1）①、③、④で評価する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
教育相談・総合的な学習の時間の指導法		水口 洋
		<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 〔中学校〕総合的な学習の時間の指導法 〔高等学校〕総合的な探究の時間の指導法	
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	
<授業のテーマ> 思春期の発達とその課題を知り、教師としての対応やカウンセリングマインドを持って接する際の問題点を知り、総合的な学習（探究）の時間の指導法を用いて、人間理解と具体的な対応力を身につけていく。		
<到達目標> ①思春期・青年期の発達の課題を理解する。 ②生徒をわかろうとする心（カウンセリングマインド）を働かす現場の必要を理解する。 ③総合的な学習（探究）の時間の指導法を学び、その手法を身につける。 ④カウンセリングの基礎理論及び知識の習得と教育相談の実際を学ぶ。		
<授業の概要> 教育相談が成立するためには、教師と生徒の関係性が構築されていなければならない。教師が自分の準拠枠を外して生徒の心に寄り添うにはカウンセリングマインドを持って接することが大事とされる。生活指導とカウンセリングが車の両輪として、教師の人格の中に、学校という組織の中に矛盾なく存在するために、磨くべき知識と行動を学ぶ。学校に起こる現実問題を事例として「総合的な学習（探究）の時間」の指導法を用いて学び、生徒が主体的に学ぶための力を養成するとともに、その指導法を身につける。		
<履修条件> 教職課程履修者		
<授業計画> 第 1 回 カウンセリングの基礎知識①～生徒を理解する 第 2 回 カウンセリングの基礎知識②～日本の学校教育と相談活動 第 3 回 カウンセリングの基礎知識③～生徒をどう観るのか 第 4 回 カウンセリングの基礎知識④～演習「相手を知る・自分を知る」 第 5 回 事例を通して考える①～不登校、いじめ 第 6 回 事例を通して考える②～自傷、依存、摂食障害 第 7 回 事例を通して考える③～暴力行為、非行 第 8 回 事例を通して考える④～発達障害と愛着障害 第 9 回 「総合的な学習の時間の指導法」の意義と原理①～役割、目標、実施 第 10 回 「総合的な学習の時間の指導法」の意義と原理②～評価の方法とその留意点 第 11 回 総合的な学習の時間を創造する①～総合的な学習の時間の内容と年間計画・単元計画の立て方 第 12 回 総合的な学習の時間を創造する②～各教科・特別活動との連携の実際 第 13 回 総合的な学習の時間を創造する③～教師の姿勢（ファシリテーターとしての役割） 第 14 回 総合的な学習の時間を創造する④～主体的・対話的な授業展開の創造（演習 1） 第 15 回 総合的な学習の時間を創造する⑤～主体的・対話的な授業展開の創造（演習 2）・まとめ		
<準備学習等の指示> 1 回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 毎回レポートを提出することで学習内容を確認する。次週の準備を指示し、予習を行うことを義務付ける。		
<テキスト> 文部科学省「中学校学習指導要領解説・総合的な学習の時間編」（平成 30 年 3 月 東山書房） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説・総合的な探究の時間編」（平成 31 年 3 月 学校図書） 文部科学省ホームページよりダウンロードも可		
<参考書・参考資料等> 水口 洋「人生の季節の中で」（いのちのことば社 2010 年） 他は授業中に指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート、発表、授業への貢献度を総合的に評価する。共通評価指標（1）①、②、④、⑤で評価する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
教育実習Ⅰ	小泉 健 長山 道	<担当形態> 複数
通年・５単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校）、選択科目（高等学校）	
	<科目> 教育実践に関する科目	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教育実習	
<授業のテーマ> 教育実習校での実習を中心として、学校教員の働きを実地に学ぶ。		
<到達目標> 聖書科授業を行うための実践的教授力、指導力を身に着ける。その他の学校教員の職務について理解する。		
<授業の概要> キリスト教学校で教育実習が行われる。学内では事前、事後の指導を行う。		
<履修条件> 前年度に教育実習予備登録を済ませ、実習校から受け入れ通知を得ていること。		
<授業計画> １．教育実習事前指導 ４月１７日（月）９時～１６時 教育実習の意義と心得、内容、生徒理解等について講義を行う。 ２．実習校での教育実習 ３．教育実習事後指導 １２月４日（月）９時～１６時 全員が教育実習の振り返りの報告をし、それに基づいて討論する。 報告すべき内容については、あらかじめ通知する。 事前指導と事後指導を含む全体で本学の授業としての「教育実習」が構成されている。事前指導、事後指導を欠席すると、教育実習の単位そのものを取得できない。必ず出席すること。		
<準備学習等の指示> 実習校での実習にあたっては、事前指導に基づいて適切に準備すること。 事後指導では報告の発表を求めるので、準備した上で授業に臨むこと。		
<テキスト> 必要に応じてプリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> 『キリスト教学校に勤めるということ——現場からの声』キリスト教学校教育同盟 『キリスト教学校の教職員をこころざす人たちへ——志望者のためのガイドブック』キリスト教学校教育同盟 いずれも担当者が用意する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習校からは「成績報告書」が送られてくる。そこでの評価を参考にしつつ、さらに事後指導での発表、討論を踏まえて総合的に評価する。 実習なので共通評価指標は必ずしも当てはまらないが、事後指導での発表については、（１）の⑤を重視する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教育実習Ⅱ		小泉 健 長山 道	<担当形態> 複数
通年・3単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択必修科目（高等学校）		
	<科目>		
	教育実践に関する科目		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教育実習		
<授業のテーマ> 教育実習校での実習を中心として、学校教員の働きを実地に学ぶ。			
<到達目標> 聖書科授業を行うための実践的教授力、指導力を身に着ける。その他の学校教員の職務について理解する。			
<授業の概要> キリスト教学校で教育実習が行われる。学内では事前、事後の指導を行う。			
<履修条件> 前年度に教育実習予備登録を済ませ、実習校から受け入れ通知を得ていること。			
<授業計画> 1. 教育実習事前指導 4月17日（月）9時～16時 教育実習の意義と心得、内容、生徒理解等について講義を行う。 2. 実習校での教育実習 3. 教育実習事後指導 12月4日（月）9時～16時 全員が教育実習の振り返りの報告をし、それに基づいて討論する。 報告すべき内容については、あらかじめ通知する。 事前指導と事後指導を含む全体で本学の授業としての「教育実習」が構成されている。事前指導、事後指導を欠席すると、教育実習の単位そのものを取得できない。必ず出席すること。			
<準備学習等の指示> 実習校での実習にあたっては、事前指導に基づいて適切に準備すること。 事後指導では報告の発表を求めるので、準備した上で授業に臨むこと。			
<テキスト> 必要に応じてプリントを配布する。			
<参考書・参考資料等> 『キリスト教学校に勤めるということ——現場からの声』キリスト教学校教育同盟 『キリスト教学校の教職員をこころざす人たちへ——志望者のためのガイドブック』キリスト教学校教育同盟 いずれも担当者が用意する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習校からは「成績報告書」が送られてくる。そこでの評価を参考にしつつ、さらに事後指導での発表、討論を踏まえて総合的に評価する。 実習なので共通評価指標は必ずしも当てはまらないが、事後指導での発表については、(1)の⑤を重視する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教職実践演習（中・高）		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位		＜登録条件＞ 教職課程の最終段階で履修する	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教育実践に関する科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 教職実践演習		
＜授業のテーマ＞ 教職課程全体を振り返り、不足している知識、技能を補い、教員として必要な資質能力を養う。			
＜到達目標＞ 教職に関する科目と教科に関する科目とが統合され、学校教員として必要な資質能力として結実すること。			
＜授業の概要＞ 各自が自分で補うべきテーマを発見、設定し、役割演技、事例研究、模擬授業などを行いながら、教員としての資質能力を実践的に確認する。			
＜履修条件＞ 第１回の授業に、記入済みの「履修カルテ」を持参すること。 教育実習を終えているか、もしくは本年度に教育実習を行う者であること。			
＜授業計画＞ 第１回 教職課程の振り返りと課題の発見 第２回 キリスト教学校の使命と宗教主任の役割 第３回 カリキュラムの構想、授業をする力 第４回 教師としての話し方・聞き方 第５回 聖書教育、道德教育、こころの教育 第６回 教会との協力 第７回 生徒理解 第８回 個々の子どもの特性や状況への対応、いじめや不登校への対応 第９回 学級経営 第１０回 他の教職員との協力 第１１回 保護者会、保護者への伝道 第１２回 学校礼拝の形成、学校行事での役割 第１３回 授業における ICT 活用の工夫 第１４回 ICT を活用した模擬授業 第１５回 聖書科における ICT 利用をめぐる検討			
＜準備学習等の指示＞ １回の授業あたりの授業外学習は 180 分～240 分を目安とする。 毎回のテーマについて主体的に参加できるように準備する。自分の発表の準備をていねいに行う。			
＜テキスト＞ 必要に応じて、授業時にプリントを配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ これまでの教職課程の授業で用いた文献、ノート等がすべて参考資料となる。 発表に必要な参考資料については、個別に指導する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 演習における発表と参加によって評価する。共通評価指標（１）の④と⑤を重視する。			